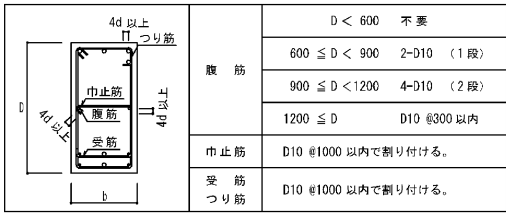


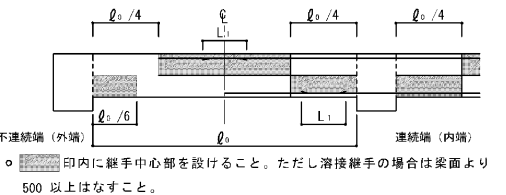
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２） ２０２５年度版

4-4
補助筋

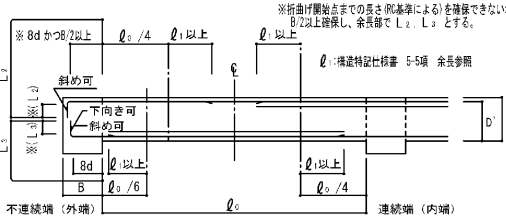


4-5
小梁及び片持梁

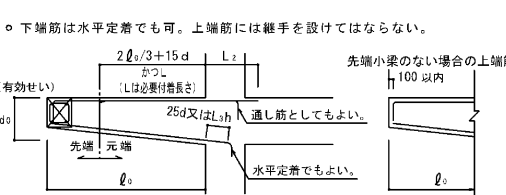
a) 小梁継手



定着

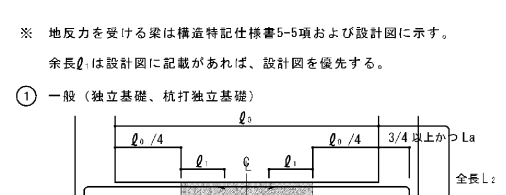


b) 片持梁継手

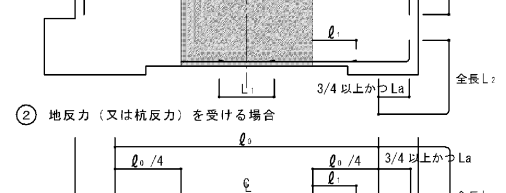


4-6
基礎梁及び基礎小梁

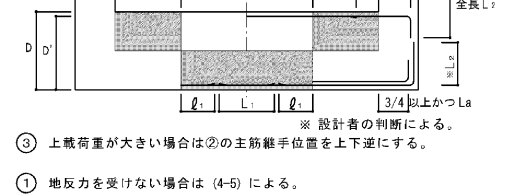
a) 基礎梁の継手及び定着



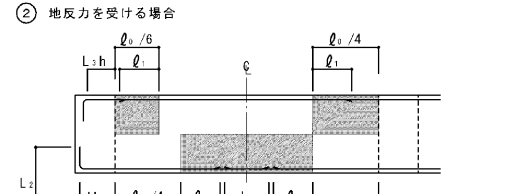
b) 基礎小梁の継手及び定着



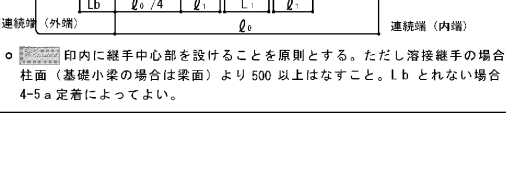
基礎梁の継手及び定着



基礎小梁の継手及び定着



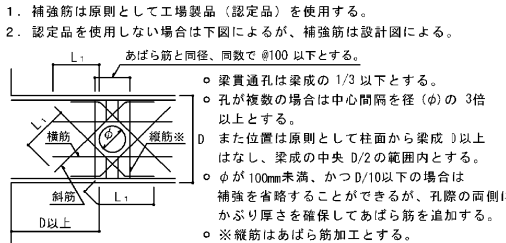
基礎梁の継手及び定着



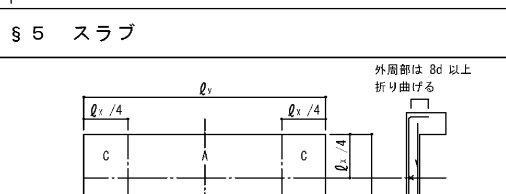
基礎小梁の継手及び定着



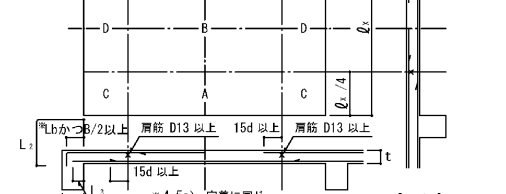
4-7
梁の貫通補強



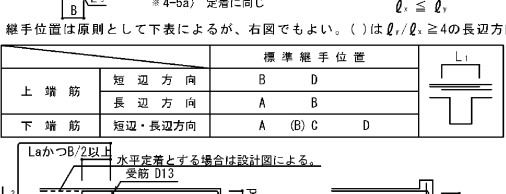
5-1
鉄筋の折り曲げ及び定着



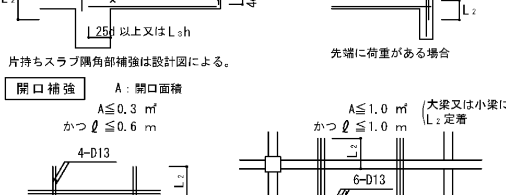
5-2
継手



5-3
片持ちスラブ



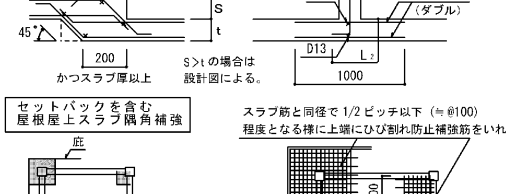
5-4
補強筋



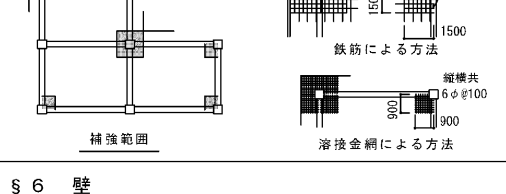
5-5
基礎梁及び基礎小梁



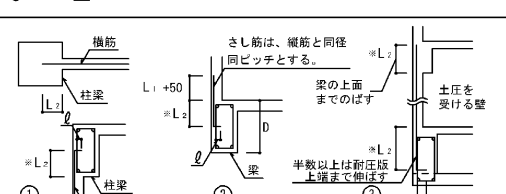
5-6
基礎梁の継手及び定着



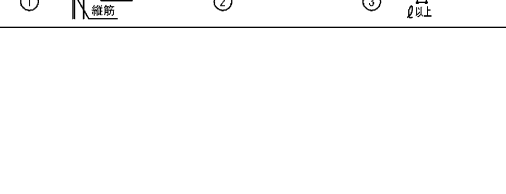
5-7
基礎小梁の継手及び定着



5-8
基礎梁の継手及び定着



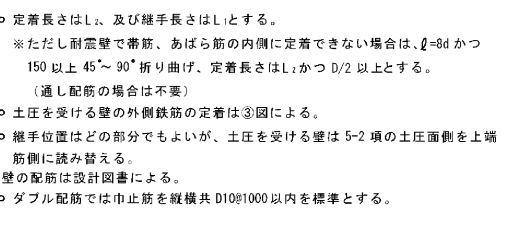
5-9
基礎小梁の継手及び定着



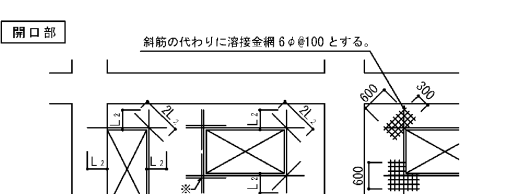
5-10
基礎梁の継手及び定着



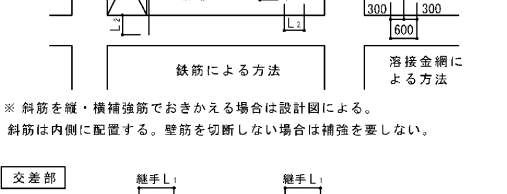
6-1
壁の貫通補強



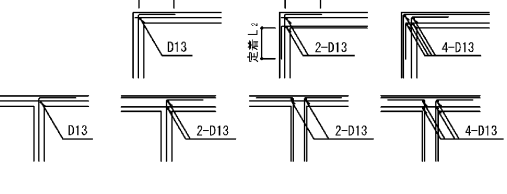
6-2
開口部



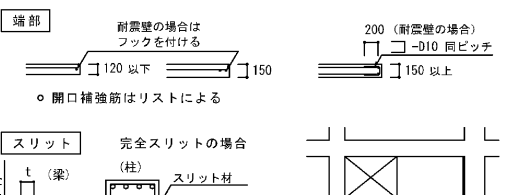
6-3
交差点



6-4
端部



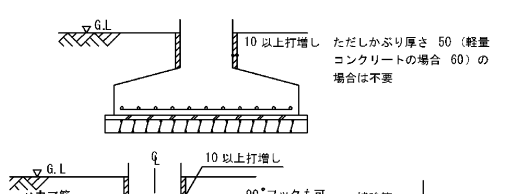
6-5
スリット



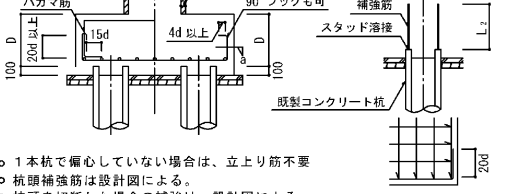
6-6
完全スリット



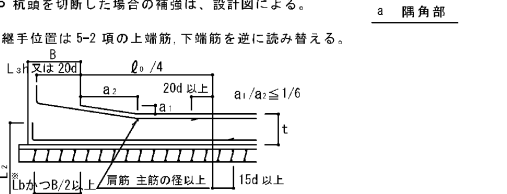
6-7
スリット材



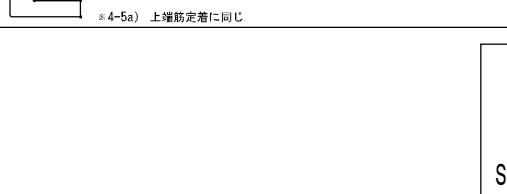
6-8
スリット材



6-9
スリット材



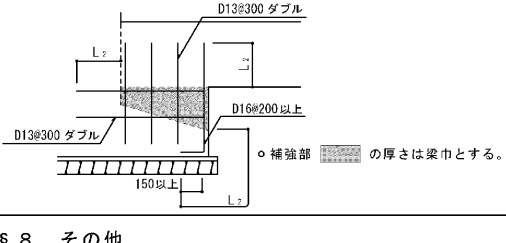
6-10
スリット材



6-11
スリット材



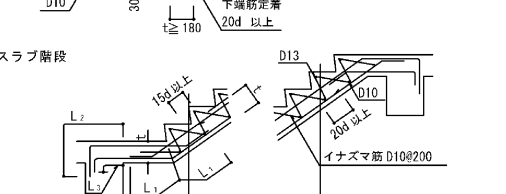
7-4
基礎と基礎梁



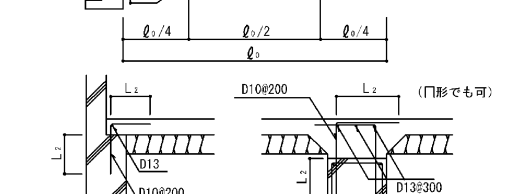
8-1
階段



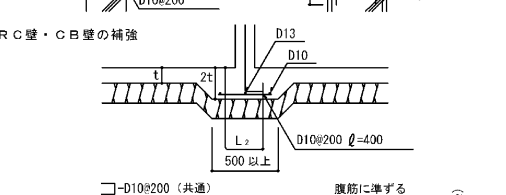
8-2
土間コンクリート



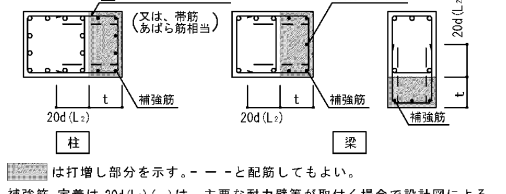
8-3
打増し補強



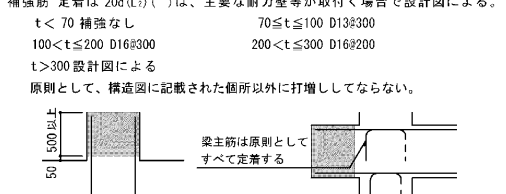
8-4
増築予定



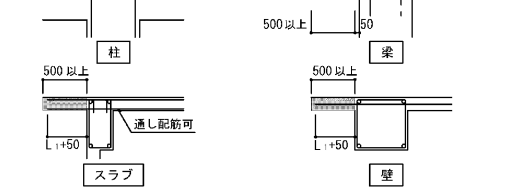
8-5
増築予定



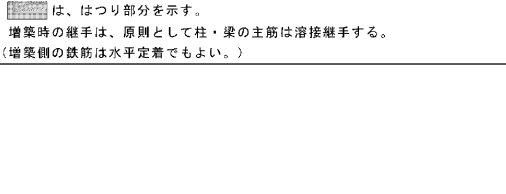
8-6
増築予定



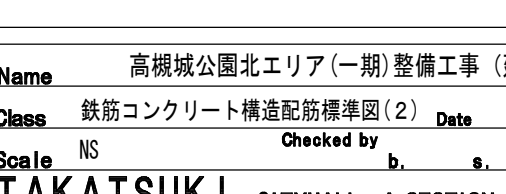
8-7
増築予定



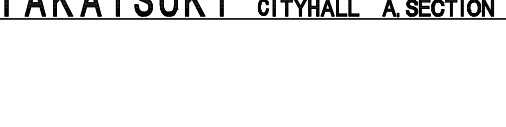
8-8
増築予定

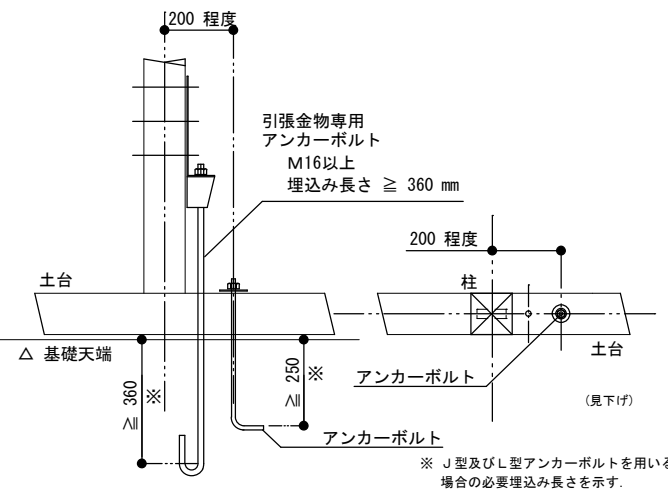
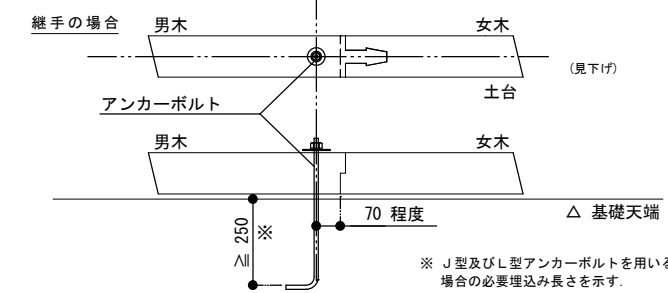
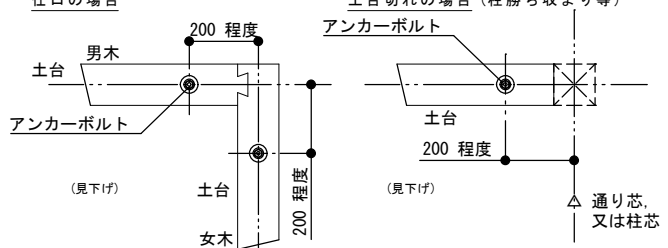
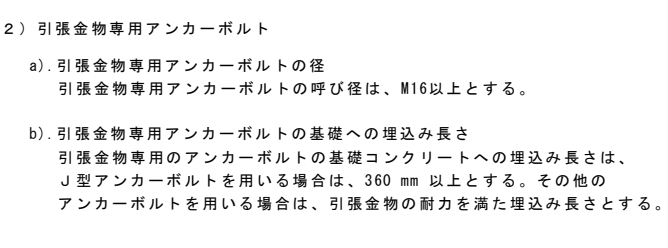


8-9
増築予定



8-10
増築予定



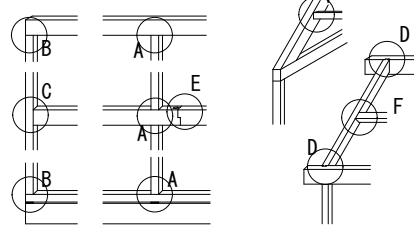
木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 (1)			
1. 一般事項	2. 材料	3. アンカーボルト	4. 接合一般
<p>(1) 適用範囲</p> <p>※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。</p> <p>木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>(2) 設計図書</p> <p>設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>(3) 準拠する図書</p> <p>設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）</p> <p>「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修） 「公共建築木造工事標準仕様書 令和7年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修） 「木造計画・設計基準 令和7年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修） 「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年版）」（日本住宅・木材技術センター） 「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」（2015年改訂版）</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>(4) 設計図書の優先順位</p> <p>設計図書の優先順位は下記による。</p> <div><div>1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）</div><div>2. 設計図</div><div>3. 特記仕様書</div><div>4. 本標準図</div></div> <p>意匠図参照</p> <p>(5) 疑義</p> <p>疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出</p> <p>工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。</p> <p>(7) 施工図及びプレカット図の提出</p> <p>工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>(8) 製作工場の選定、承諾</p> <p>設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける</p> <p>(9) 各種試験・検査報告書の提出</p> <p>施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合法</p> <p>本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。</p> <p>・継手仕口による在来工法</p> <p>・梁受け金物、及びボゾパイプ等による金物工法</p> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。</p> <p>また、本標準図は在来接合法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。</p> <p>本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項</p> <p>本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。</p> <p>・梁：部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同等～450mm、及び材長6m以下</p> <p>・柱：90角～150角の正方形断面、長さ6m以下</p> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<p>(1) 木材及び木質材料</p> <p>主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>(2) 接合具</p> <p>a) くぎ</p> <p>主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b) 木質構造用ビス</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c) ボルト・ナット・座金</p> <p>1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。</p> <p>・ボルトはJIS B 1051、ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット</p> <p>【 Z マーク表示金物 】 【 D マーク表示金物 】 【 S マーク表示金物 】</p> <p>・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット</p> <p>2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。</p> <p>3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</p> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d) ドリフトピン・ラグスクリュー</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e) 木栓・木ダボ</p> <p>主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。樹種・径等については、特記仕様書で指定する。節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>(3) 接合金物</p> <p>a) 規格金物</p> <p>構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。</p> <p>・JIS A 5531：木構造用金物</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物；</p> <p>Z マーク表示金物、又は C マーク表示金物</p> <p>・同等認定金物；D マーク表示金物</p> <p>・性能認定金物；S マーク表示金物</p> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。</p> <p>使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b) 製作金物</p> <p>製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>(4) 接着剤</p> <p>原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。</p> <p>建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>(5) 防腐防蟻処理及び耐候処理</p> <p>防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。</p> <p>土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<p>※共通事項</p> <p>・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</p> <p>(1) 土台固定用アンカーボルト</p> <p>a). アンカーボルトの埋設位置： アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>-1. 耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部；</p> <p>耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置（柱芯より200mm内外）とする。</p>  <p>※ J 型及び L 型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。</p> <p>-2. 土台切れの端部及び、土台の継手仕口；</p> <p>土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p>  <p>※ J 型及び L 型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。</p> <p>仕口の場合</p>  <p>※ J 型及び L 型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。</p> <p>土台切れの場合（柱勝ち収まり等）</p>  <p>-3. その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>(2) 引張金物専用アンカーボルト</p> <p>a). 引張金物専用アンカーボルトの径</p> <p>引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b). 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ</p> <p>引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J 型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<p>(1) 釘接合</p> <p>・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。</p> <p>・面材表面に対し、釘頭がめり込んではいならない。</p> <p>・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。</p> <p>・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。</p> <p>・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>(2) 木質構造用ビス接合</p> <p>・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの 2／3 程度とする。</p> <p>(3) ボルト接合</p> <p>・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。</p> <p>・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座振り座金等、ナットと座金为一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。</p> <p>・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。</p> <p>(4) ラグスクリュー接合</p> <p>・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。</p> <p>・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。</p> <p>・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。</p> <p>・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。</p> <p>・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。</p> <p>・呼び径 M12以下；+1.0mm</p> <p>・呼び径 M16以上；+1.5mm</p> <p>(5) ドリフトピン接合</p> <p>・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、孔に対しテーバーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>(6) 木栓接合</p> <p>・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</p> <p>(7) グルードインロッド接合</p> <p>・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。</p> <p>・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</p>



木造軸組接合部標準図(2)

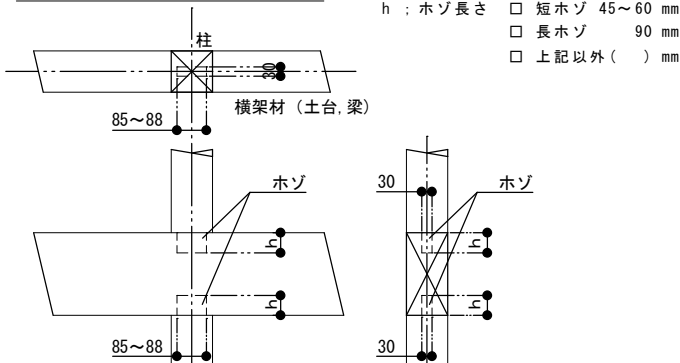
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキーフレーム

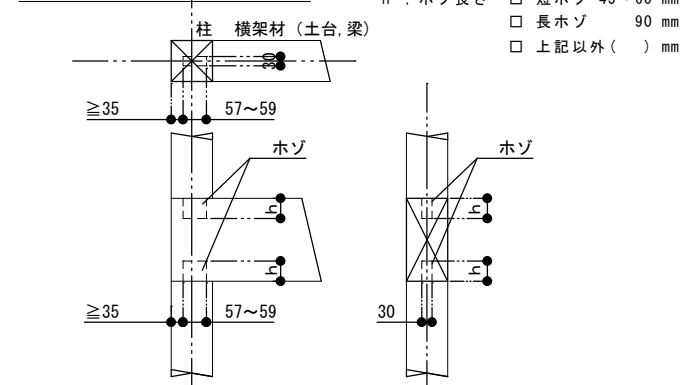


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

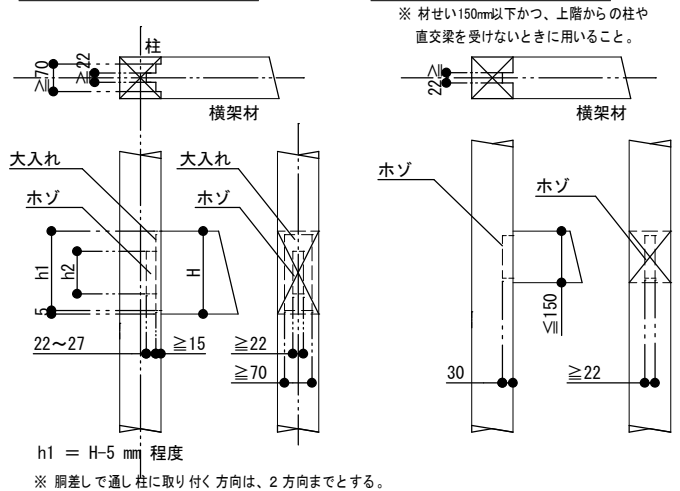
A 柱-横架材仕口：一般部（土台共通）



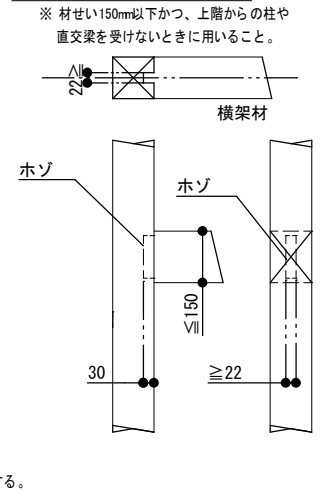
B 柱-横架材仕口：出隅部（土台共通）



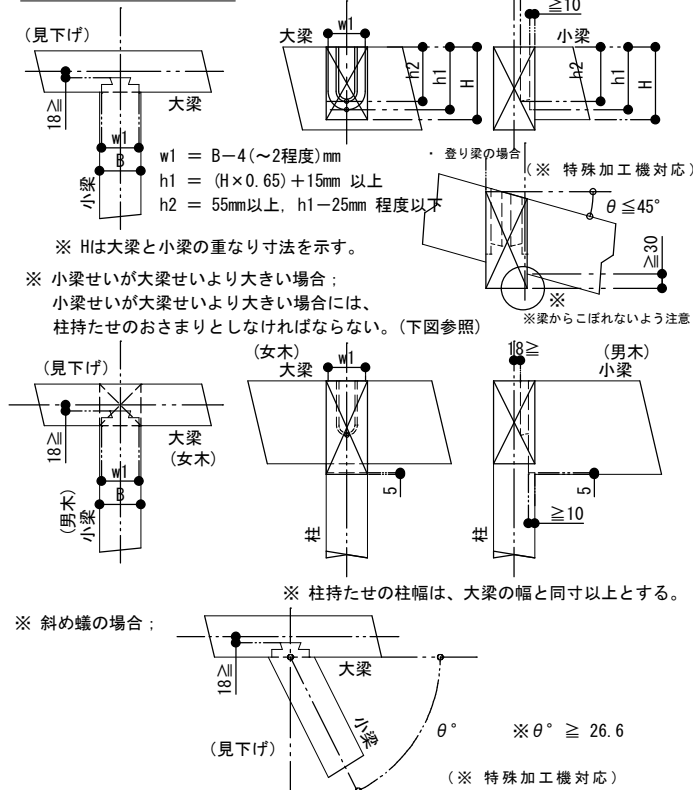
C 通柱-横架材仕口：胴差し



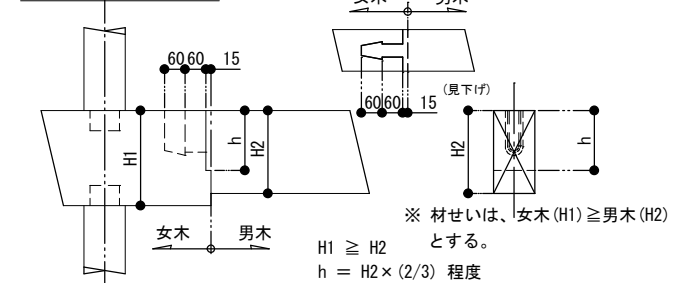
C 通柱-横架材仕口：桁差し



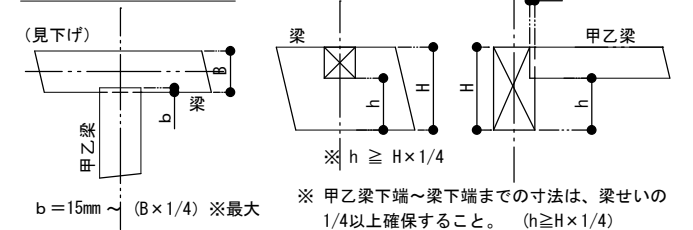
D 大梁-小梁仕口：蟻仕口



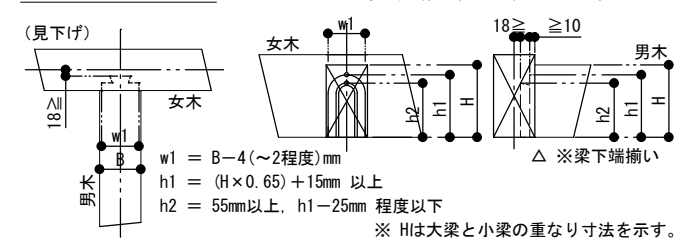
E 梁-梁継手：腰掛継ぎ



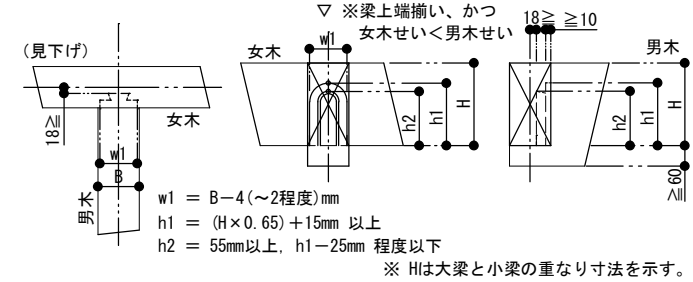
F 梁-甲乙梁仕口：大入れ



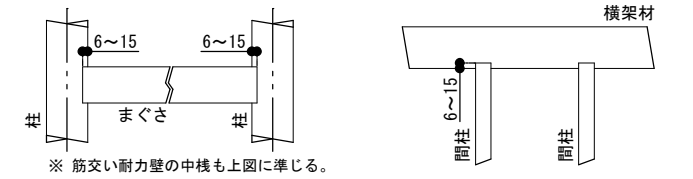
G 梁-梁仕口：逆蟻仕口



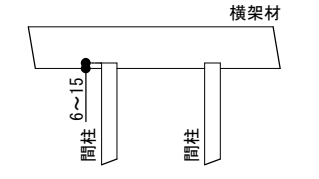
H 梁-梁仕口：茶臼仕口



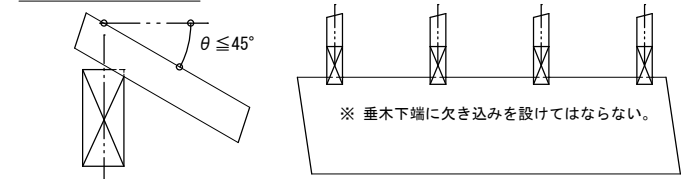
I その他：まぐさ欠き



J その他：間柱欠き



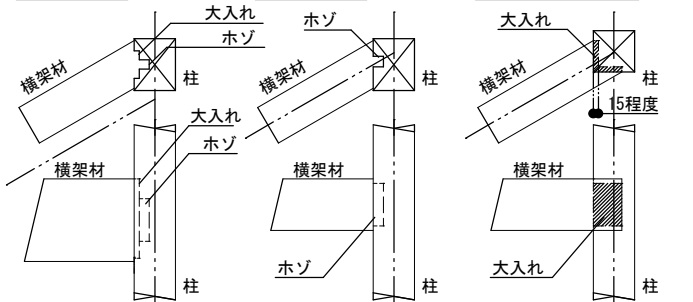
K その他：垂木欠き



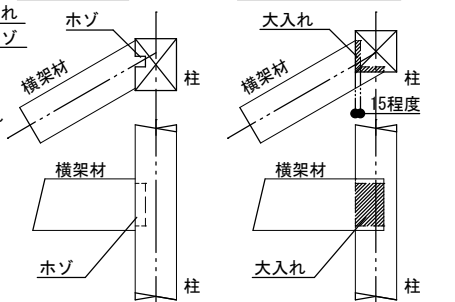
(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

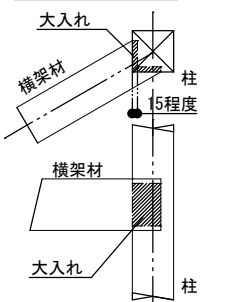
L 斜め胴差し



M 斜め桁差し

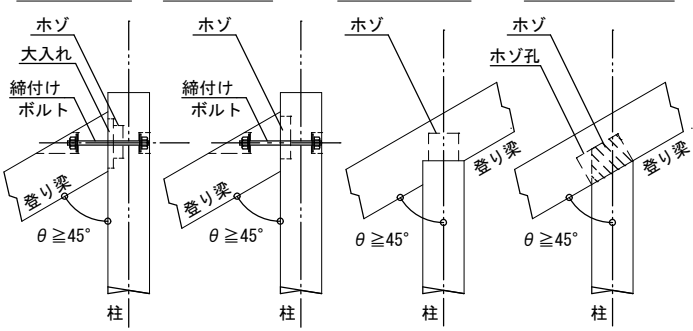


N 斜め柱差し大入れ

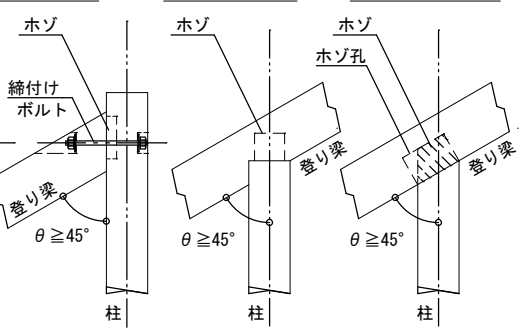


※ L, Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L, Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

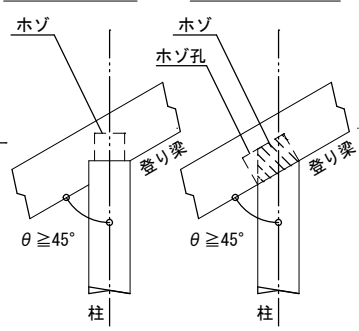
O 登り胴差し



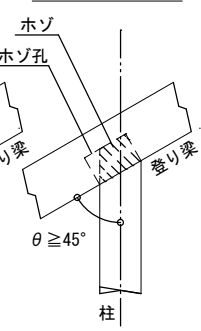
P 登り桁差し



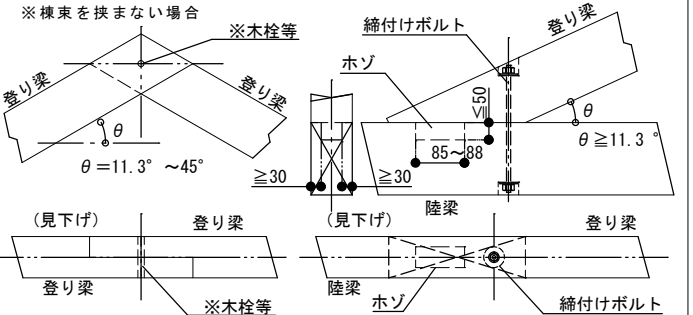
Q 登り斜めホゾ



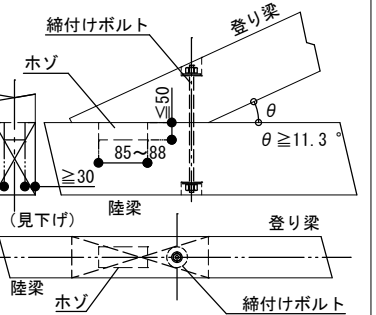
R 登り座付きホゾ



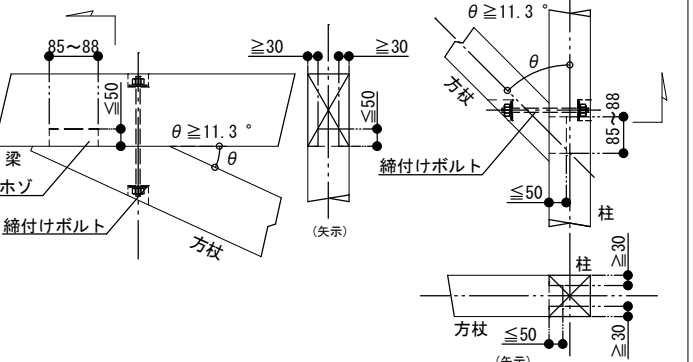
S 登り梁合掌部



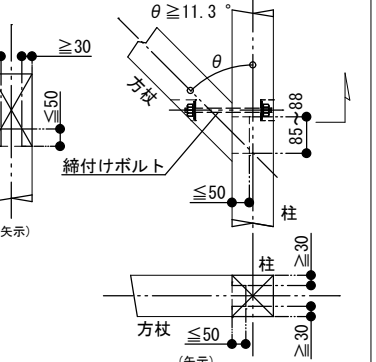
T 登り梁合掌部



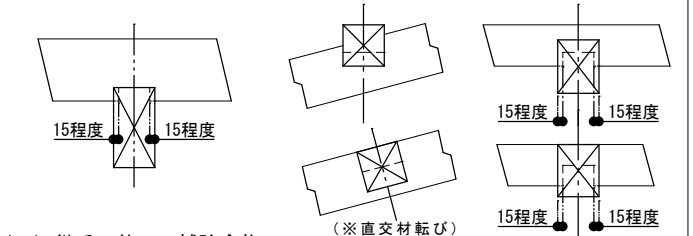
U 方杖-梁仕口



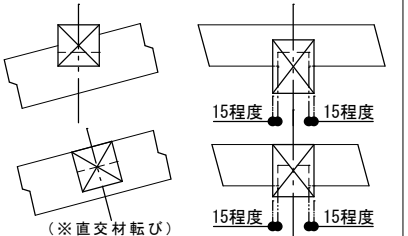
V 方杖-柱仕口



W 渡り頼

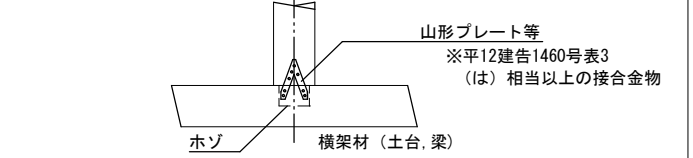


X 登り梁渡り頼

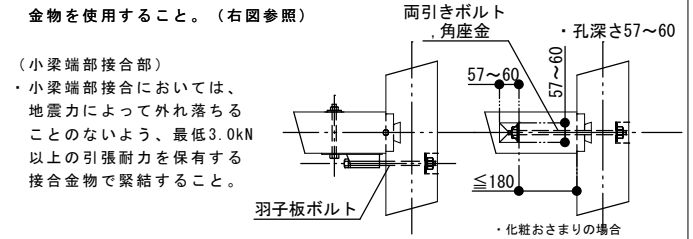
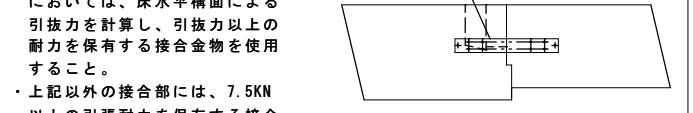


(4) 継手・仕口の補強金物

・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1kN以上の引張耐力を保有する接合金物（平12建告1460号表3に対応する表符号の“は”相当以上）を使用すること。



(梁-梁 接合部)
・水平断面の外周部横架材接合部においては、床水平断面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の接合部には、7.5kN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。（右図参照）



平成30年4月5日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 木造軸組接合部標準図(2)

Sheet No.

Scale NS

Checked by

b. s. l. s.

S-01-5

TAKATSUKI

CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE

41

木造軸組接合部標準図(3)

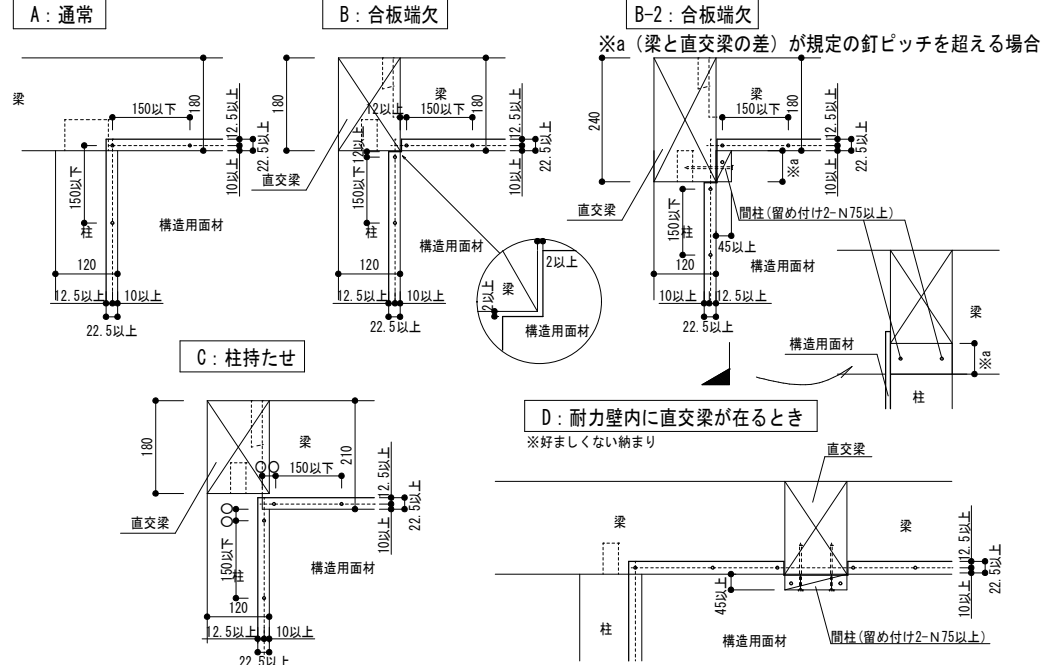
6 B. 昭56建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

(注) (単位)mm

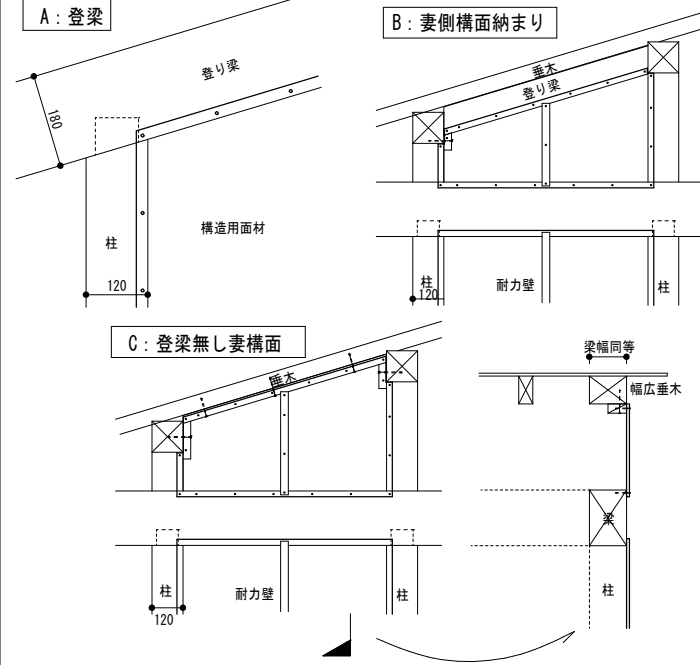
<共通事項>

- ・面材は、9mm以上を標準とする。
- ・梁仕口部及び柱頭柱脚部の接合金物は、木造軸組接合部標準図(2)を参照すること。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および皮付き材は不可とし、四面ビン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ+1本」と読むこととする。

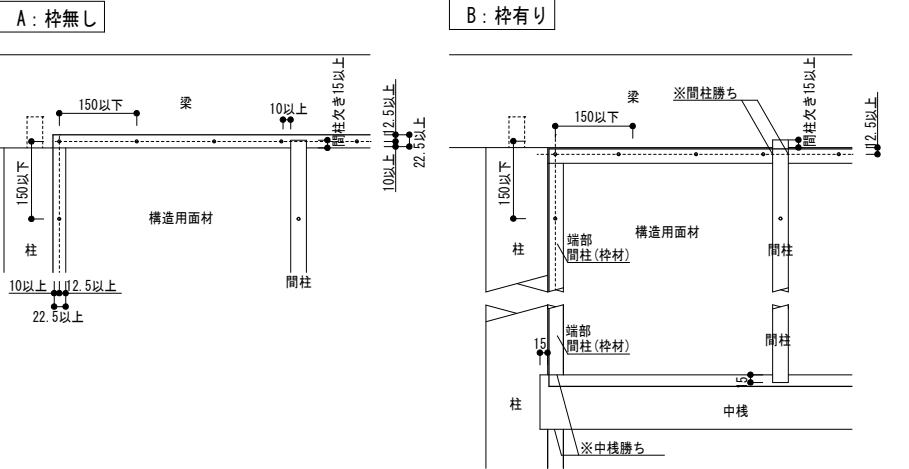
1. 直交梁との取り合い



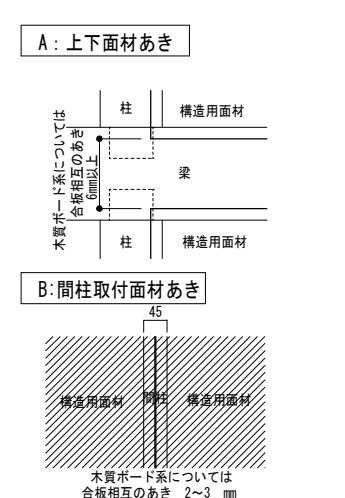
2. 勾配屋根の納まり



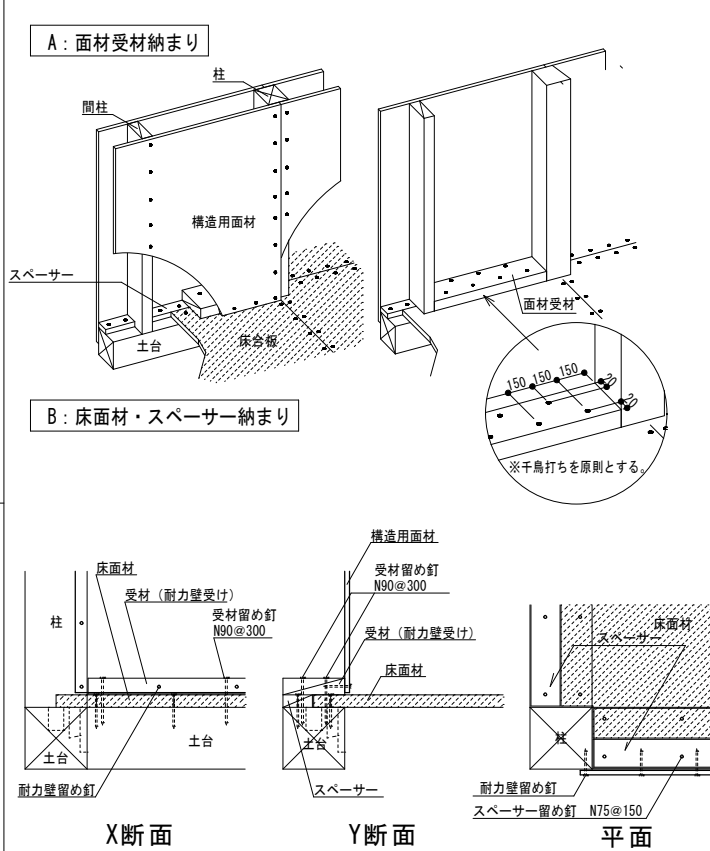
3. 受材・間柱勝ち負けルール



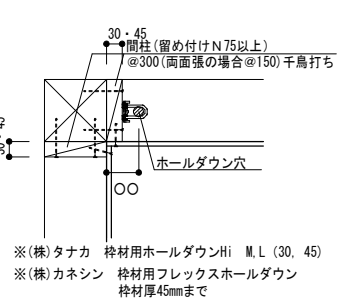
4. 面材相互あきのルール



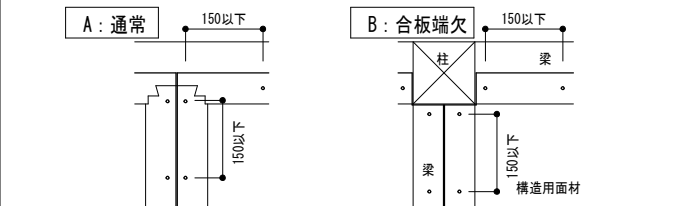
6. 床面材との取り合い



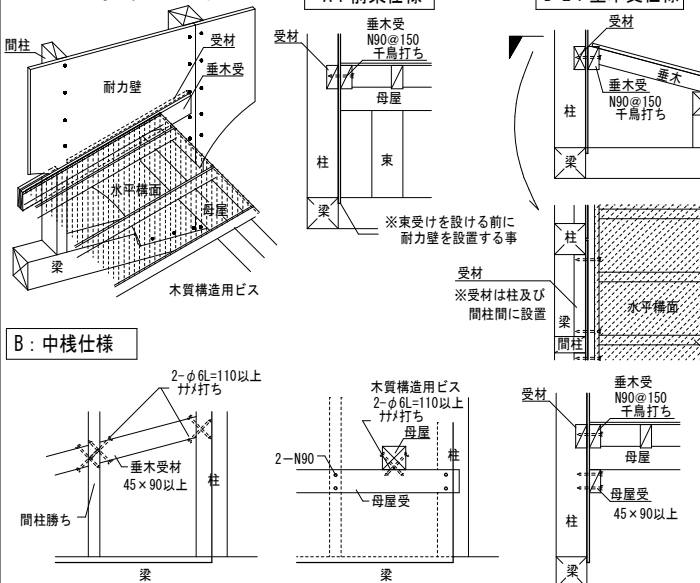
5. 入隅時納めおよび
枠材用ホールダウン納め



7. 水平構面

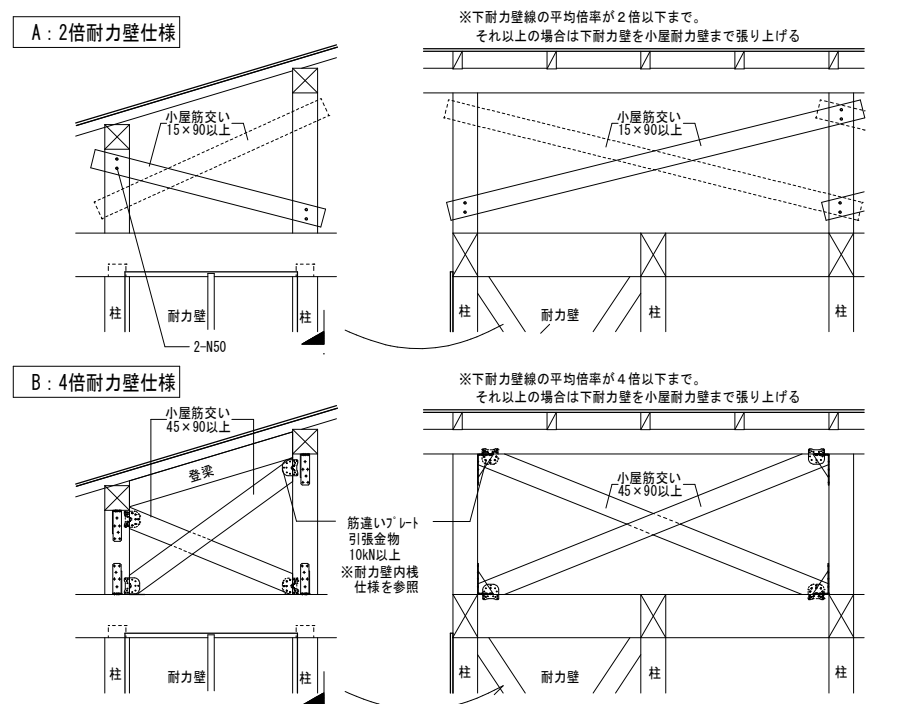


8. 下野部分の納まり

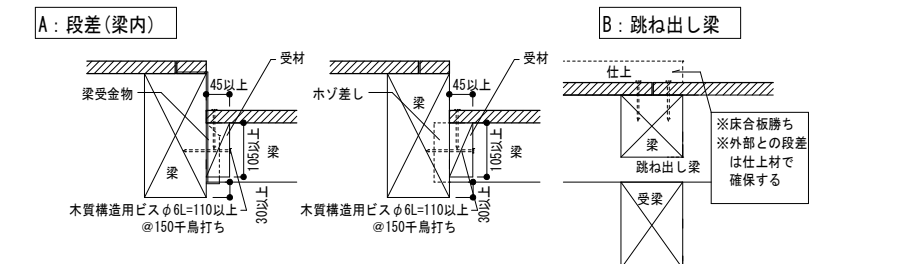


※水平構面を設置する前に耐力壁を施工する事を原則とする。

9. 小屋筋交い



10. 段差



平成30年4月5日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 木造軸組接合部標準図(3)

Sheet No.

Scale NS

Checked by

Date

S-01-6

41

TAKATSUKI

CITYHALL A. SECTION OF ARCHITECTURE

木造軸組接合部標準図(4)

7. 水平構面

(注) (単位)mm

7.1共通事項

- ・各部仕口形状は、(3) 高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2) 5.軸組標準接合部に準ずる。
- ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

- (a) 日の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m
- (b) 川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m

※ 合板は、横架材に対し直交方向に長辺を配置

1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 甲乙梁：幅 45mm 以上 \times せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下

2) 各部仕口形状及び性能

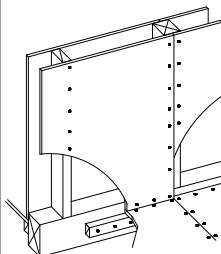
- ④ 各仕口部分：
- 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑦ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ N75 1本斜め打ち

3) 各部への釘打及びビス止め

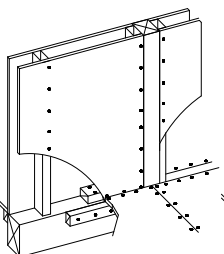
- ⑦ 構造用合板は $N75@150\text{mm}$ 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ⑧ 構造用合板は $N75@150\text{mm}$ 川の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ※ 構造用合板は、実付きとする。

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする
 2mm を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、
換み等に注意する事

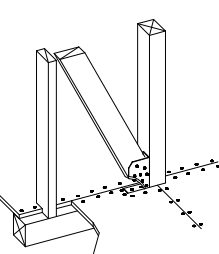
告示耐力壁-床納まり
大壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)



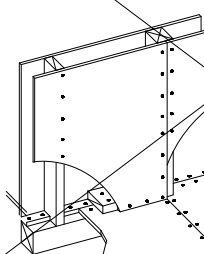
真壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)



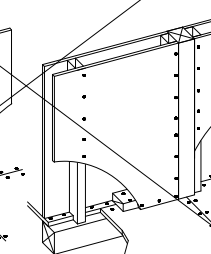
筋違耐力壁-床構面
(筋違勝)



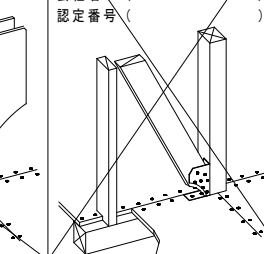
認定仕様例示) 日合連 (JPM) 仕様耐力壁-床勝納まり
大壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0296



真壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0298

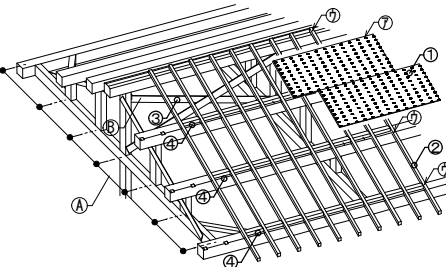


筋違金物による床勝納まり
筋違耐力壁-床構面
(床勝・大臣認定仕様)

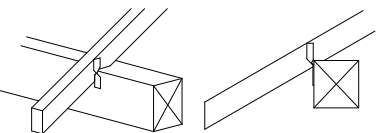


(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

垂木・合板
短期許容せん断耐力
1.67kN/m(勾配面に対して)

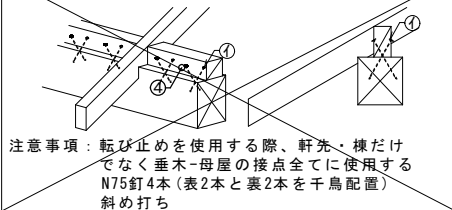


ひねり金物

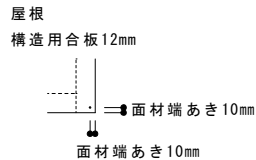


注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけ
でなく垂木・母屋の接点全てに使用する

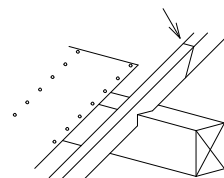
転び止め



注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけ
でなく垂木・母屋の接点全てに使用する
N75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)
斜め打ち



垂木に継手がある場合は
面材の継ぎ目とずらすこと



1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=12\text{mm}$ (横置)
- ② 垂木：幅 $90\text{mm} \times$ せい $120\text{mm} @ 455\text{mm}$ 以下
- ③ 小屋耐力壁：構造用合板 9mm 以上

④ 転び止め：45mm \times 60mm程度

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 母屋ピッチ：1000mm以下
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面でせん断力を伝達できる
よう、耐力壁線以上には同等以上の壁量となるよう小屋
耐力壁(筋違)を設ける事

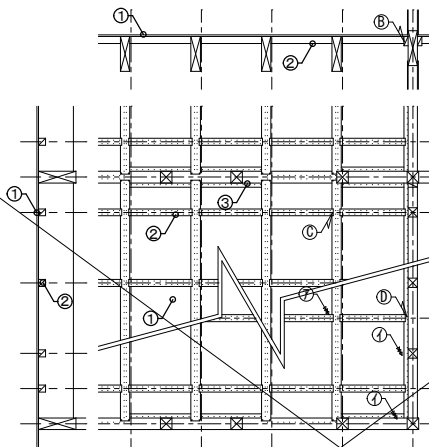
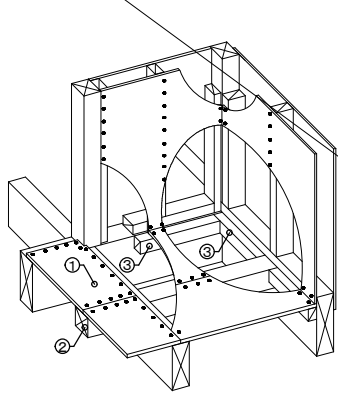
3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板は $N50@150\text{mm}$ で川の字に垂木に留め付ける
- ⑧ 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
- ⑨ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木
の上面に対してN75釘2本打ち

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする

7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

- (1) 2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
- ② 甲乙梁： $90\text{mm} \times 90\text{mm}$ の正角材又は幅 $75\text{mm} \times$ 成 120mm 製材を平使い
- ③ 大梁側面に取り付ける床受材：幅 $55\text{mm} \sim 75\text{mm} \times$ 成 120mm の製材
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ $15\text{mm} \times$ 成 60mm
切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材勝ちの納まりとする
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板は $N75@75\text{mm}$ 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に
留め付ける
- ⑧ 大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビス $\phi 6$ 、 $L130 \sim 150$
を 150mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m(合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m(合板釘ピッチ50mm)

側面図

平面図

側面図

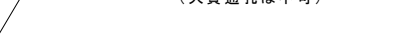
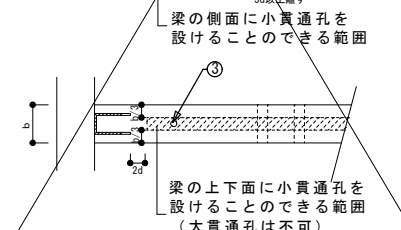
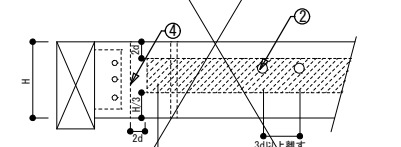
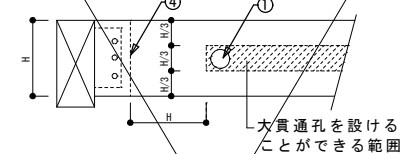
1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
- ② 母屋：幅 $120\text{mm} \times$ 成 120mm の製材
多雪区域(3級及び4級)の場合は幅 $120\text{mm} \times$ 成 150mm の製材
- ③ 軒先転び止め：幅 $105\text{mm} \times$ 成 300mm の製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
- ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板： $t=12\text{mm}$
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
- ⑤ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板
を受ける構成
- ⑥ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 13.5kN/m仕様：構造用合板は $N75@75\text{mm}$ 4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様：構造用合板は $N75@50\text{mm}$ 4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
- ⑧ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス $\phi 5$ 、 $L150$ (頭部径 $\phi 12.5$ 以上
ねじ部長さ 50 以上)1本を斜め打ちとする
- ⑨ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、 $N50$ くぎを 50mm ピッチの
千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

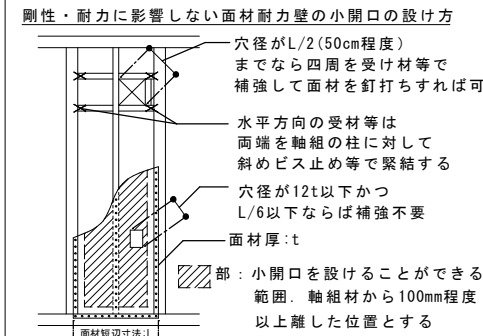
8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔： $d \leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔： $d \leq 30\text{mm}$ (隣り合う孔は $3d$ 以上離す)
- ③ 縦小貫通孔： $d \leq b/6$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



8.2 耐力壁貫通孔

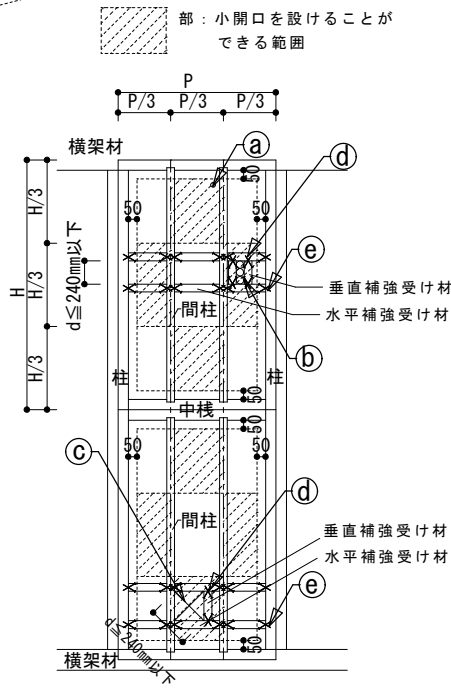
- (1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール
- 剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方



- (2) 高耐力仕様合板貼耐力壁(JISA3301標準仕様)
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール(JISA3301仕様)

a) 貫通孔基準

- ⑧ 小貫通孔($d \leq 30\text{mm}$)
1区画につき1か所までなら補強不要
- ⑨ 小貫通孔 $\times 3$ (外接円の径 $d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- ⑩ 大貫通孔($d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- b) 釘打ち及び断面
- ⑪ 合板から補強受材へ $N50@90\text{mm}$ で釘打ち
補強受材は間柱と寸法以上の断面
- ⑫ 補強受材の留め付けは斜めビス2本止め



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 木造軸組接合部標準図(4)

Date

Sheet No.

Scale NS

Checked by

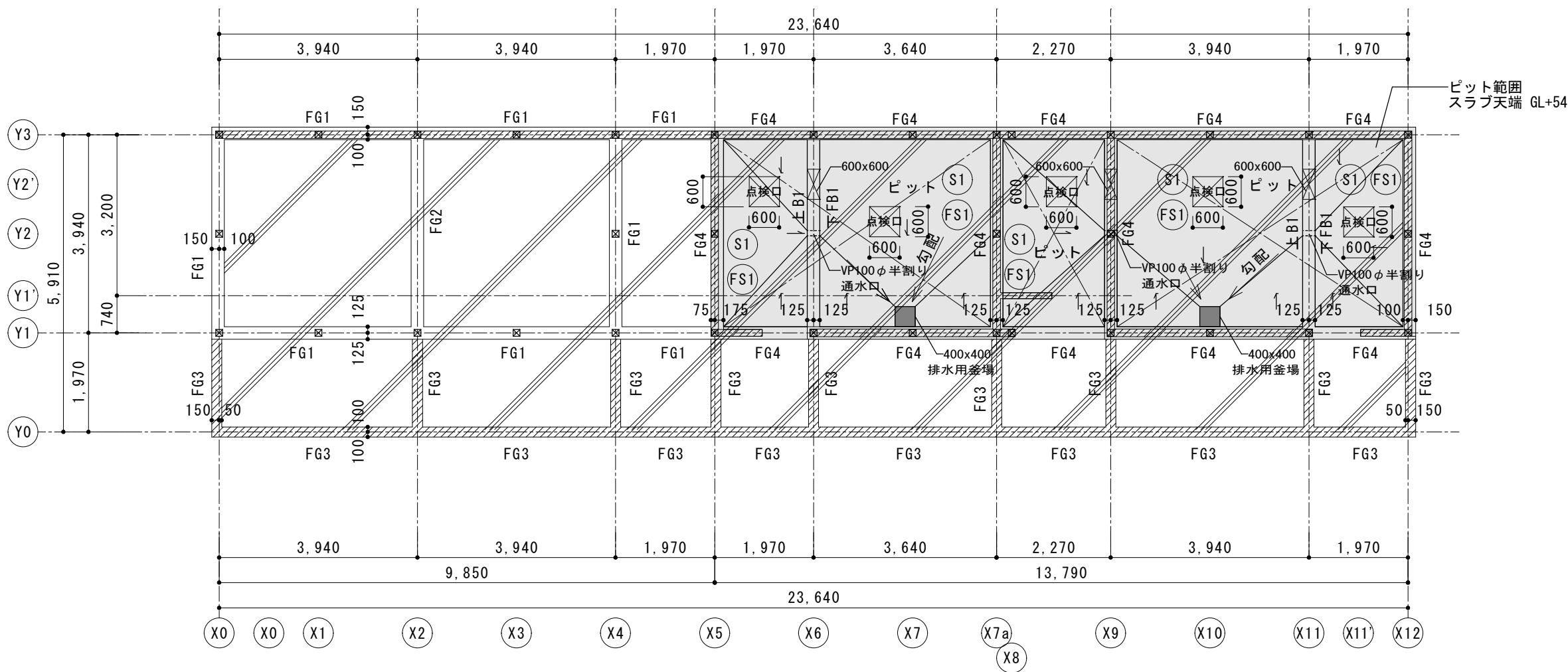
b. s. l. s.

S-01-7

41

TAKATSUKI

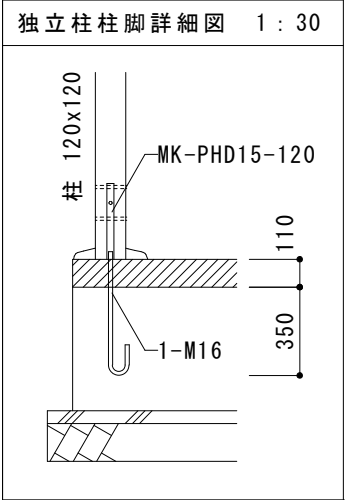
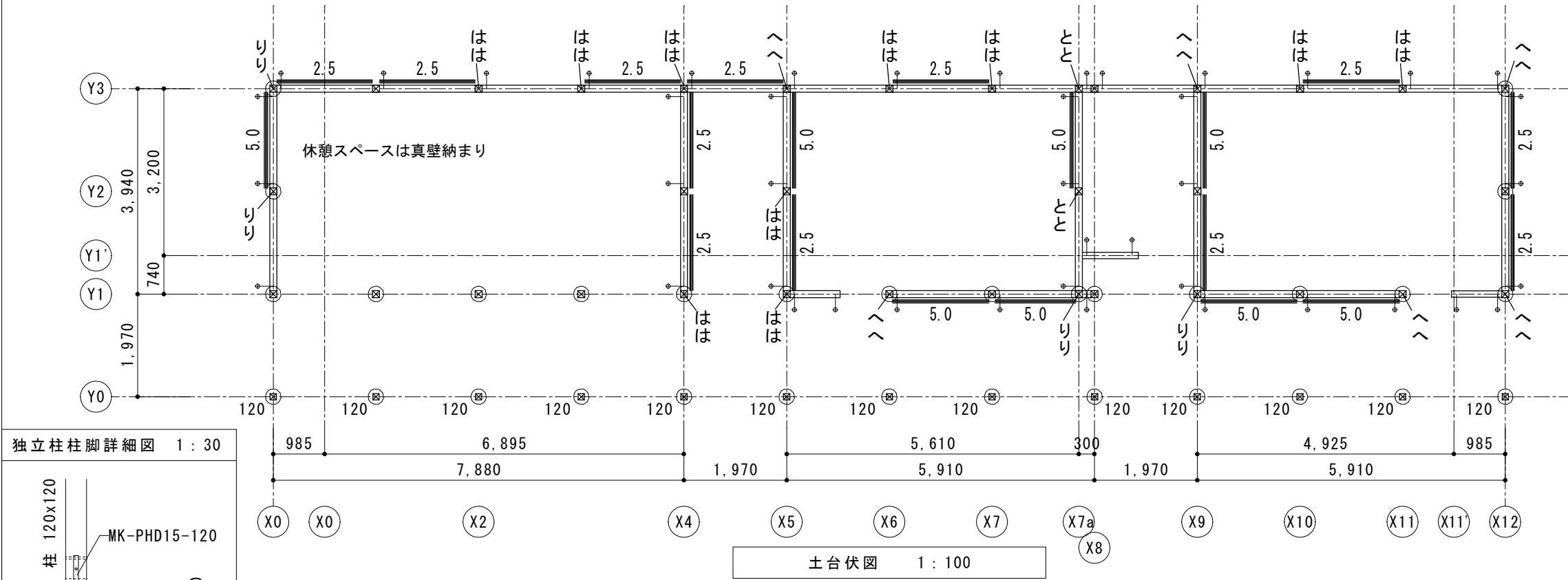
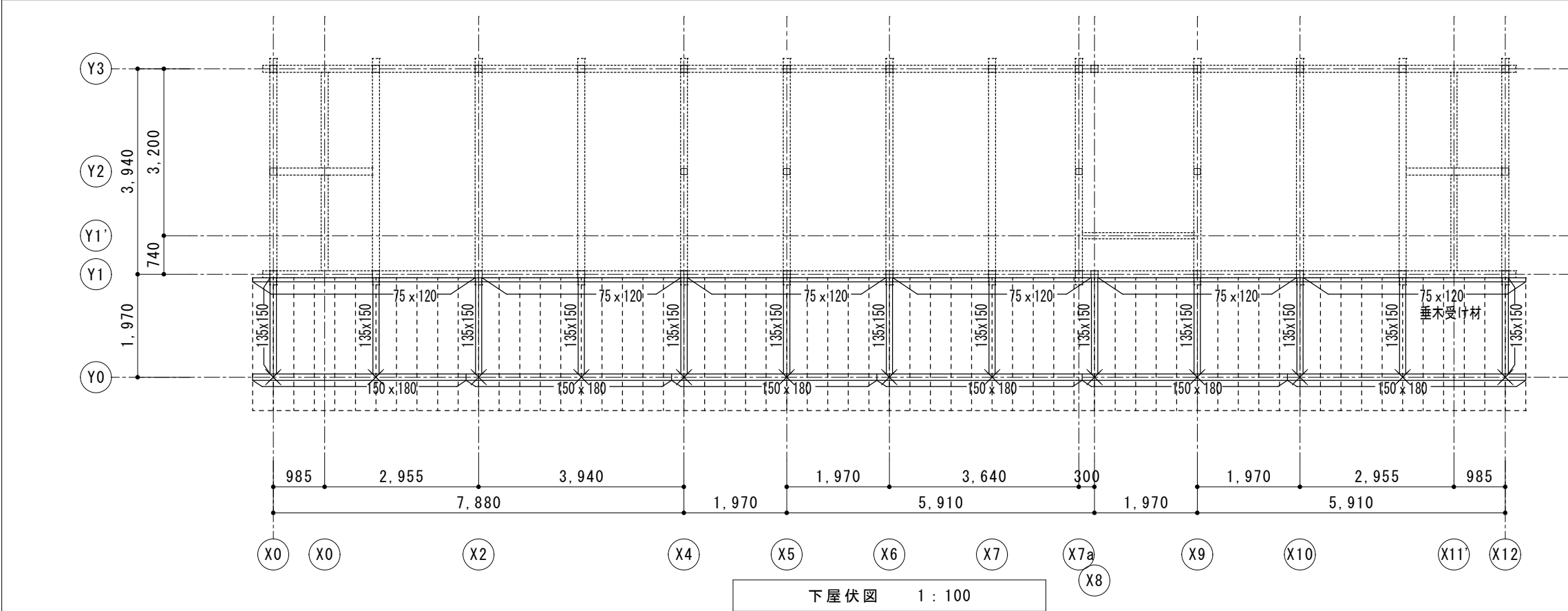
CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE



基礎伏図 1 : 100

凡例	
	スラブ範囲
	基礎増打
	釜場400 x 400
	点検口600 x 600

特記事項
・ピット以外 設計地耐力30 k N/m ²
・ピット部分 設計地耐力40 k N/m ²
・特記なきスラブは (FS2)
・特記なきスラブ天端はGL-110
・特記なき基礎天端GL-110
・ピット下は150mm以上砕石を用いて十分締め固めを行う
・ピットスラブは増打ちで釜場に水が集まるよう勾配とする

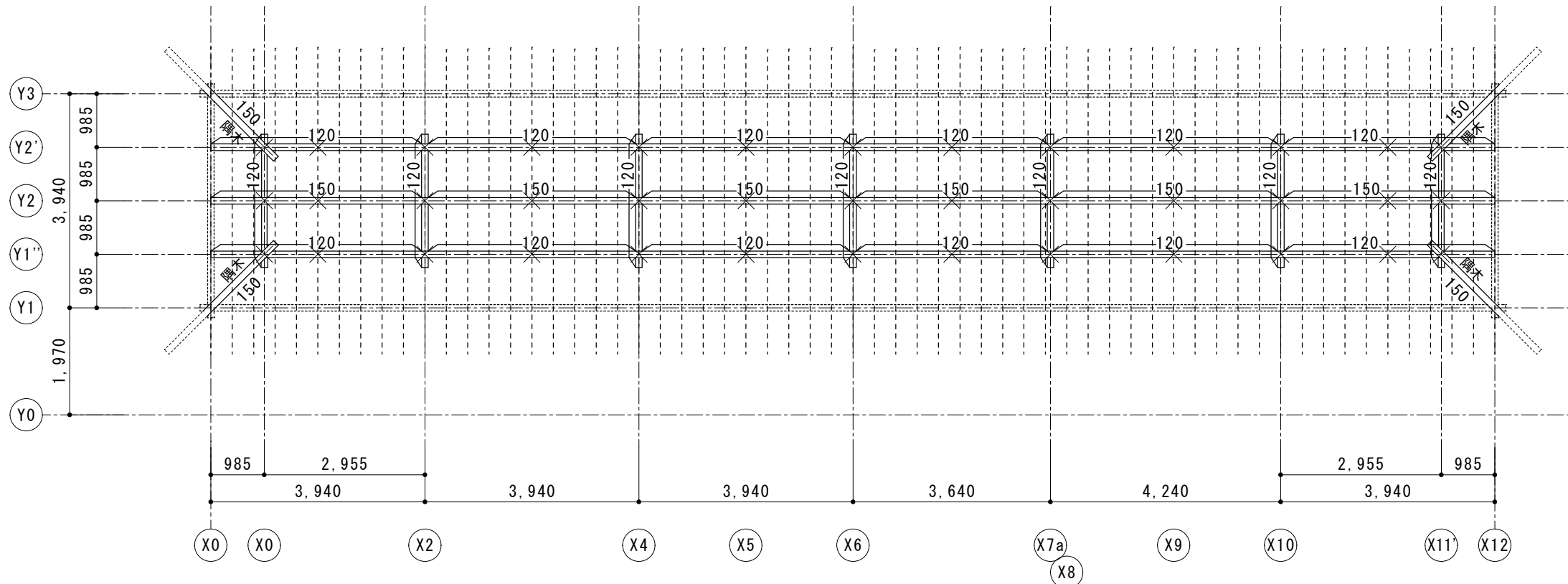


凡例	
☒	柱 桧 無等級材 135 x 135
120☒	柱 桧 無等級材 120 x 120
×	下部柱
⊗	東石独立柱は引き抜きに対応する柱脚を使用する 例：MKパイプホールダウン 他
↑	土台アンカー M12 埋め込み長さ250mm以上
<u>210</u>	梁 桧 無等級材 数字は梁せい
----	垂木 桧 75 x 75@394 屋根はSWPパネル
<u>5.0</u>	耐力壁：構造用合板 t=12 両面張り
<u>2.5</u>	耐力壁：構造用合板 t=12 片面張り

外周部継ぎ手横架材接合部金物の仕様

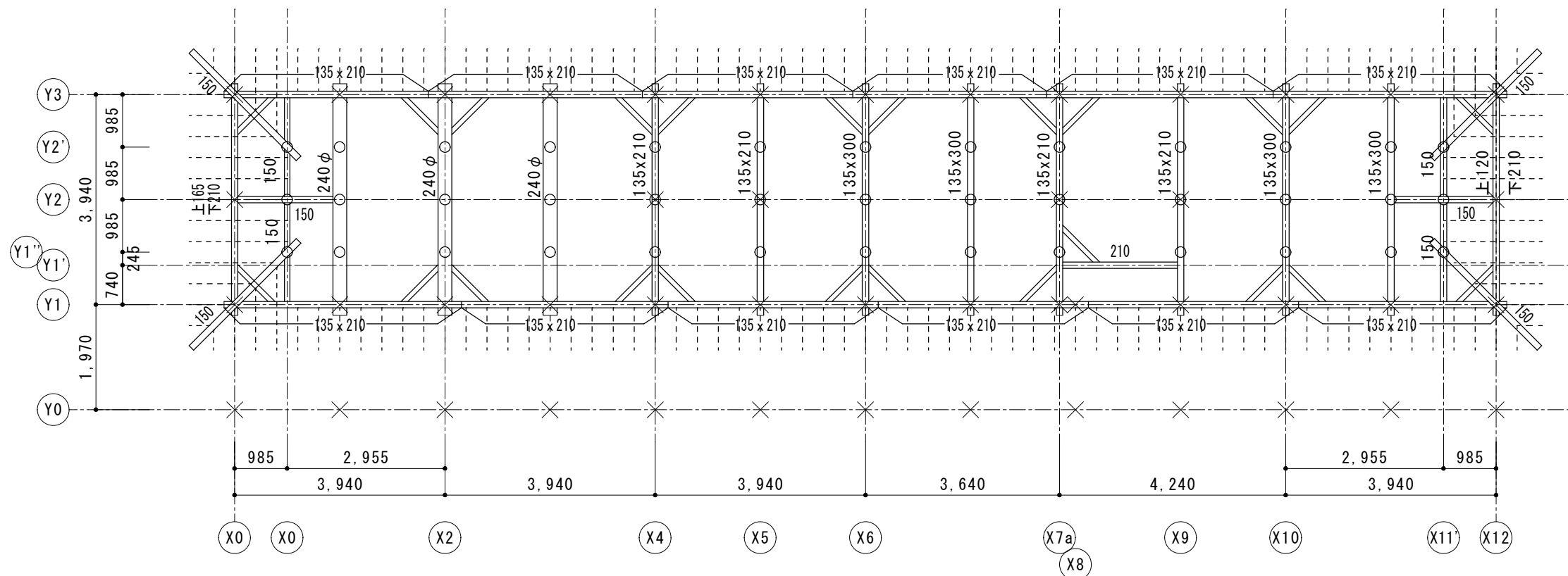
腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え
羽子板ボルト、又は、短冊金物を配置

金物リスト、金物特記事項	
は	フラットプレートSD、リトルコーナー（タナカ）他
へ	10kN用引き寄せ金物
と	15kN用引き寄せ金物
ち	20kN用引き寄せ金物
り	25kN用引き寄せ金物
<p>例：へ ：柱頭金物を表す へ ：柱脚金物を表す</p> <ul style="list-style-type: none">金物はZマーク品又は同等品とする柱脚は全て短ほぞ。加えて必要金物を配置する特記なき柱脚は短ほぞに加え、5kN以上の金物を上下に配置柱頭柱脚は同一金物を使用する10kN金物から150mm以内に土台アンカーボルトを設置。土台アンカーボルトは座金厚6mm x 60mm角又は、10 k N対応座金を使用する10kNを超える柱脚金物にはD16のアンカーを設置すること	



母屋垂木伏図 1:100

屋根構面の仕様	2.71 k N/m→勾配低減2.3 k N/m
SWPパネル	1000 x 3000
厚さ	28mm
パネル留め付くぎ	: CN75 ピッチ 150mm
	川の字になるよう垂木に釘打
	垂木は母屋、桁に2-N75斜め打
	パネルはチドリ配置する
	※下屋部分も同じ仕様とする



梁伏図 1:100

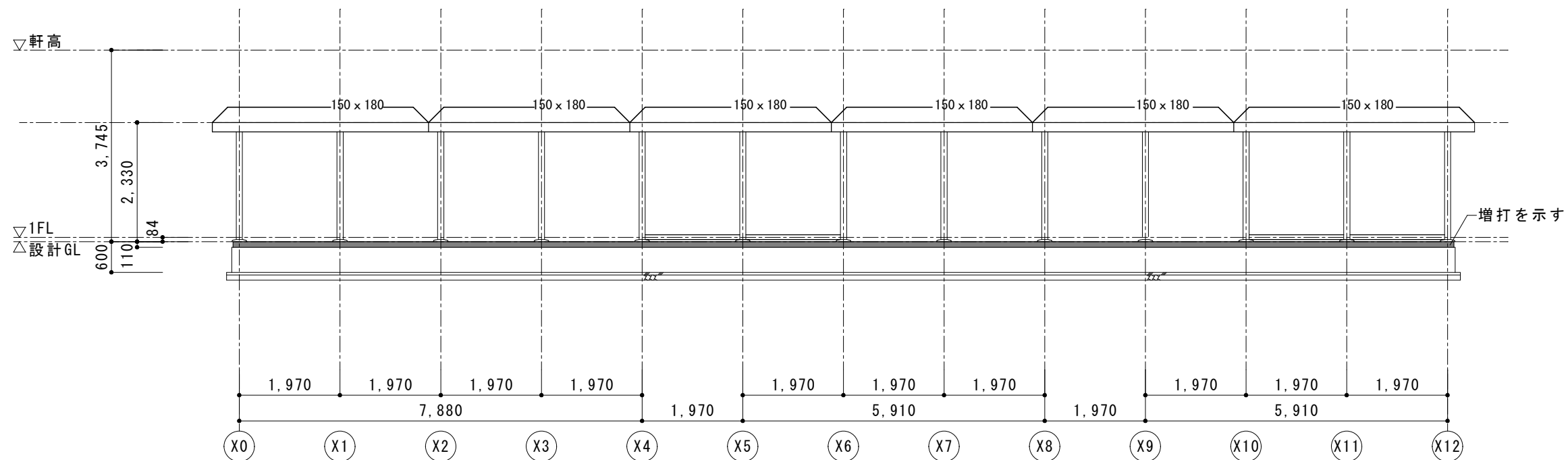
凡例	
×	下部柱
○	束
210	梁 桧 特記なき幅は120
	数字は梁せい
----	垂木 桧 75 x 78@394
////	火打ち梁 (木製) 90 x 90
	隅から L = 750



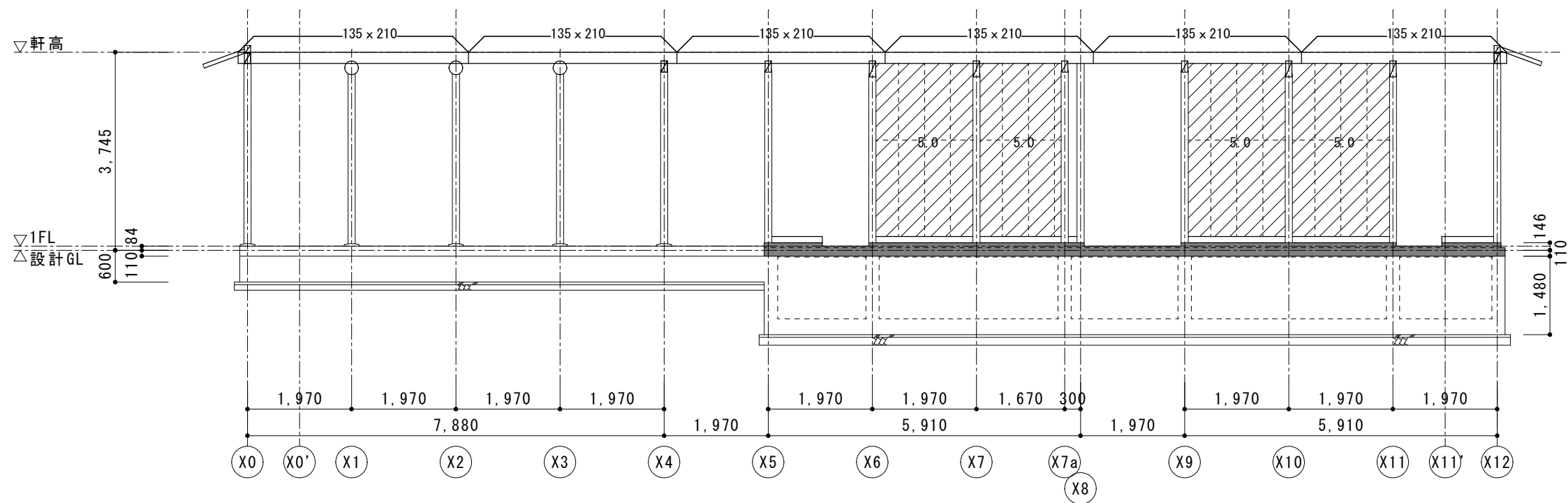
Sheet No.
S-05

Name	高槻城公園北エリア(一期)整備工事 (建築)
Class	公園トイレ 梁伏図、母屋垂木伏図
Scale	1:100
Checked by	b. s. l. s.
Date	


TAKATSUKI CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE



Y0通り軸組図 1 : 100



Y1通り軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下



Sheet No.

S-06

Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事 (建築)

Class 公園トイレ 軸組図1

Date

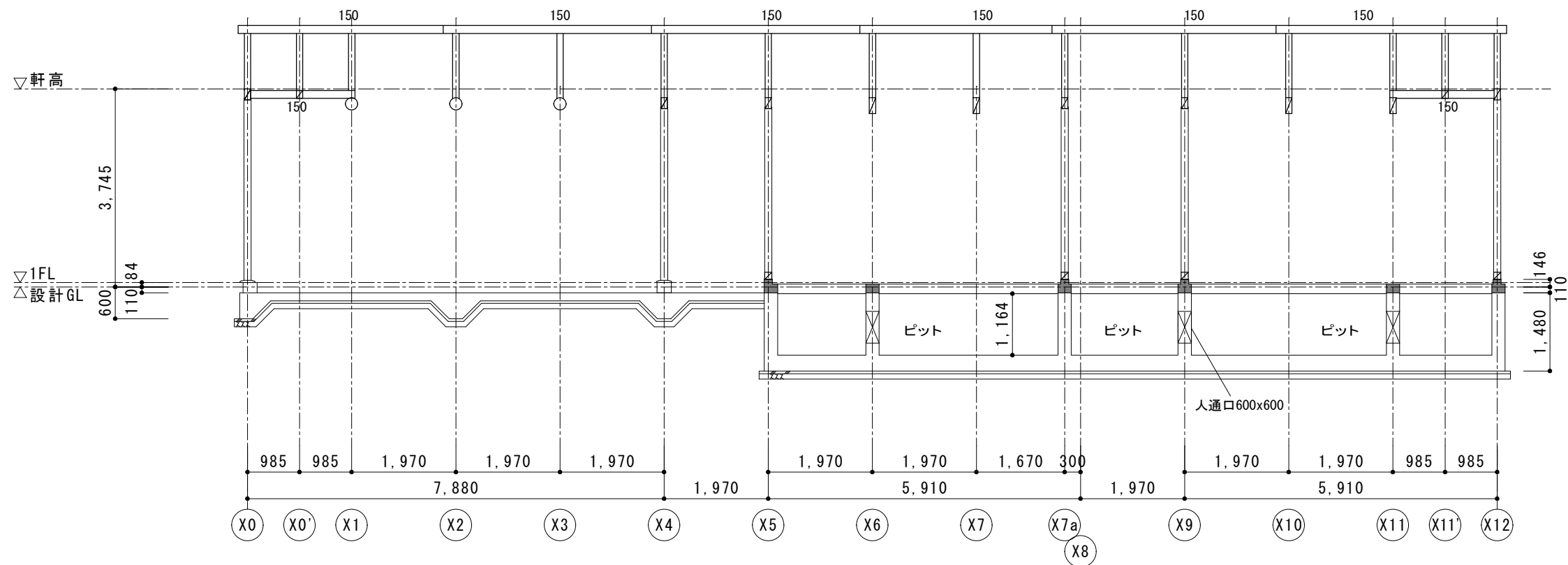
Scale 1:100

Checked by

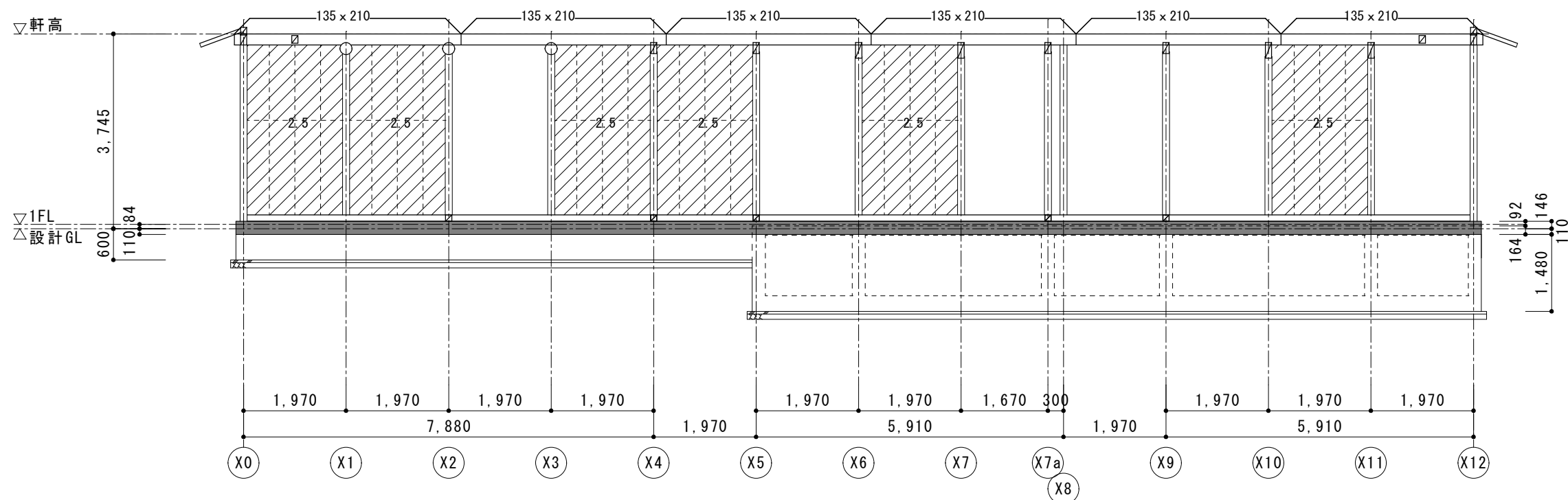
b. s. l. s.

TAKATSUKI


CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE



Y2通り軸組図 1 : 100



Y3通り軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下



Sheet No.

S-07

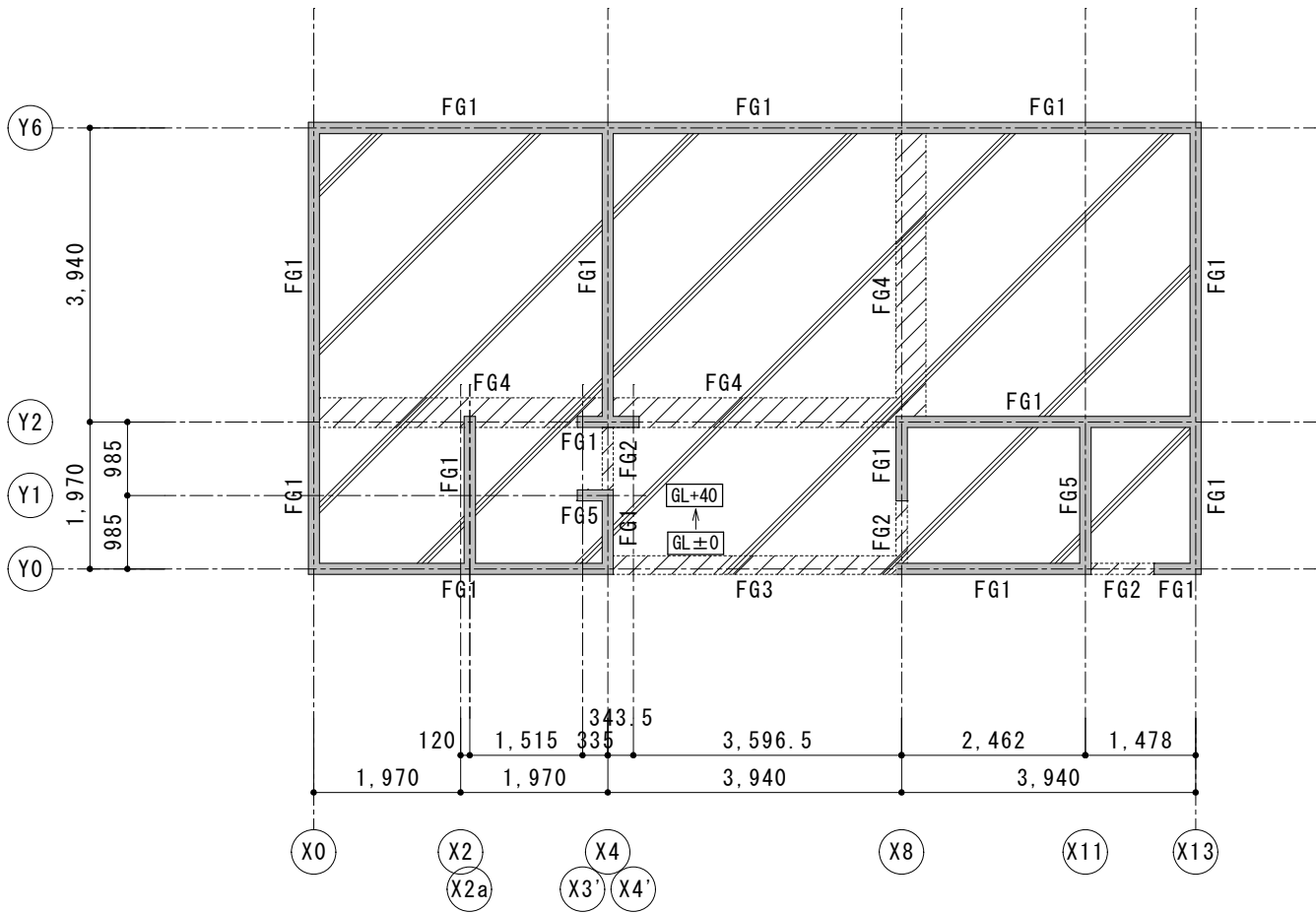
Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 公園トイレ 軸組図2

Scale 1 : 100

Checked by b. s. l. s.

TAKATSUKI CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE

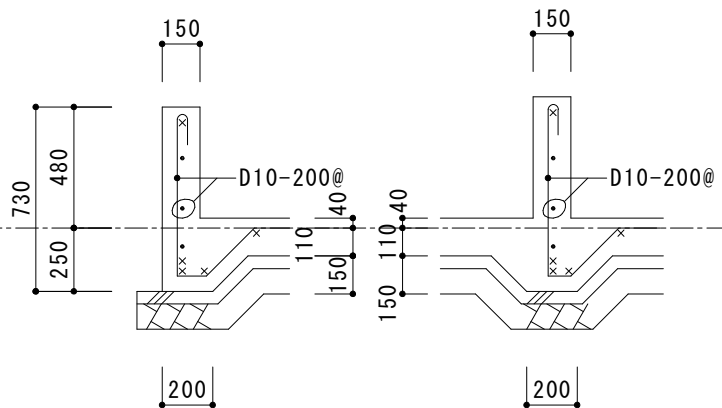
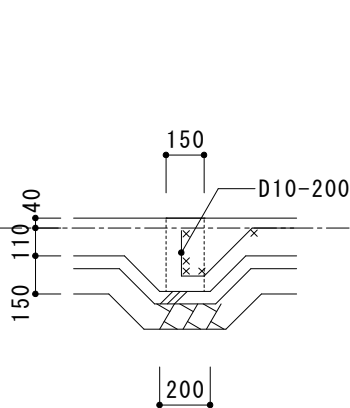
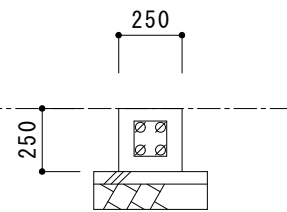
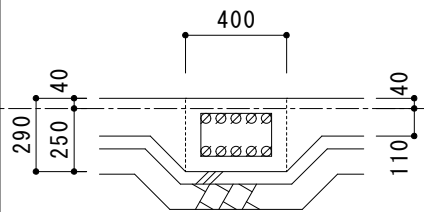
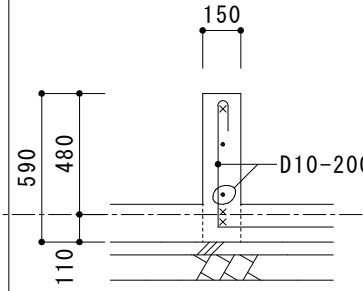


基礎伏図 1 : 100

凡例	
	基礎スラブを示す
	基礎立ち上がりを示す

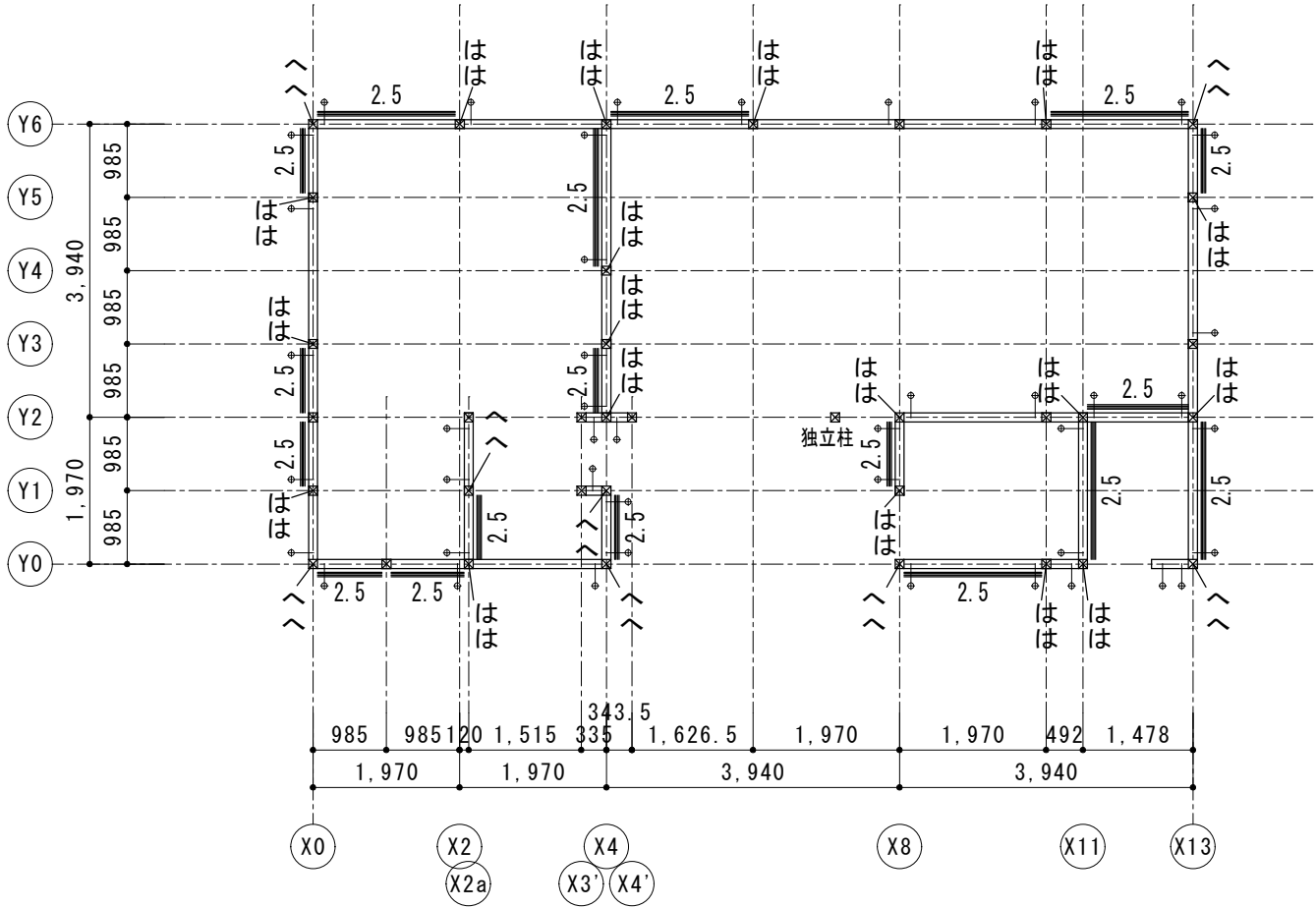
特記事項	
・ 設計地耐力30 k N/㎡	
・ 特記なきスラブは (FS1)	
・ 特記なきスラブ天端はGL+40	

地中梁配筋リスト 1:30

	FG1		FG2
▽ GL			
B x D	150 x 690		150 x 290
上端主筋	1-D13		1-D13
下端主筋	2-D13		2-D13
スターラップ°	D10-200@		D10-200@
	FG3	FG4	FG5
▽ GL			
B x D	250 x 250	400 x 290	150 x 550
上端主筋	2-D16	5-D16	1-D13
下端主筋	2-D16	5-D16	2-D13
スターラップ°	D10-200@	D10-150@	D10-200@

床版配筋リスト 1:40

	短辺方向	長辺方向



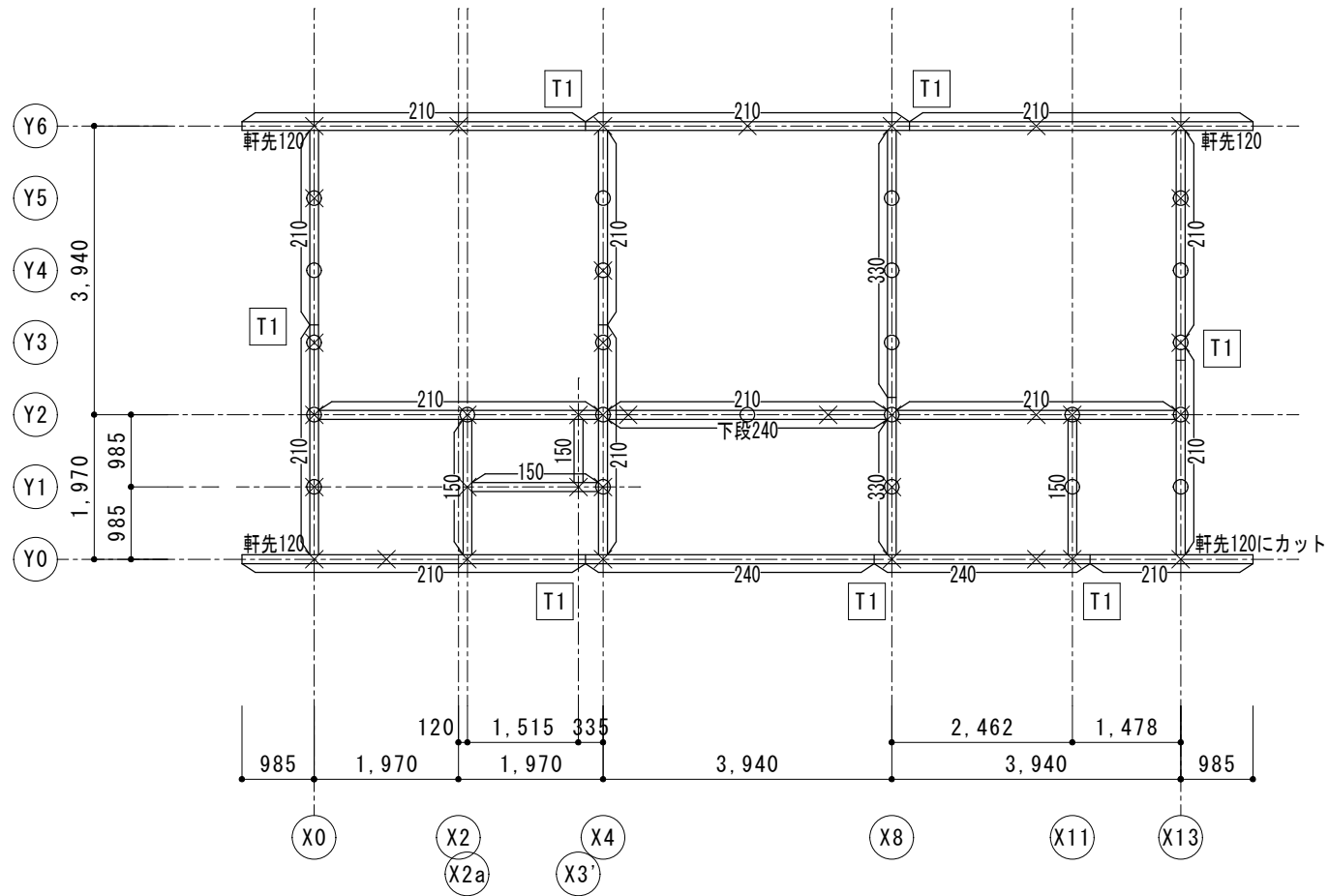
土台伏図 1 : 100

凡 例	
	柱 桧 無等級材 120 x 120
	独立柱は引き抜きに対応する柱脚を使用する 例：独パイプ式独立低柱脚金物LB 他
	土台アンカー M12 埋め込み長さ250mm以上
	土台 桧 無等級材 特記なき幅は120 数字は梁せい
	耐力壁：構造用合板 t =9 数字は倍率を示す

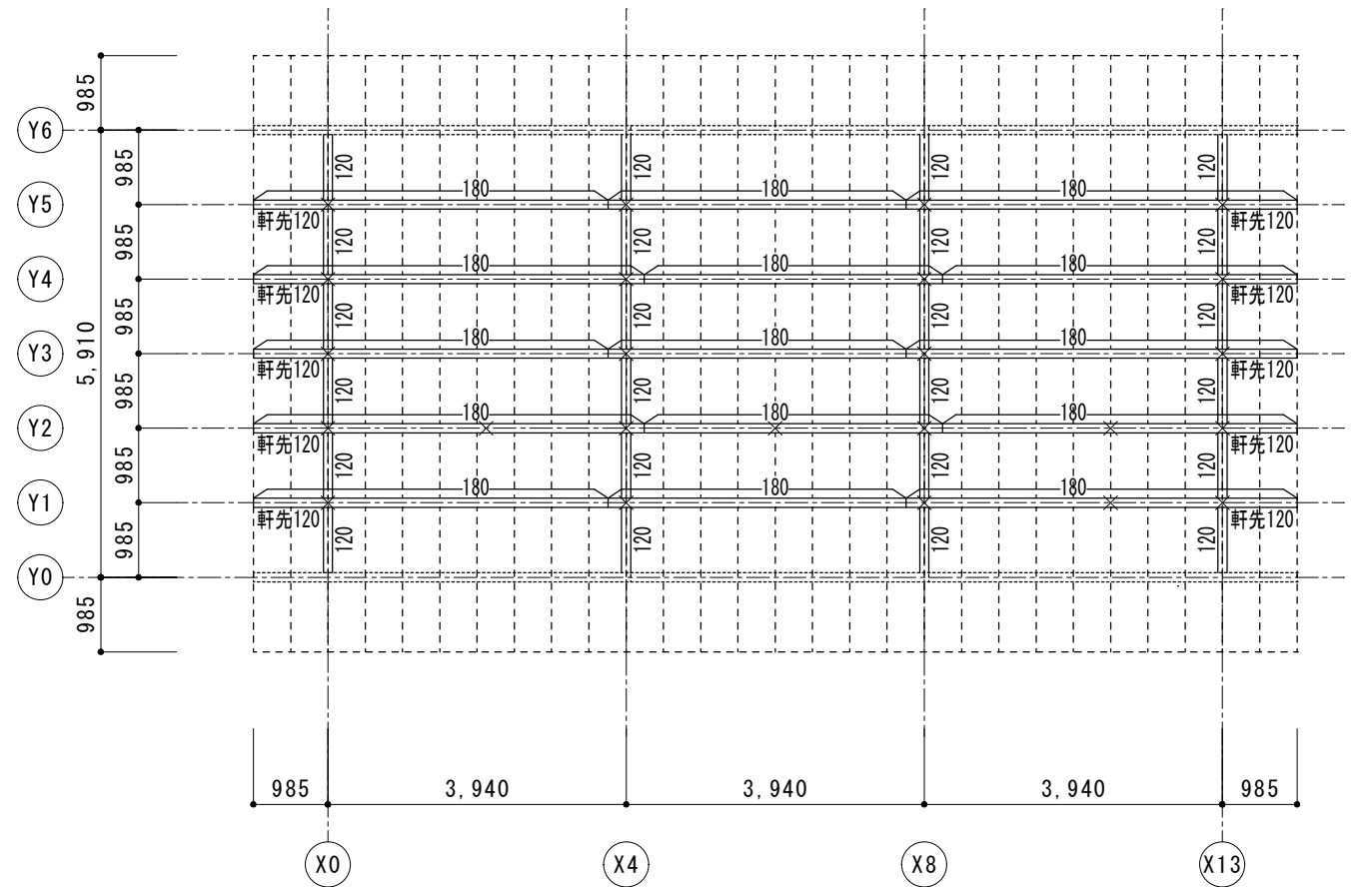
金物リスト、金物特記事項	
は	フラットプレートSD、リトルコーナー（タナカ）他
へ	10kN用引き寄せ金物
例：へ：柱頭金物を表す へ：柱脚金物を表す ・金物はZマーク品又は同等品とする ・柱脚は全て短ほぞ。加えて必要金物を配置する ・特記なき柱脚は短ほぞに加え、5kN以上の金物を上下に配置 ・柱頭柱脚は同一金物を使用する ・10kN金物から150mm以内に土台アンカーボルトを設置。土台アンカーボルトは座金厚6mm x 60mm角又は、10 k N対応座金を使用する	

土台アンカーボルト特記事項
アンカーボルトの埋め込み長さは250mm以上とする アンカーボルトの先端は土台上端よりナットの外にネジが3山以上出るよう固定する アンカーボルト埋設位置は次による 1、耐力壁の両側の柱の近接部（柱芯より200mm以内） ただし、ホールダウン専用アンカーボルトが取り付けられた場合は省略することができる 2、土台切れ箇所、土台継ぎ手及び土台仕口箇所の上木端部とし、出隅部分はできるだけ柱に近接した位置とする 3、その他の部分は間隔2.0m以内とする。

真壁耐力壁の仕様（構造用合板）
【告示第1100号】 間柱 柱 受材 見付30 x 奥行40以上 N75釘 ピッチ300mm以下 5.0両面張は釘 ピッチ150mm以下 構造用合板 150 N50釘 ピッチ150mm以下 500mm以下 500mm以下 1,000mm以下 1,000mm以下



小屋梁伏図 1 : 100



母屋垂木伏図 1 : 100

凡例	
×	下部柱
○	束
210	梁 桧 特記なき幅は120 数字は梁せい
----	垂木 桧 60×75@493

外周部継ぎ手横架材接合部金物の仕様

T1 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え
羽子板ボルト、又は、短冊金物を配置

屋根構面の仕様 2.71 k N/m→勾配低減2.4 k N/m

SWPパネル 1000×3000
厚さ 28mm
パネル留め付くぎ : CN75 ピッチ 150mm
川の字になるよう
垂木60×60に釘打ち
垂木は母屋、桁に2-N75斜め打
パネルはチドリ配置する
※下屋部分も同じ仕様とする



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 公園倉庫 小屋梁伏図

Date

Sheet No.

Scale 1 : 100

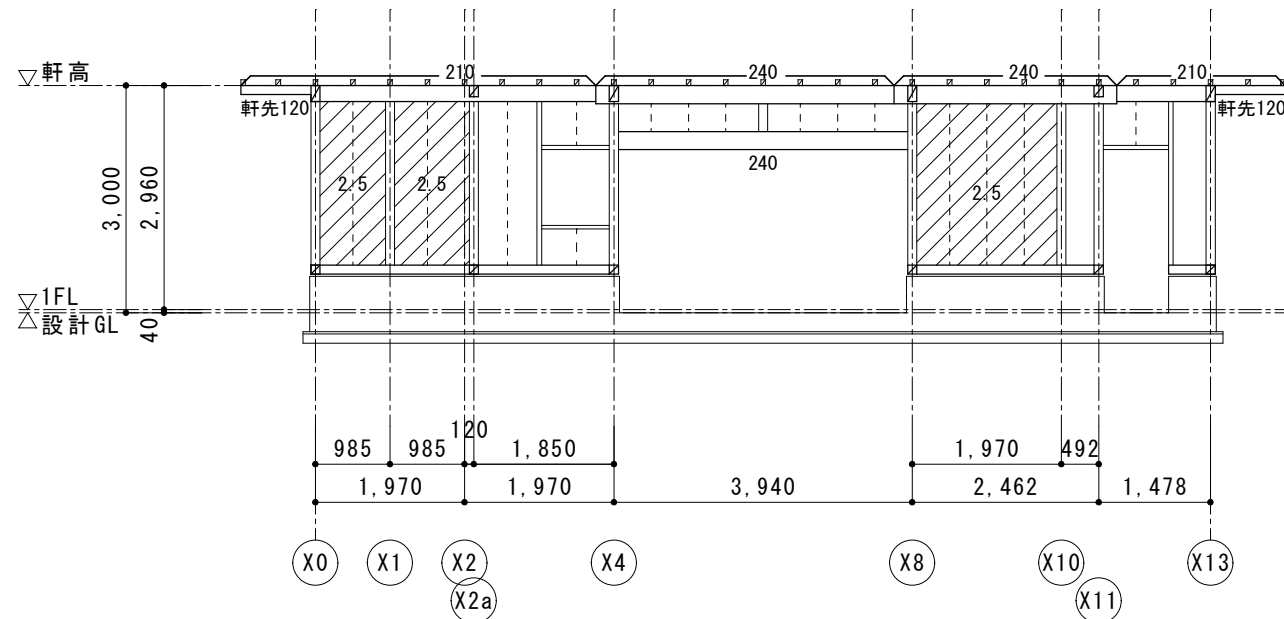
Checked by

b. s. l. s.

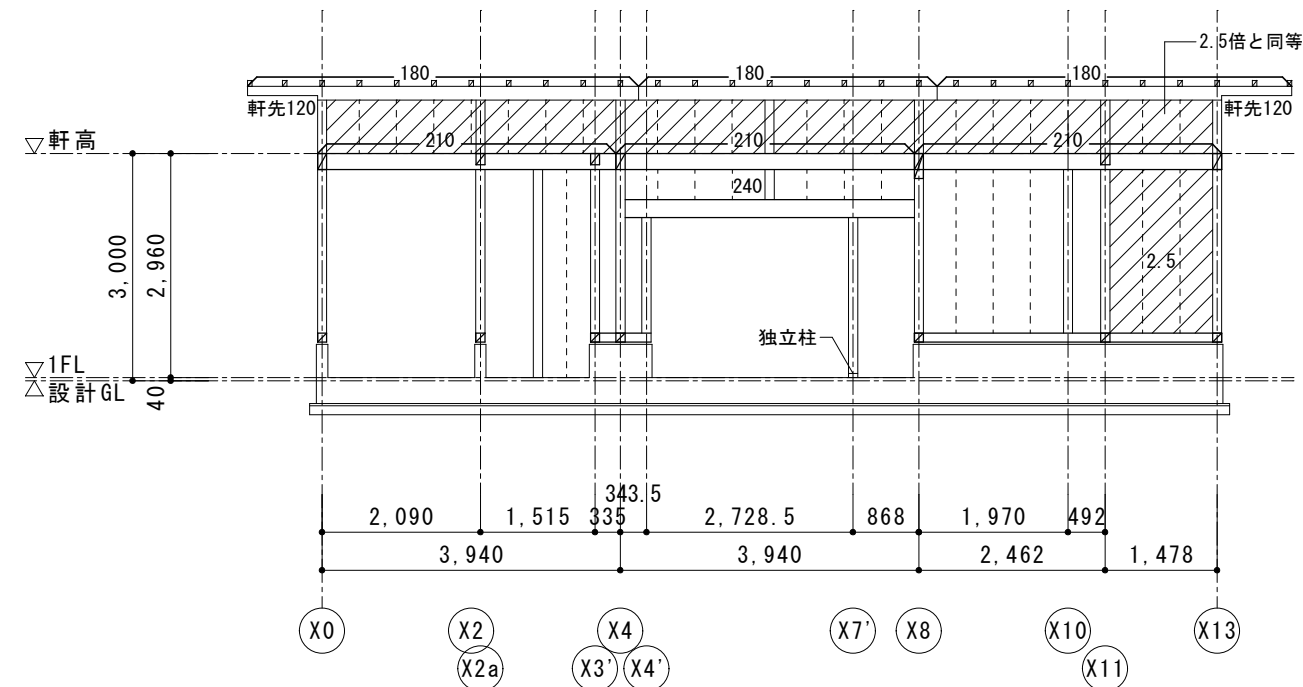
S-11

41

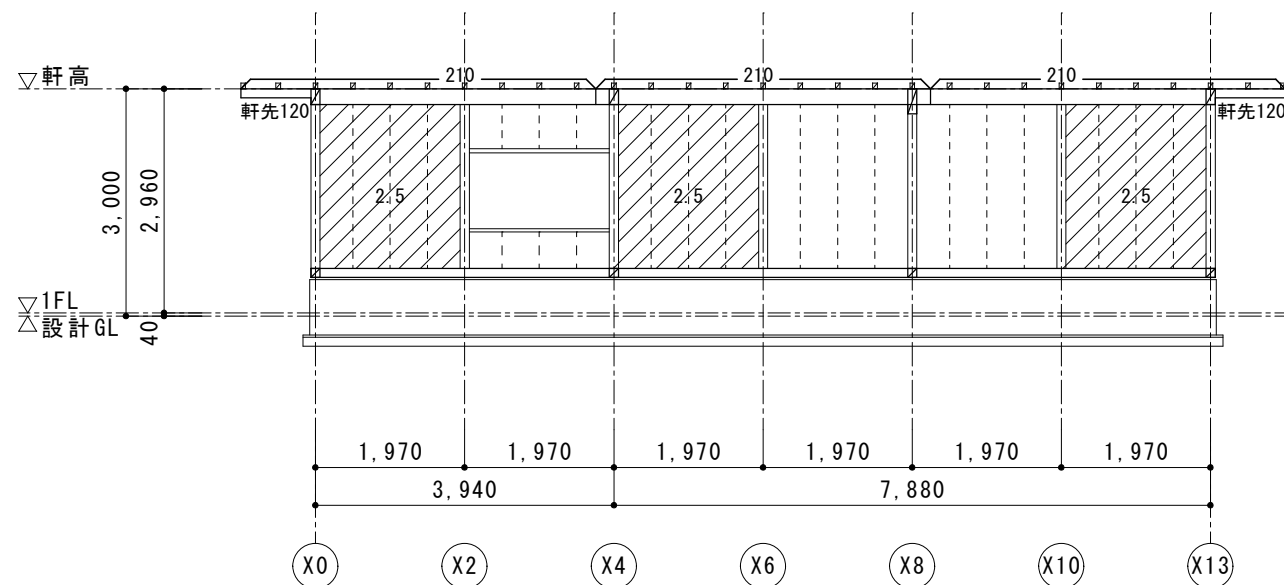
TAKATSUKI CITYHALL A. SECTION OF ARCHITECTURE




Y0通り 軸組図 1 : 100

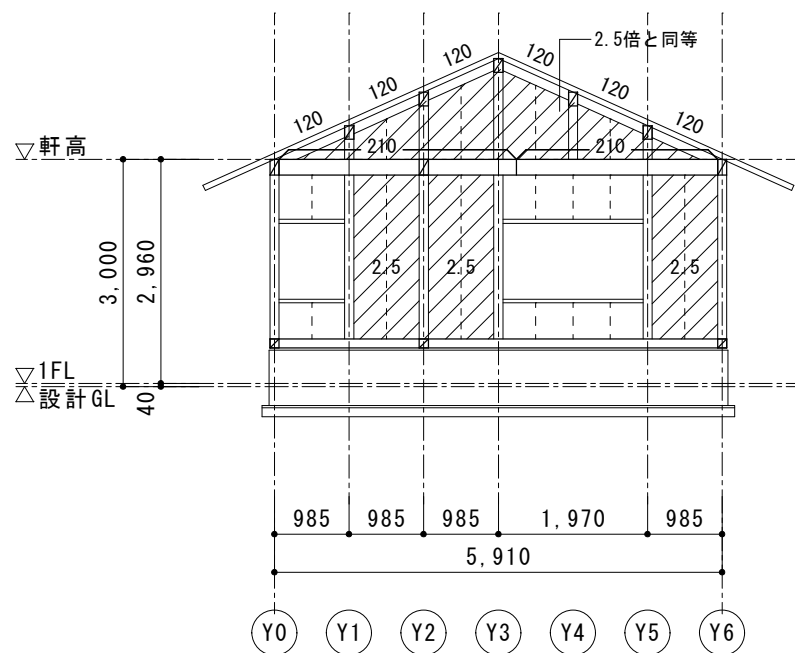


Y2通り 軸組図 1 : 100

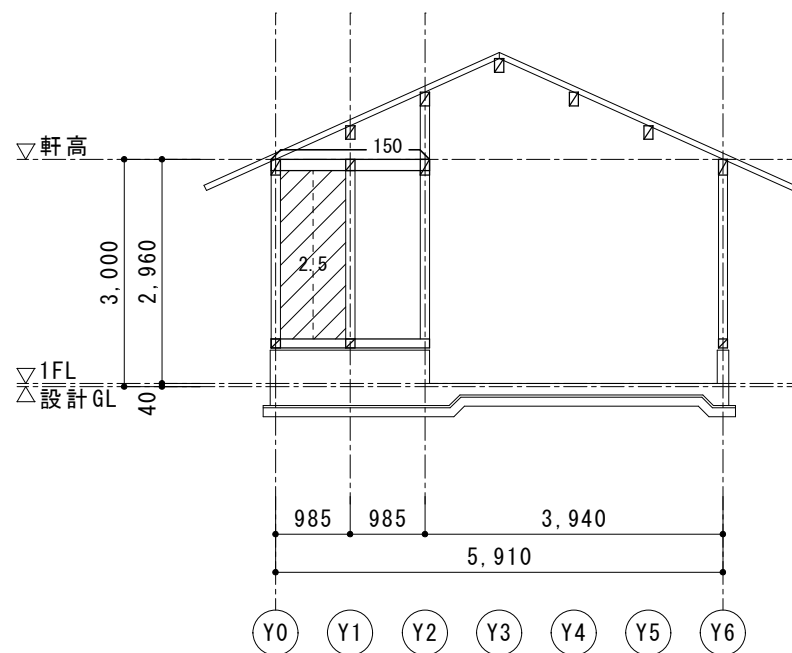


Y6通り 軸組図 1 : 100

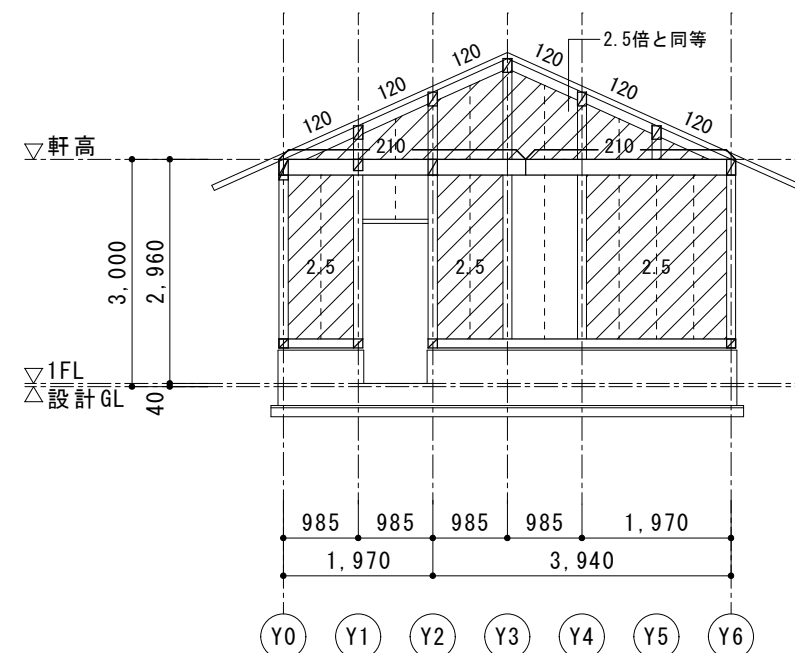
凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板9mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下



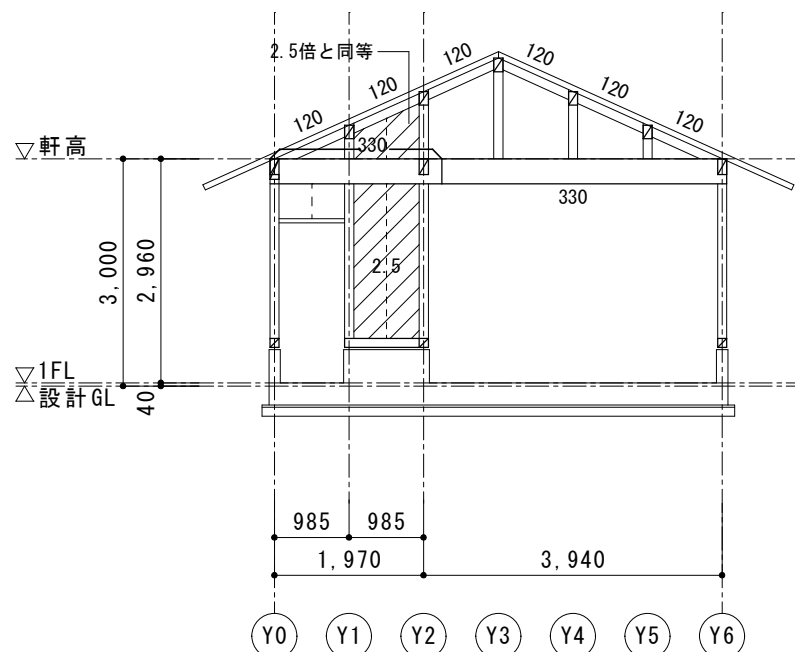
X0通り 軸組図 1 : 100



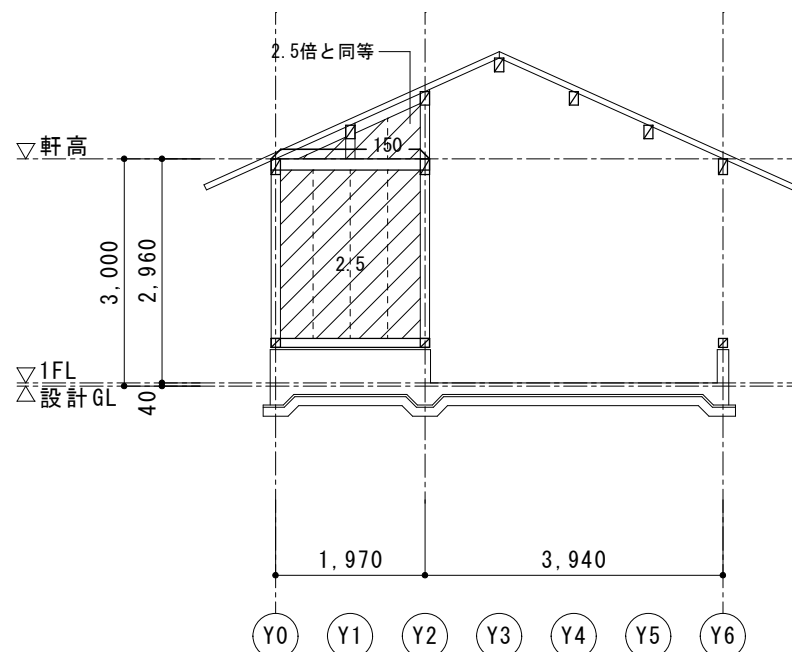
X2a通り 軸組図 1 : 100



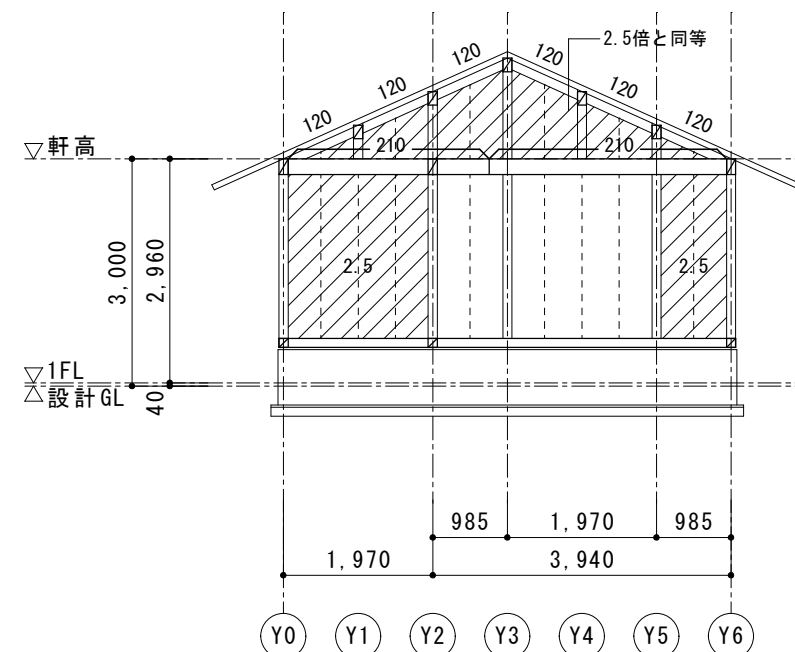
X4通り 軸組図 1 : 100




X8通り 軸組図 1 : 100



X11通り 軸組図 1 : 100



X13通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板9mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 公園倉庫 軸組図2

Date

Sheet No.

Scale 1 : 100

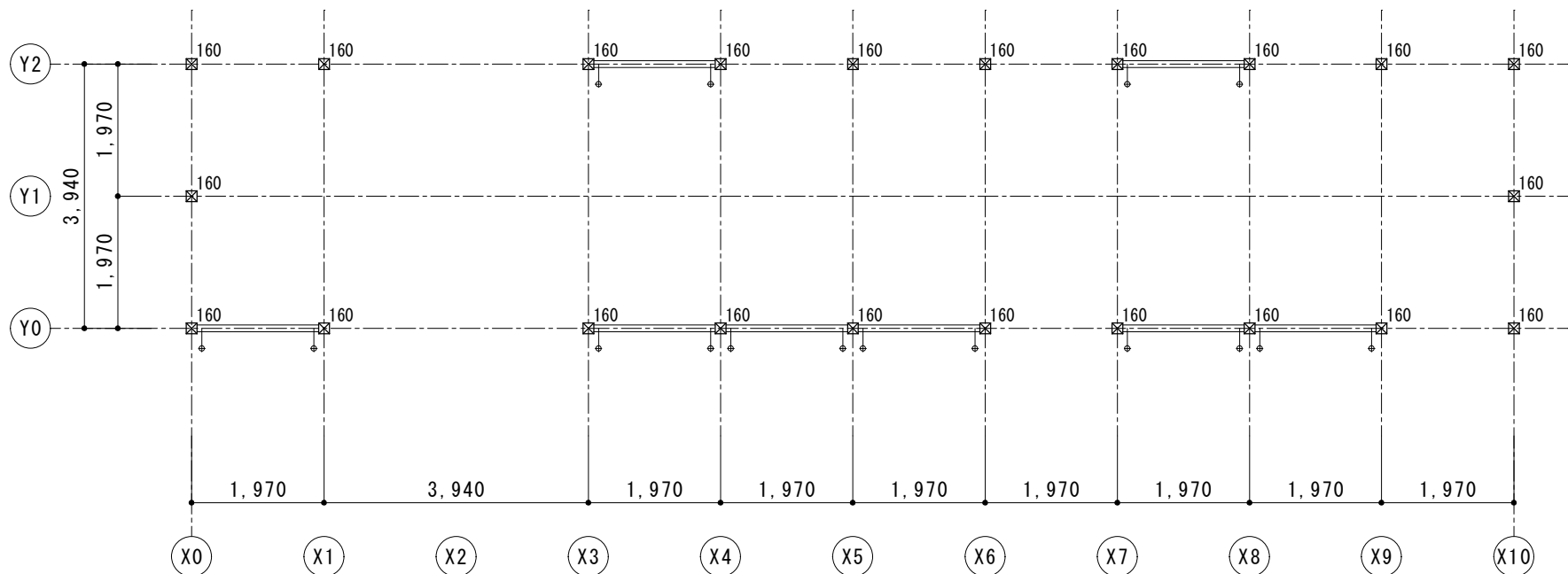
Checked by

b. s. l. s.

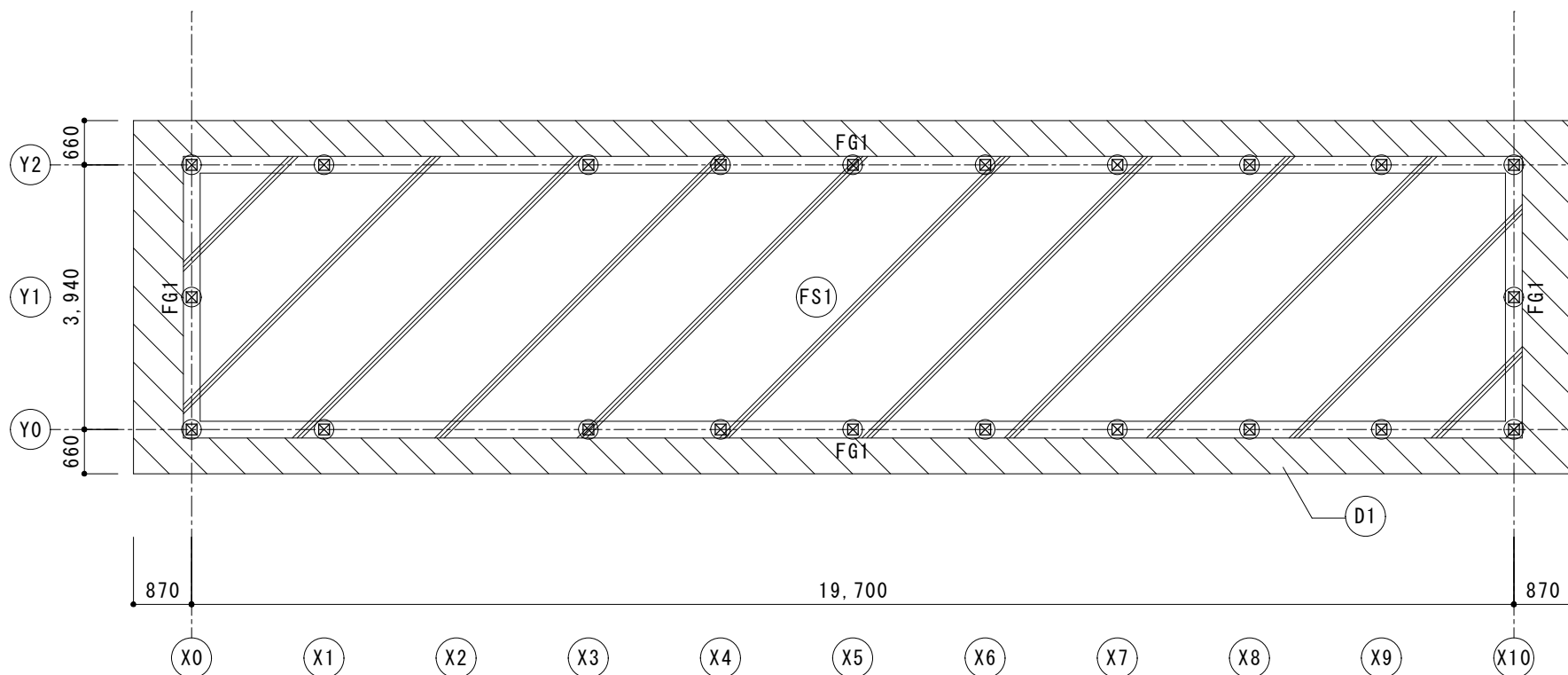
S-13

41

TAKATSUKI CITYHALL A. SECTION OF ARCHITECTURE



土台伏図 1 : 100



基礎伏図 1 : 100

凡 例	
	基礎スラブを示す
	柱 桧 E90 160×160
	東石独立柱 柱脚詳細図による アンカーボルトM16
	土台 桧KD15 102×120
	土台アンカー M12 埋め込み長さ250mm以上

特記事項
・設計地耐力30kN/m ² ・特記なきスラブは (FS1) ・特記なきスラブ天端はGL-75

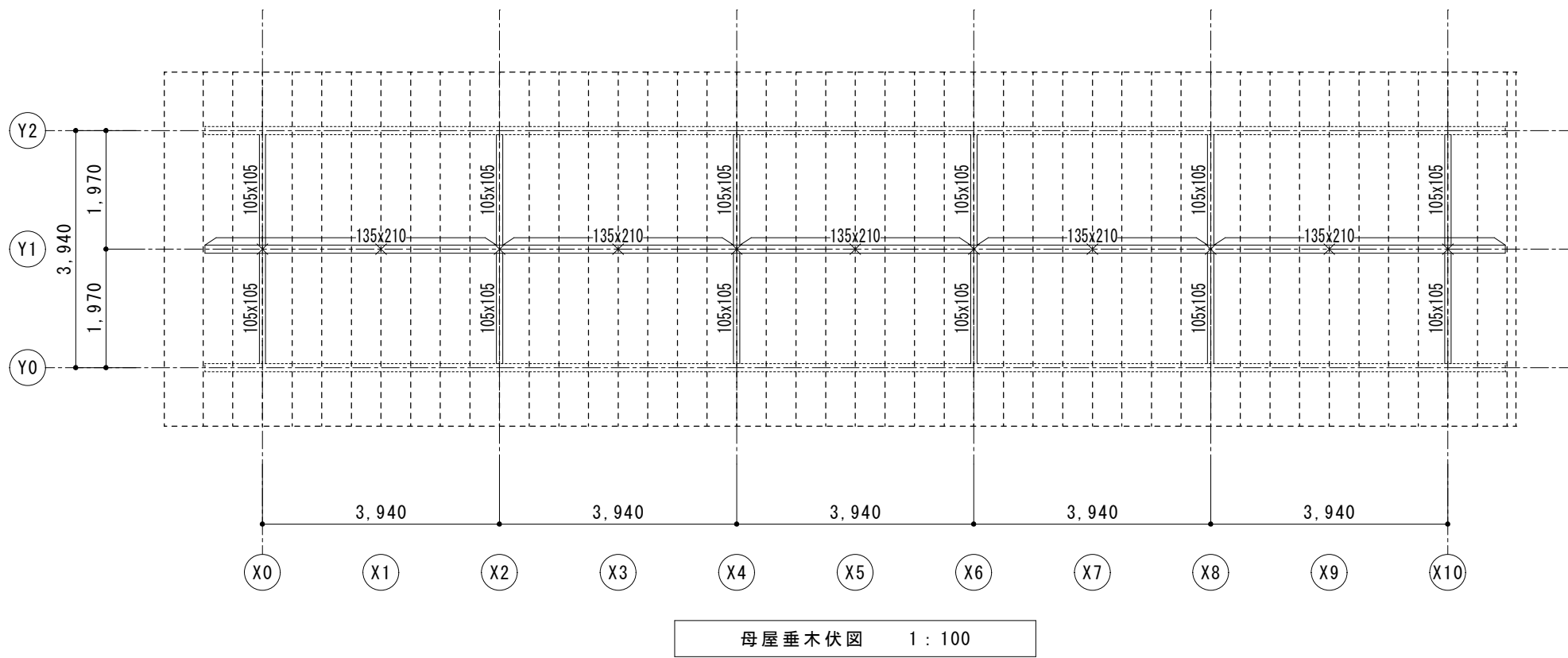
地中梁配筋リスト 1:30

FG1	
▽GL	
B × D	250 × 450
上端主筋	2-D13
下端主筋	2-D13
スターラップ	D10-200@

土間	
D1	

床版配筋リスト 1:40

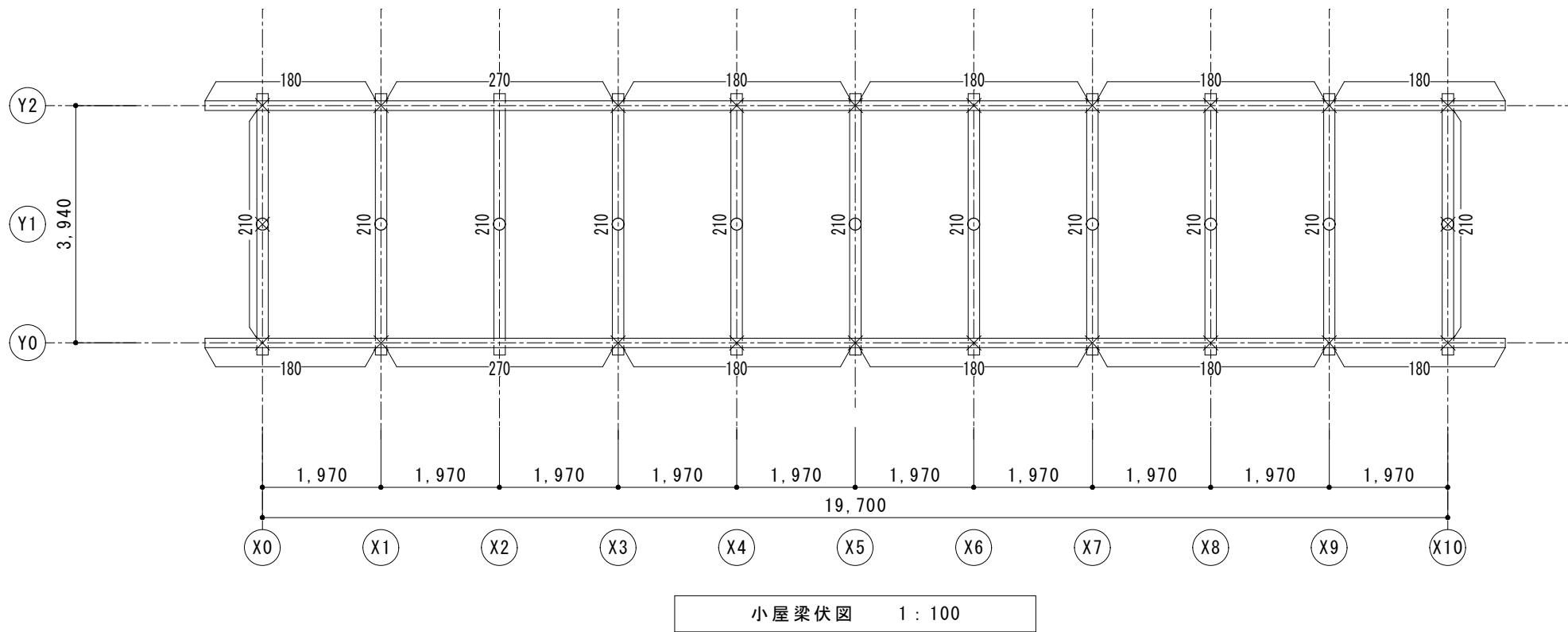
FS1	短辺方向	長辺方向

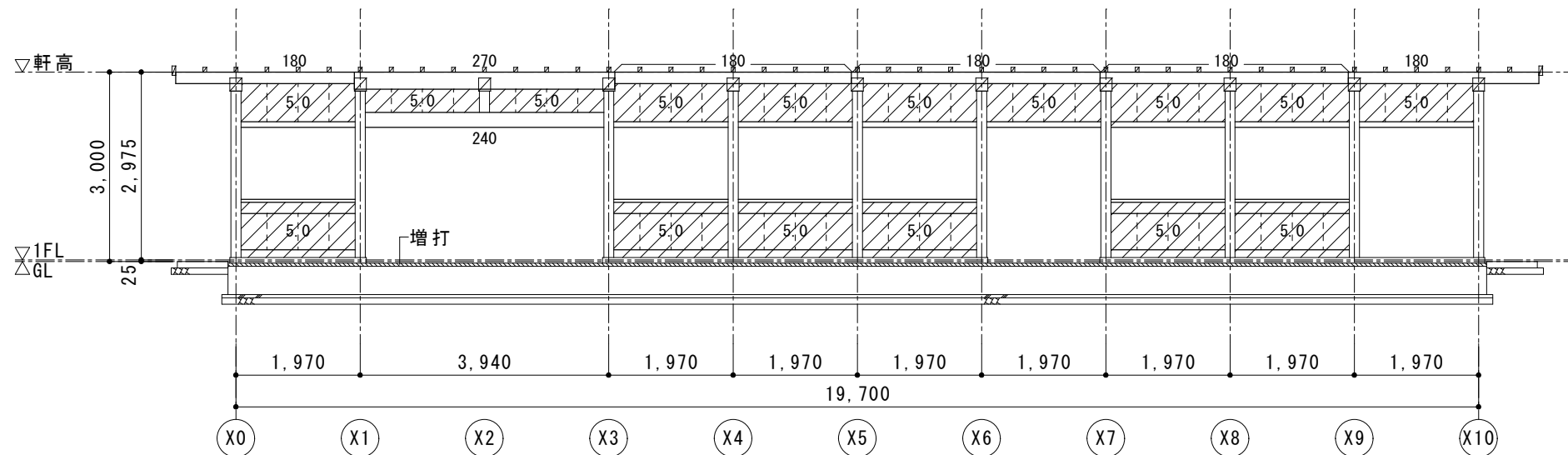


凡例	
×	下部柱
210	梁 桧 E90 特記なき幅は160 数字は梁せい
○	束 135 × 135
-----	垂木 桧 60 × 75@492.5

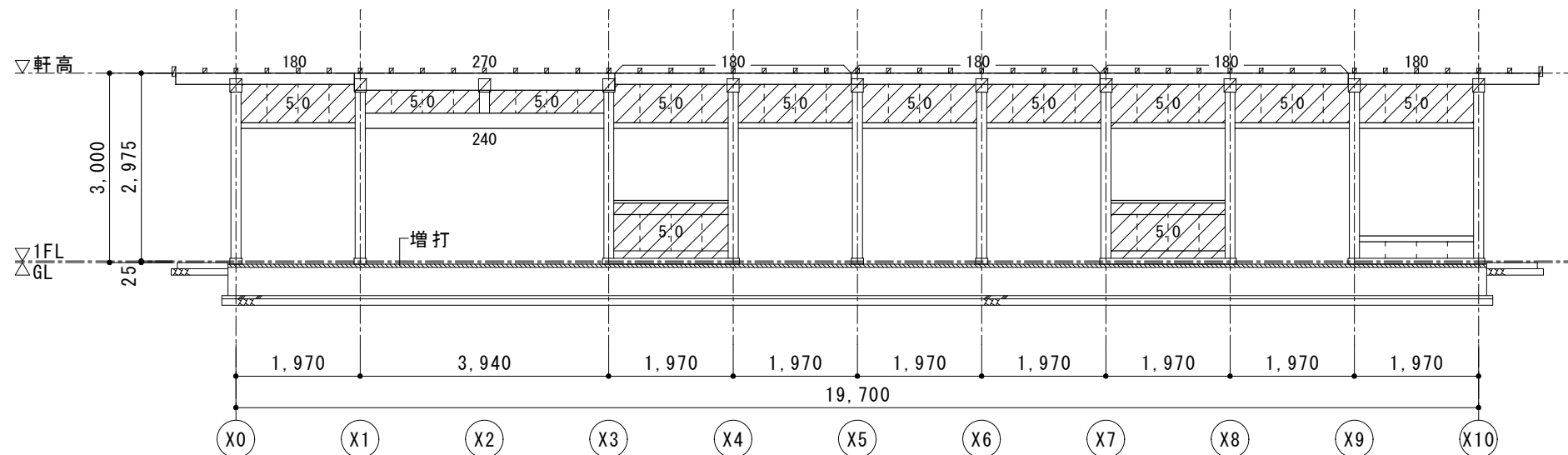
外周部継ぎ手の仕様
追掛大栓継ぎとする

SWPパネルの仕様	2.71 k N/m→勾配低減2.4 k N/m
SWPパネル 1000 × 3000	
厚さ 28mm	
パネル留め付くぎ : CN75 ピッチ 150mm	
川の字になるよう垂木に釘打	
垂木は母屋、桁に2-N75斜め打	
パネルはチドリ配置する	



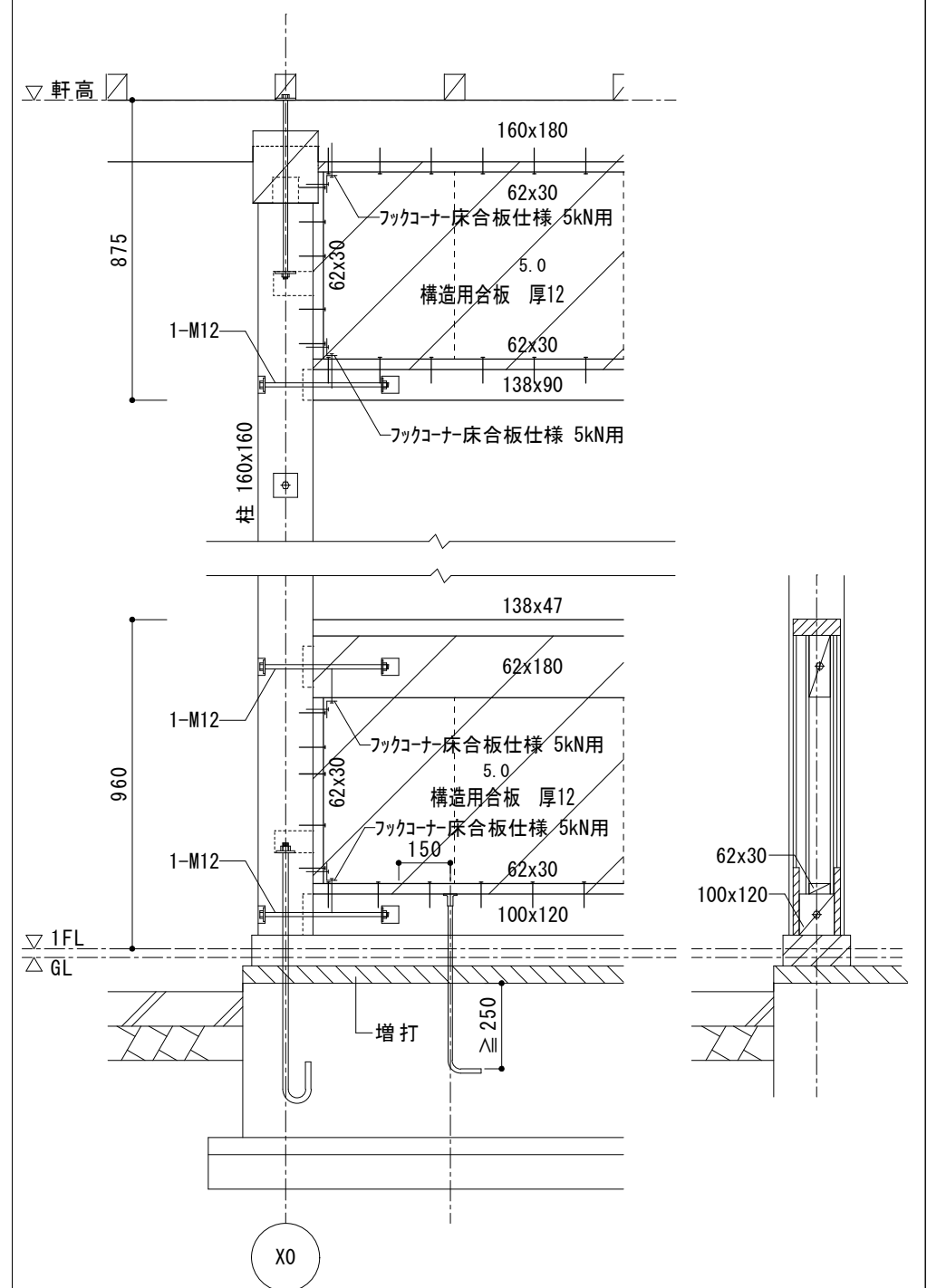


Y0通り 軸組図 1 : 100



Y2通り 軸組図 1 : 100

部分詳細図 1 : 20



Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事(建築)

Class 東屋 軸組図 1

Date

Sheet No.

Scale 1 : 100, 1 : 20

Checked by

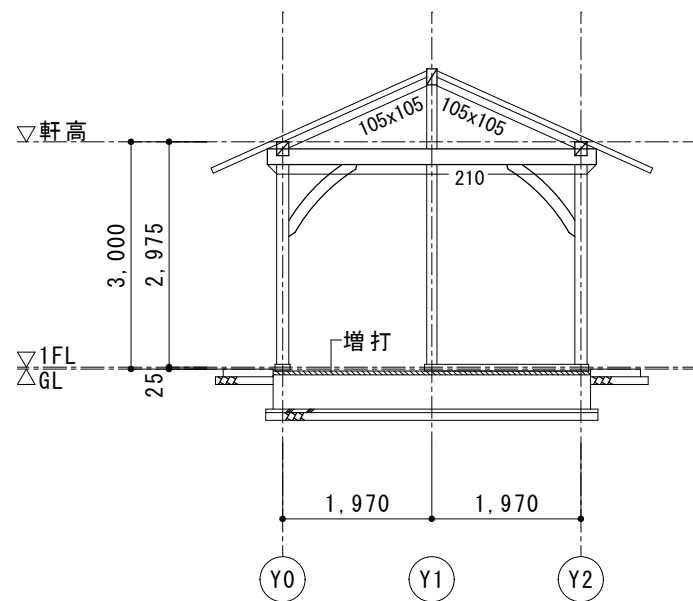
b. s. l. s.

S-16

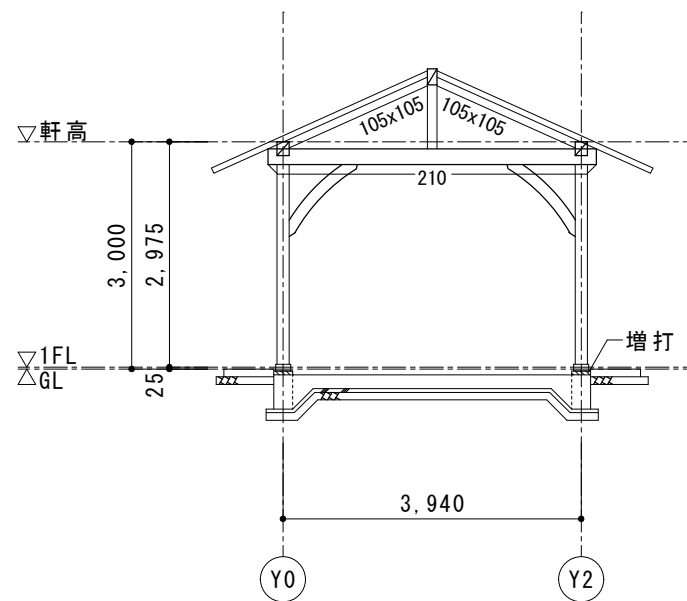
41

TAKATSUKI

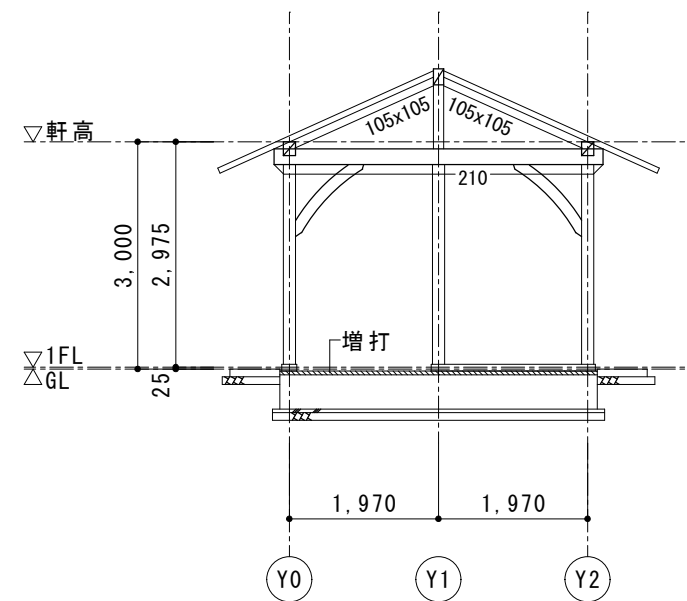
CITYHALL A. SECTION OF ARCHITECTURE



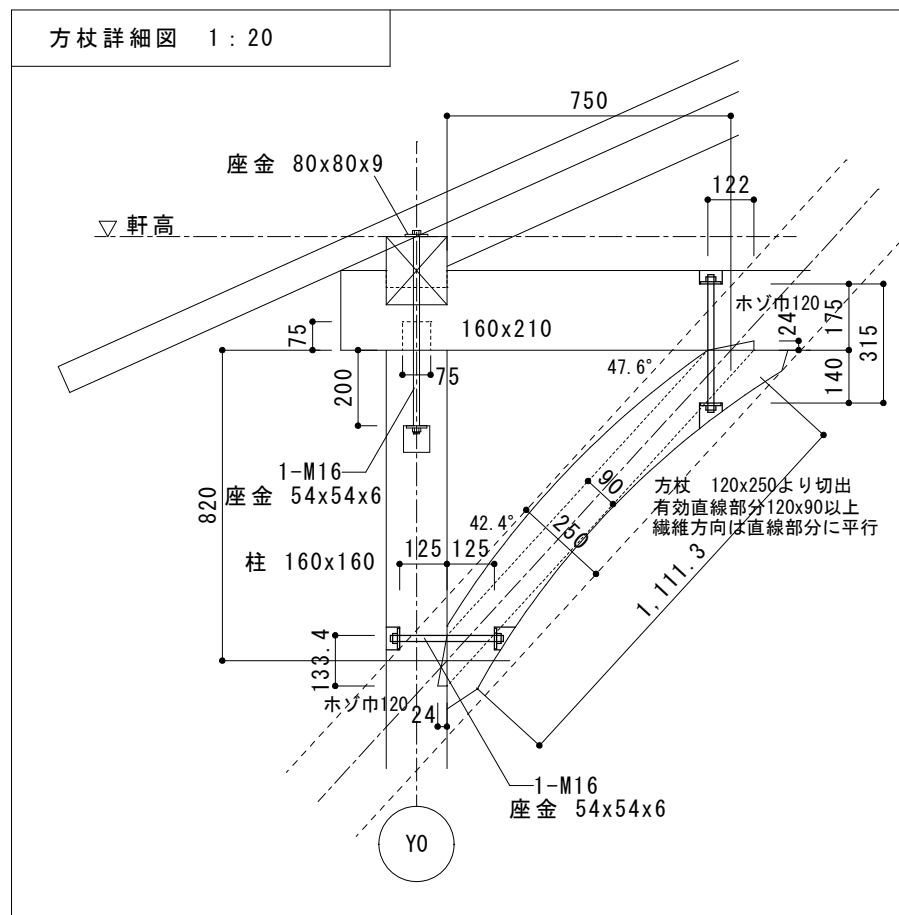
X0通り 軸組図 1 : 100



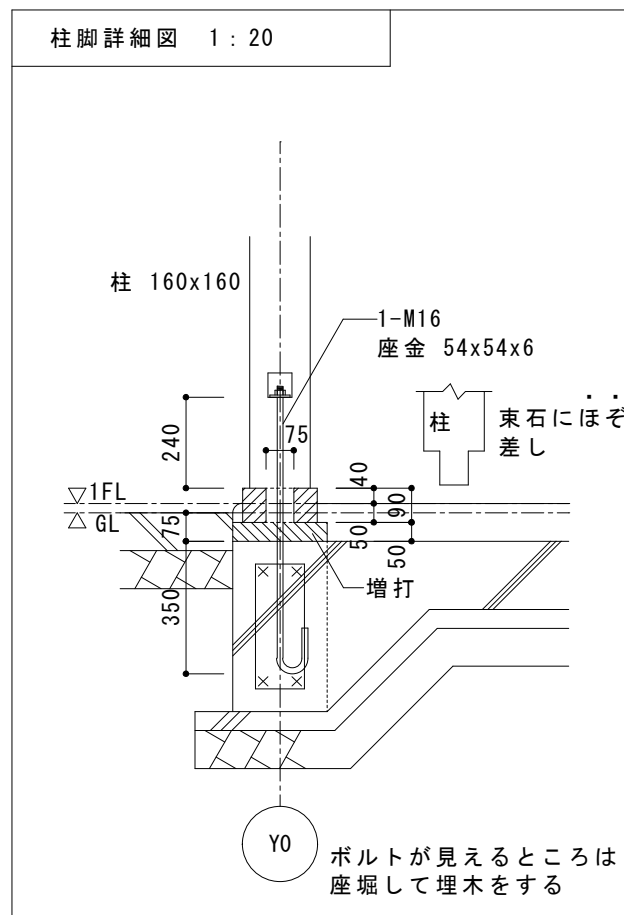
X6通り 軸組図 1 : 100



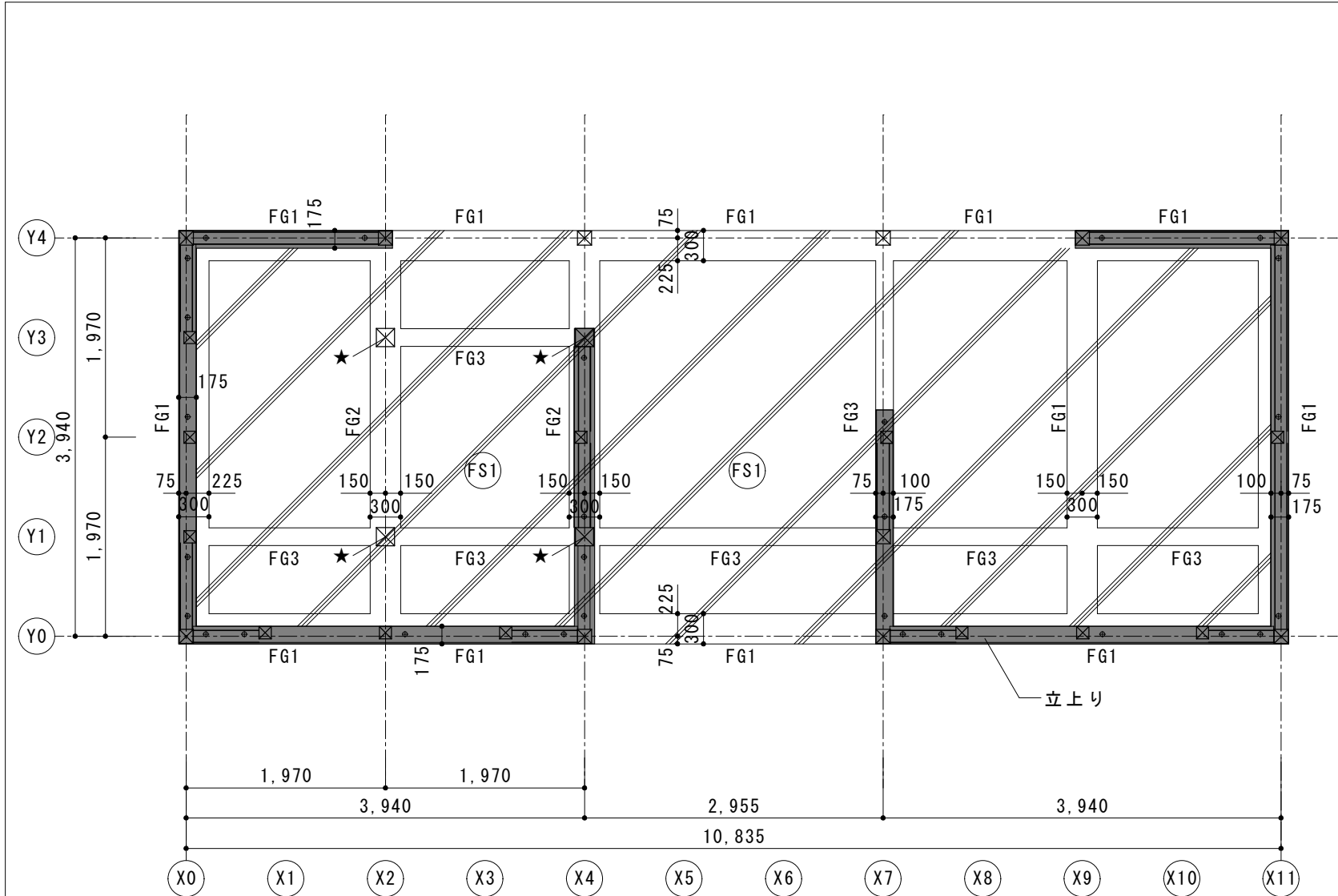
X10通り 軸組図 1 : 100



方杖詳細図 1 : 20



柱脚詳細図 1 : 20



基礎伏図 1 : 60

特記事項

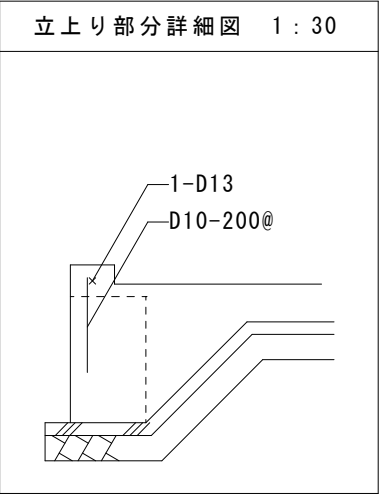
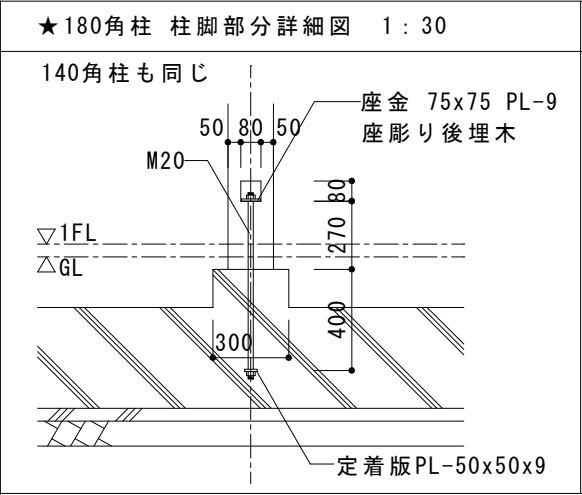
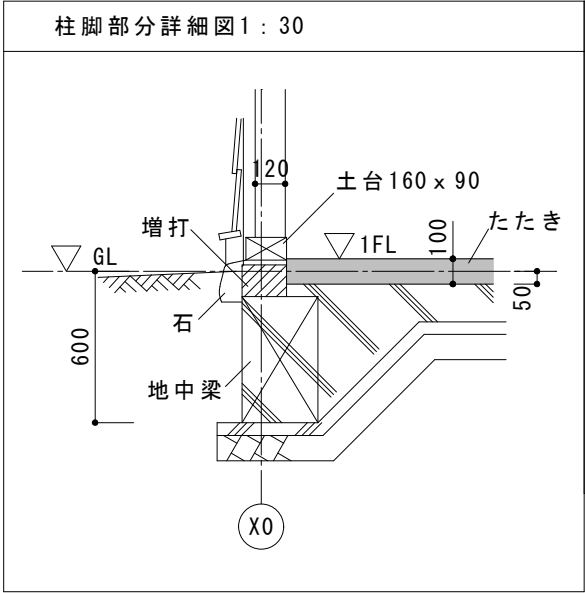
- ・設計地耐力30 kN/m²
- ・特記なきは (FS2)

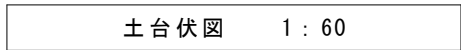
地中梁配筋リスト 1:30

材名	FG1		FG2
部分	全域		全域
GL			
FG			
B x D	300 x 500		300 x 500
上端筋	3-D16		2-D13
下端筋	3-D16		2-D13
スターラップ	D10-200@		D10-200@
材名	FG3		
部分	全域		
GL			
FG			
B x D	175 x 500		
上端筋	2-D13		
下端筋	2-D13		
スターラップ	D10-200@		

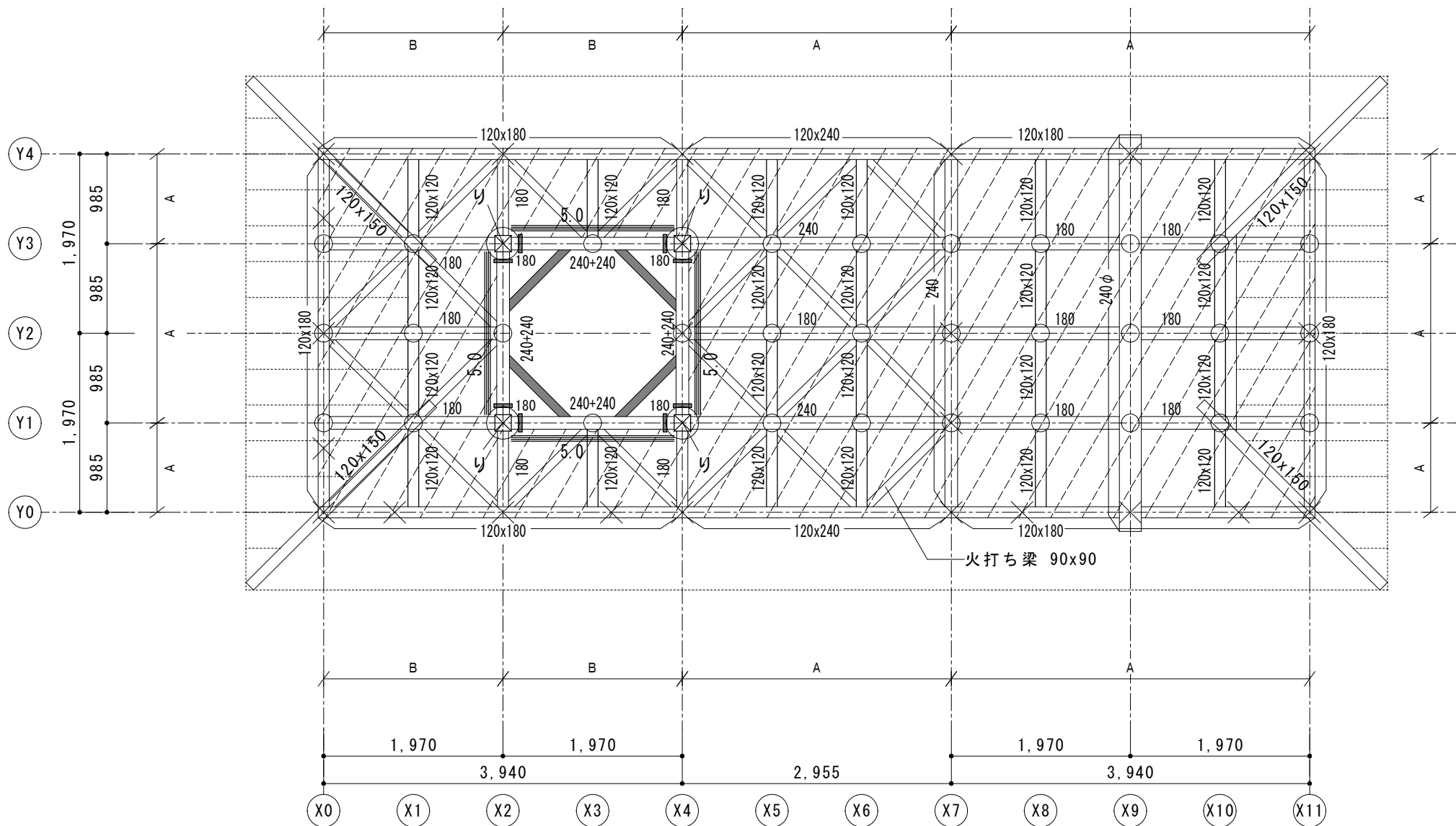
床版配筋リスト 1:40

	短辺方向	長辺方向
FS1		
FS2		

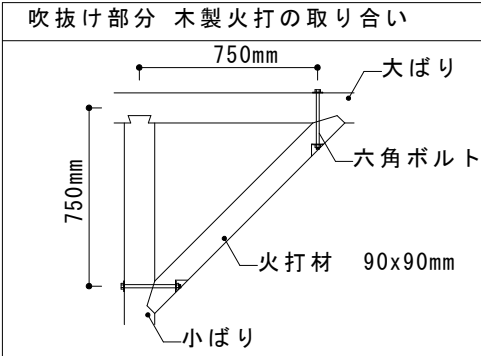




部材表	
120 ^図	柱 無等級材 桧 120 x 120
独立柱 ^図	柱 無等級材 桧 140 x 140 アンカーM20 柱脚は基礎伏図による
図	柱 特記なきは 無等級材 桧 140 x 140
180 ^図	柱 無等級材 桧 180 x 180 アンカーM20 柱脚は基礎伏図による
⊗	通し柱
＝	土台 *特記なきは 無等級材 桧 幅は記入 高さ120
⌋	アンカーボルト：M12 @2m以内 角座金 厚さ6mm、60mm角 又はオメガ丸座金58（タナカ）同等品
2.5	耐力壁 数字は倍率を示す 構造用合板 t = 12（針葉樹） 釘N50@150 片面張り
5	耐力壁 数字は倍率を示す 構造用合板 t = 12（針葉樹） 釘N50@150 両面張り



2階床梁伏図 1 : 60



凡 例	
	柱 桧 無等級材 180 x 180
	通し柱
	束
	下部柱
	梁 桧 無等級材 特記なき幅は140 数字は梁せい
	垂木 桧 60 x 90@394
	耐力壁 数字は倍率を示す
構造用合板 t = 12 (針葉樹) 釘N50@150 両面張り	
	テックワン金物を示す
	水平構面 7.84 k N/m 範囲

外周部継ぎ手横架材接合部金物の仕様	
	「A」は横架材金物を示す 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え 羽子板ボルト、又は、短冊金物を配置
	「B」は横架材金物を示す 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え 羽子板ボルト x 2、又は、短冊金物 x 2を配置

構面の仕様 (1FL+3300)		7.84 k N/m
構造用合板 1000 x 2000 厚さ 24mm 受け材 45 x 45以上を面材継ぎ目に沿って落とし込む。 梁側面に受け材と同断面の掘り込加工をして受け材を 落とし込み、受け材上端から梁の掘り込みにN75釘を 1本斜め打ち		
面材釘 N75 ピッチ 150 日の字になるよう 梁に釘打ちする 構造用合板はチドリ配置する		
		3.14 k N/m
火打ち梁 (2段) 梁幅105mm以上梁せい240mm以上 2.5㎡以下に1本		
		1.18 k N/m
火打ち梁 梁幅105mm以上梁せい150mm以上 2.5㎡以下に1本		



Sheet No.
S-20

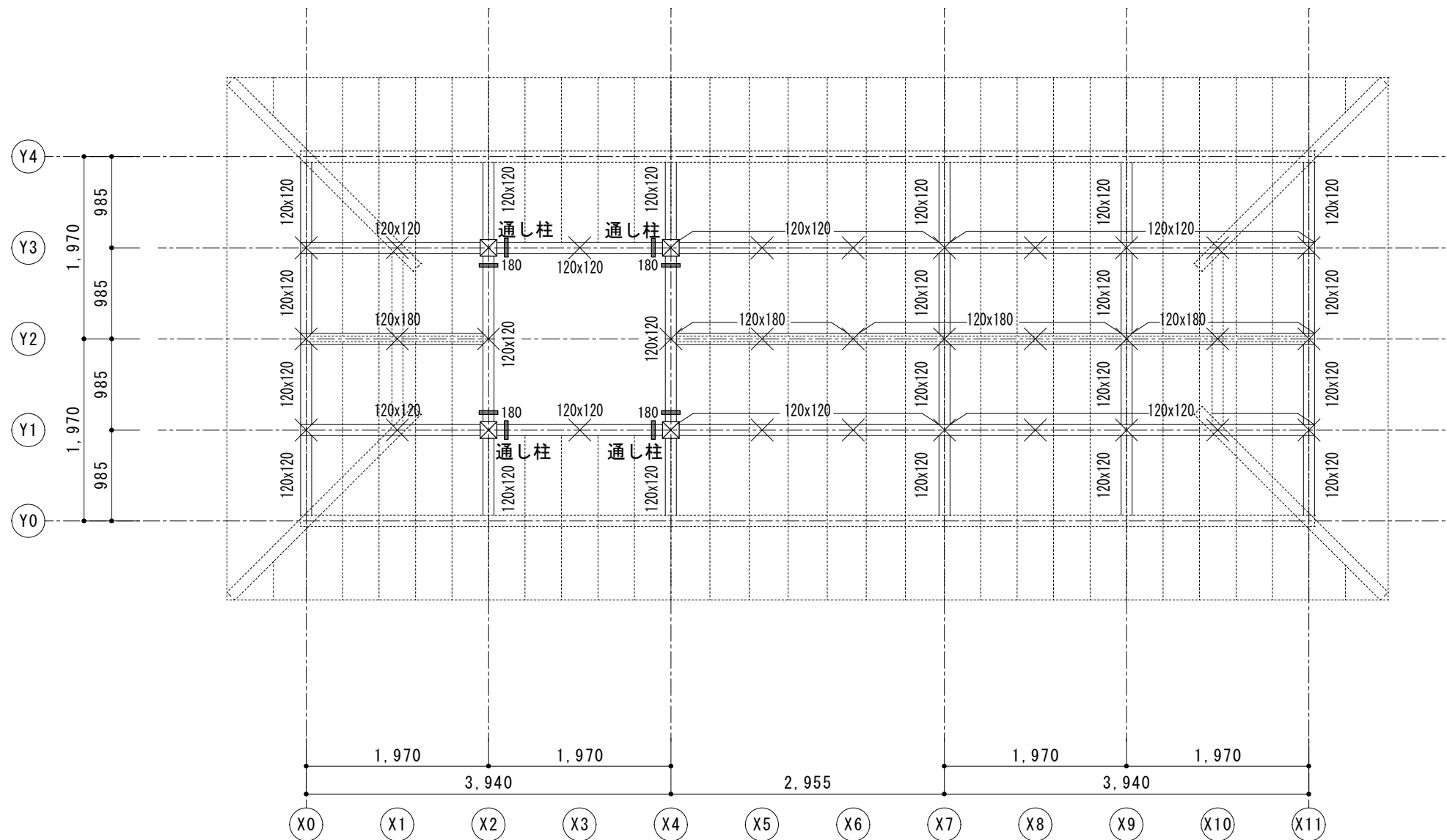
Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事 (建築)

Class 火見槽 梁伏図

Scale 1 : 60

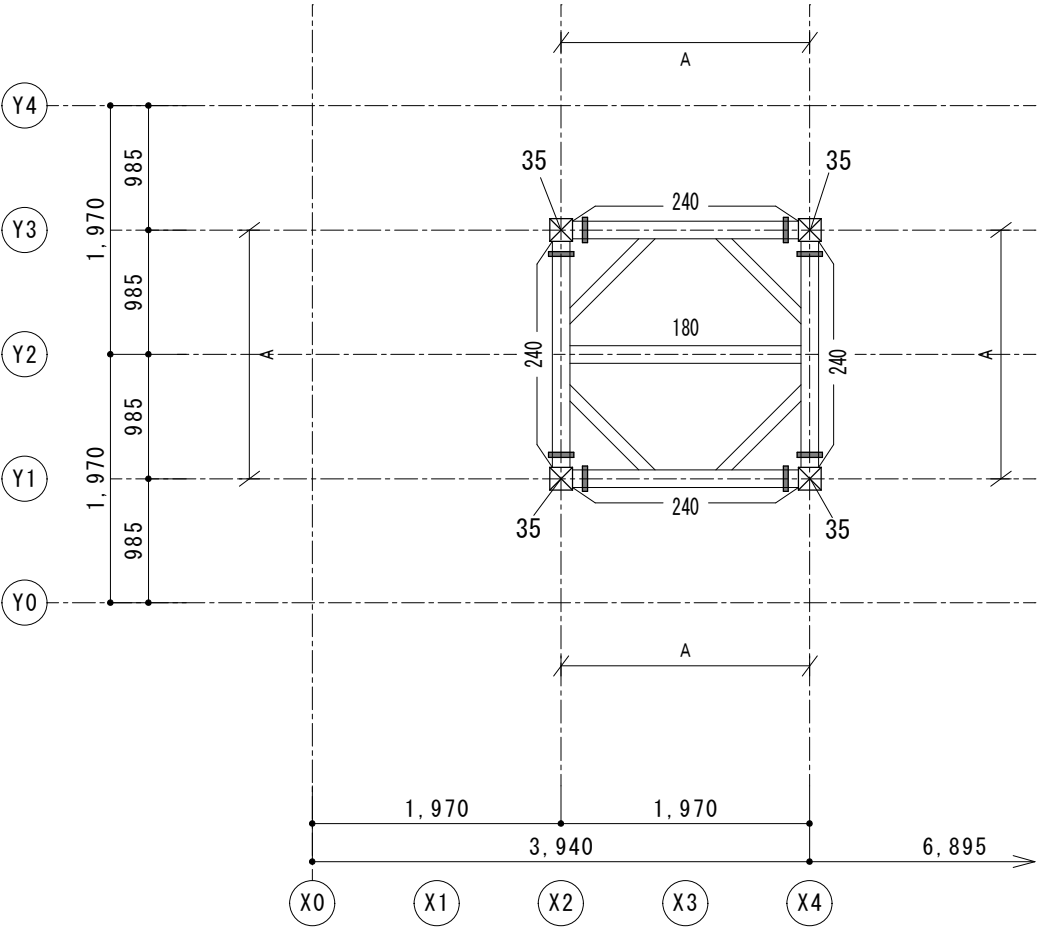
Checked by b. s. l. s.

TAKATSUKI CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE

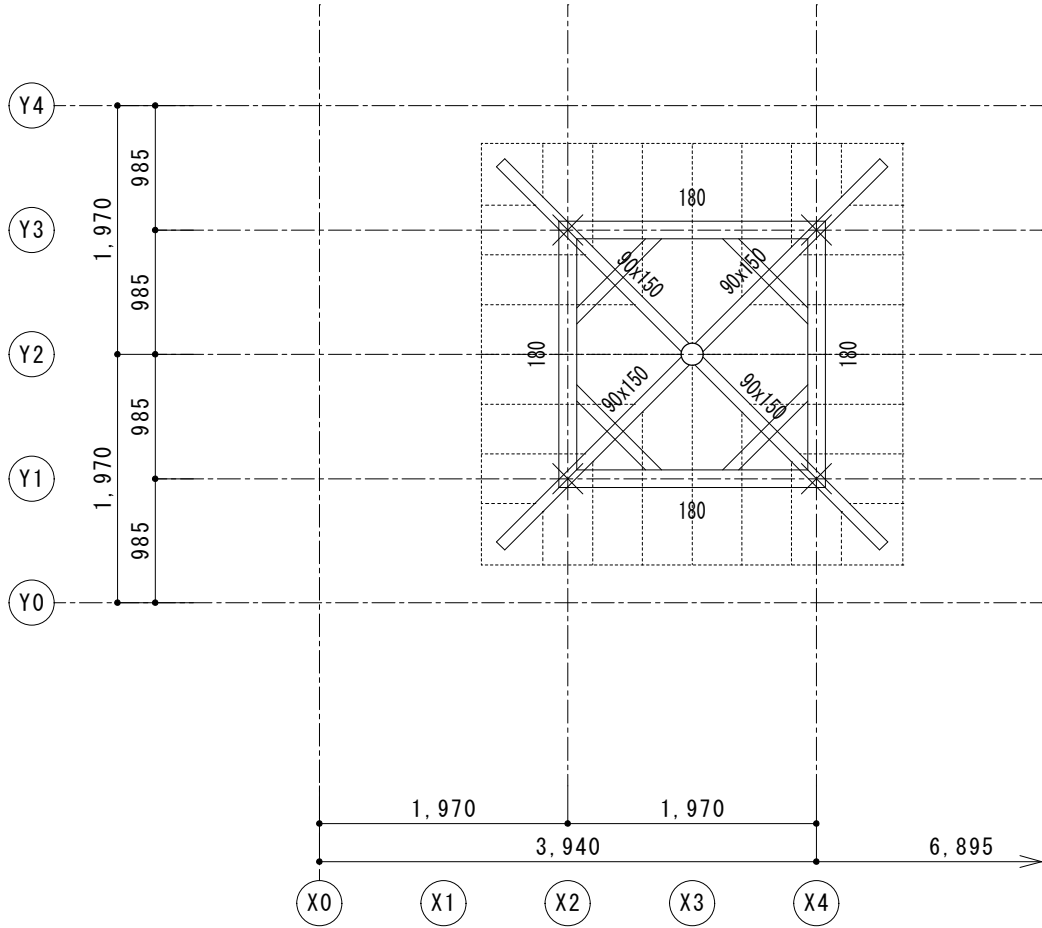


凡例	
×	下部柱
<u>180</u>	梁 桧 特記なき幅は140 数字は梁せい
----	垂木 桧 60×90@394
	テックワン金物を示す

母屋垂木伏図 1 : 60



やぐら小屋梁伏図 1:60



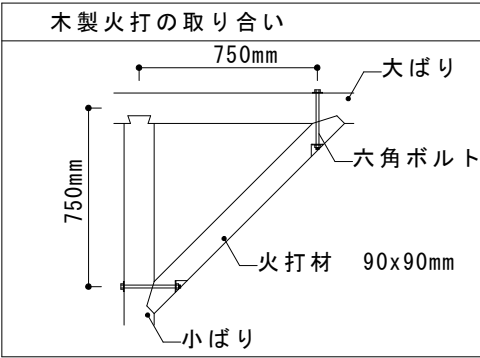
やぐら垂木伏図 1:60

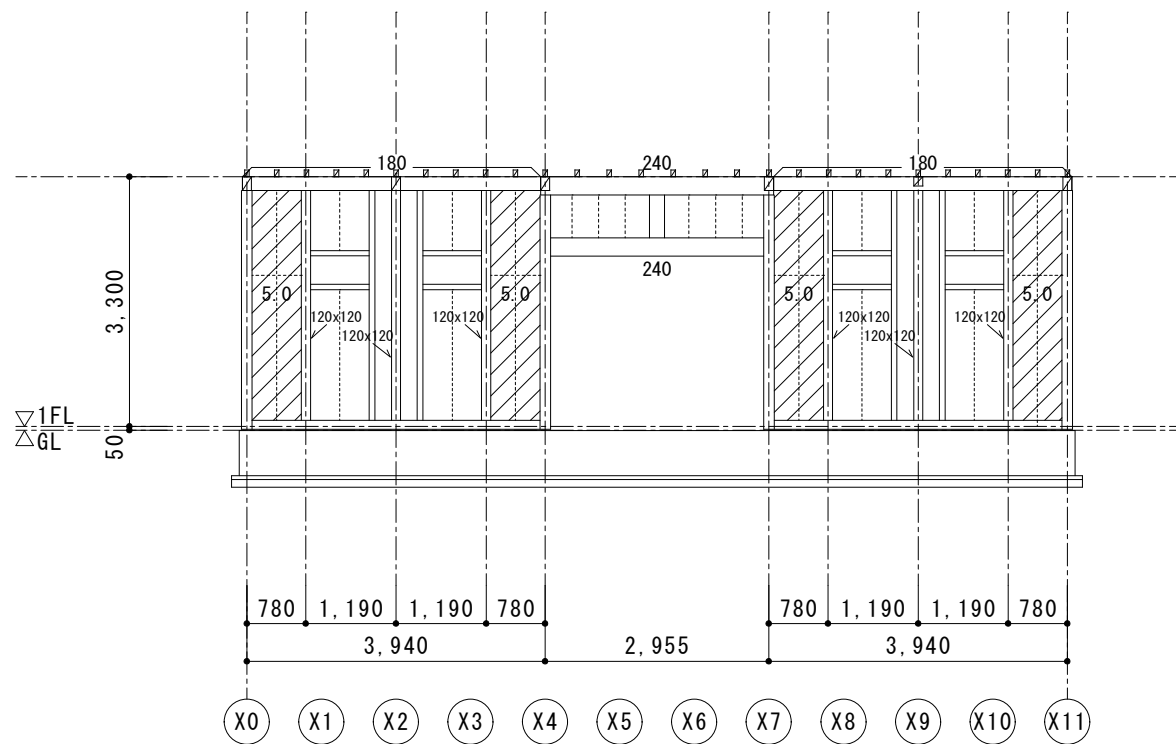
凡例	
×	下部柱
<u>180</u>	梁 桧 特記なき幅は140 数字は梁せい
-----	垂木 桧 60×90@394
	テックワン金物を示す

外周部継ぎ手横架材接合部金物の仕様

「A」は横架材金物を示す
腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え
羽子板ボルト、又は、短冊金物を配置

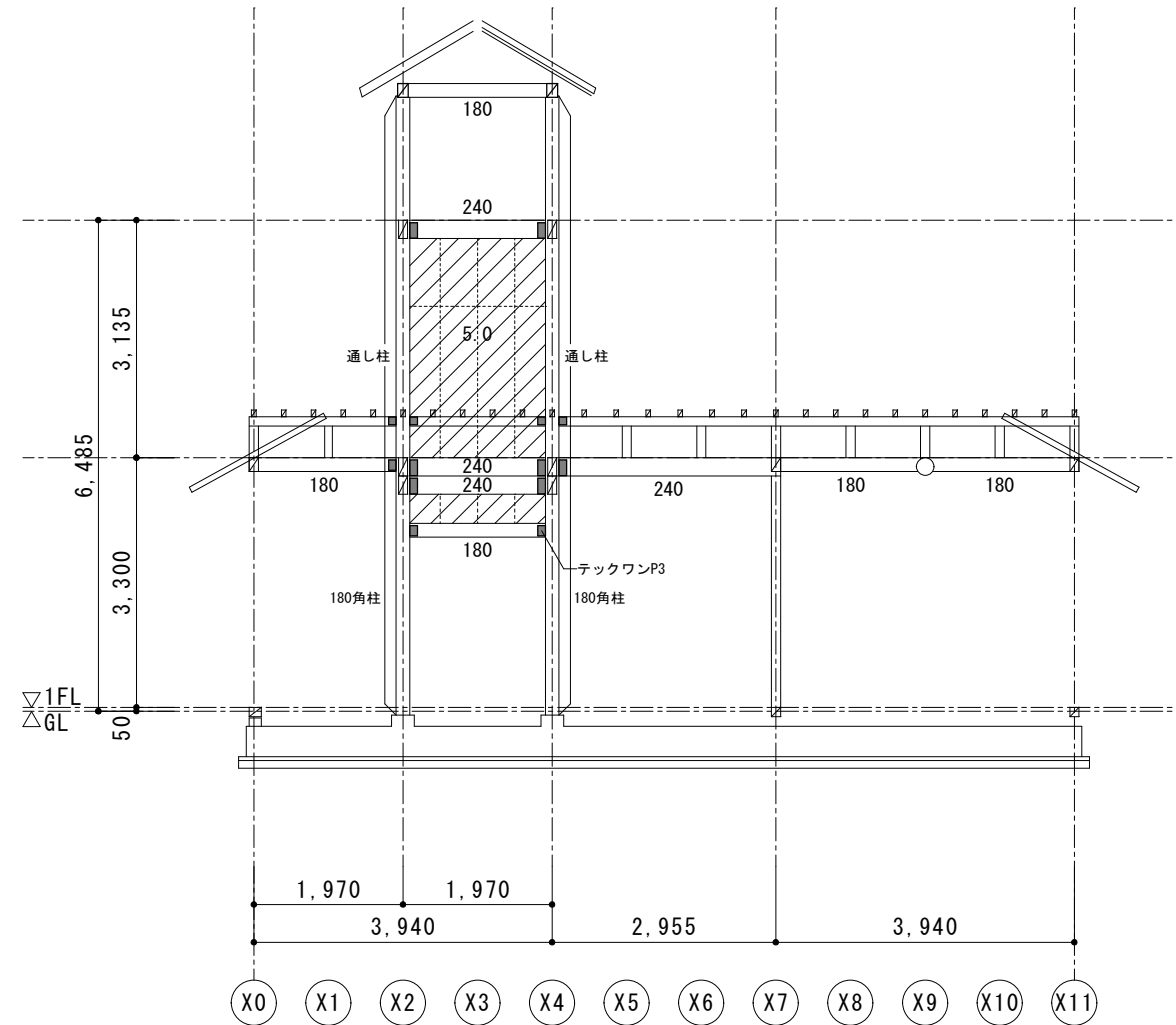
屋根構面の仕様		1.37 k N/m
構造用合板	1000×2000	
厚さ	12mm	
面材釘	N50 ピッチ 150	
	川の字になるよう	
	垂木60×90に釘打ち	
	垂木は母屋、桁に2-N75斜め打	
	構造用合板はチドリ配置する	
		1.57 k N/m
火打ち梁		
梁幅105mm以上梁せい240mm以上 2.5㎡以下に1本		



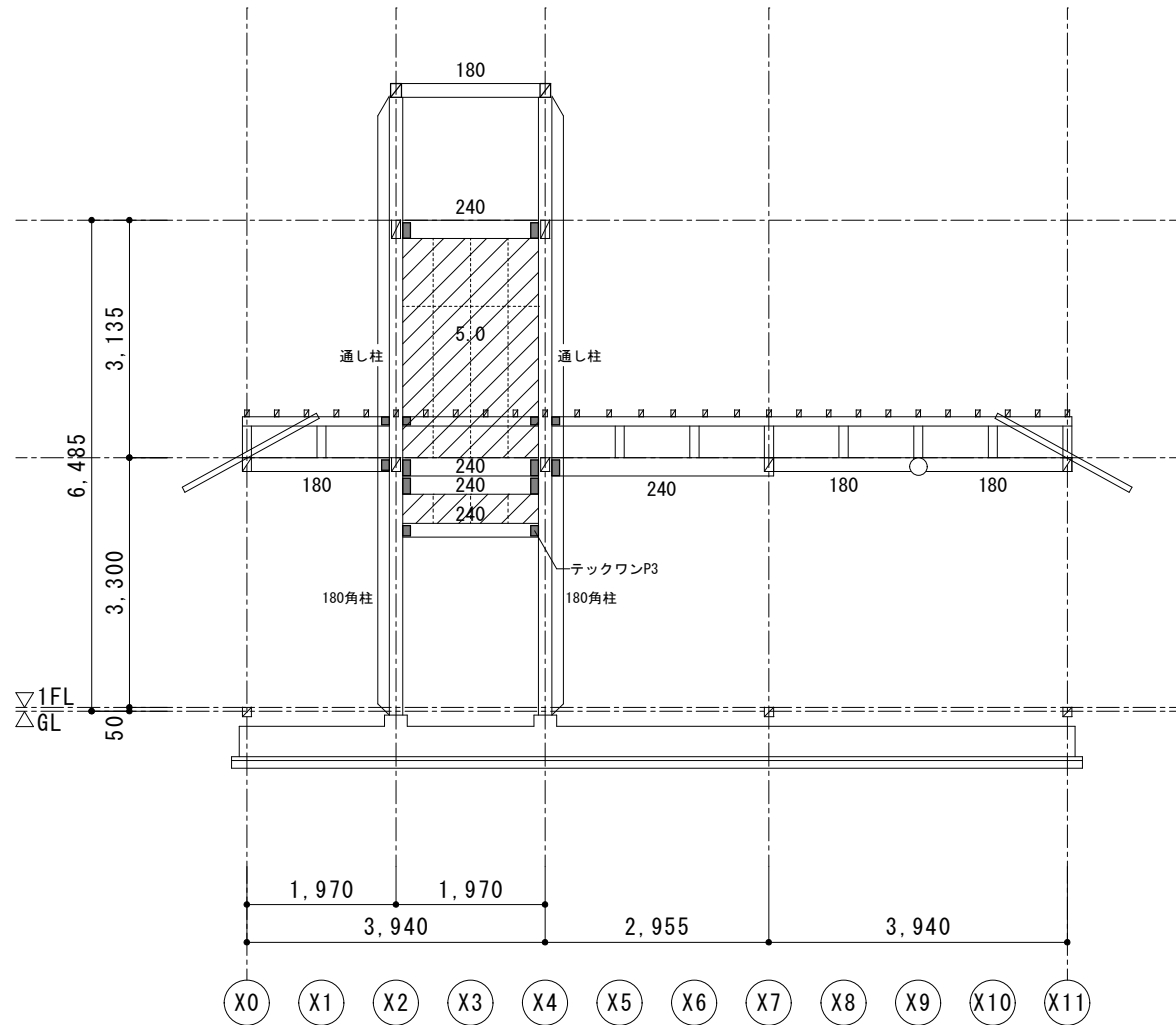


Y0通り 軸組図 1:100


凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用MDF大壁 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下

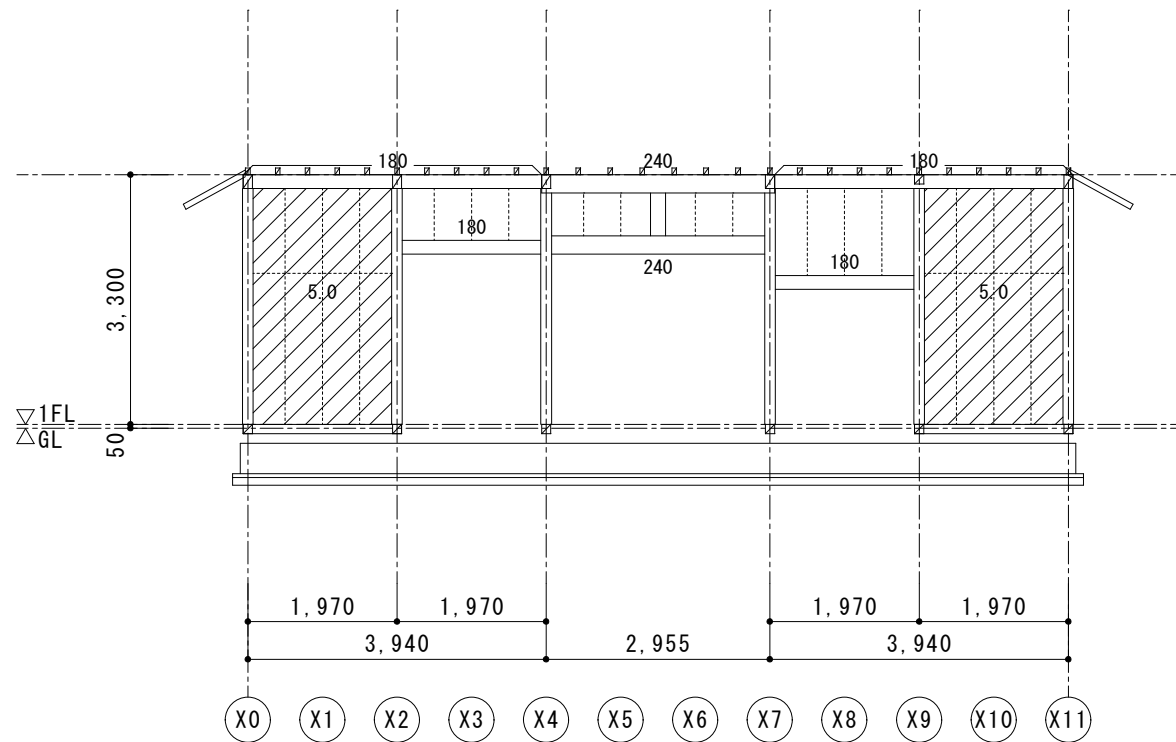


Y1通り 軸組図 1:100



Y3通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用MDF大壁 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下

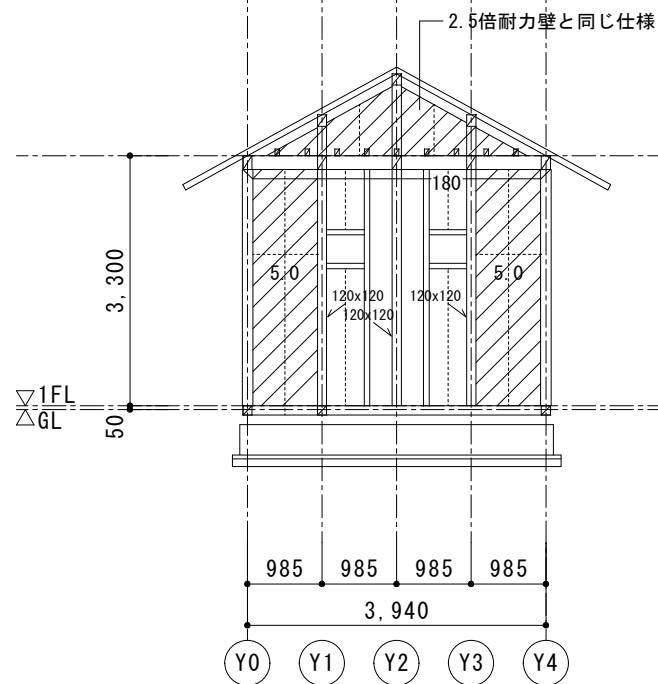


Y4通り 軸組図 1 : 100

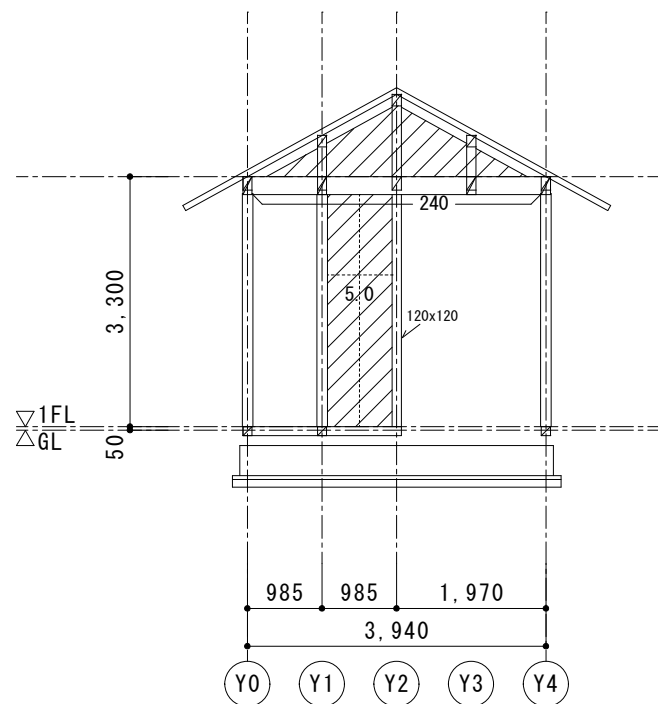


Sheet No.
S-24

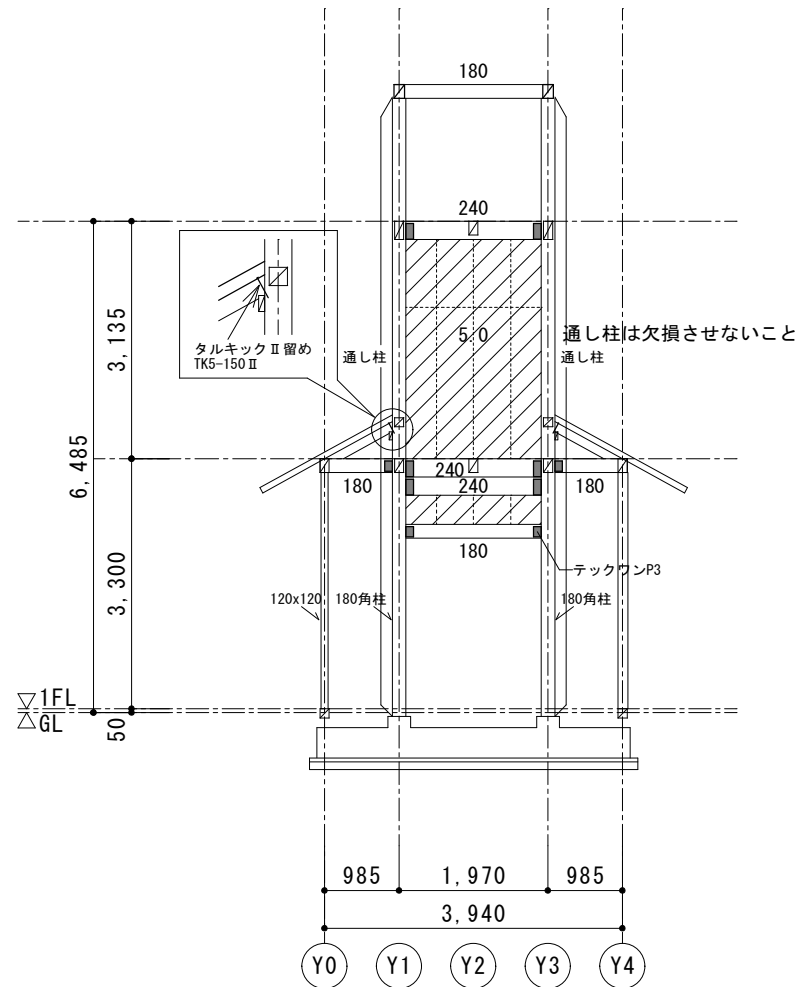
Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事 (建築)
Class 火見櫓 軸組図 2
Scale 1 : 100
Checked by b. s. l. s.
TAKATSUKI CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE



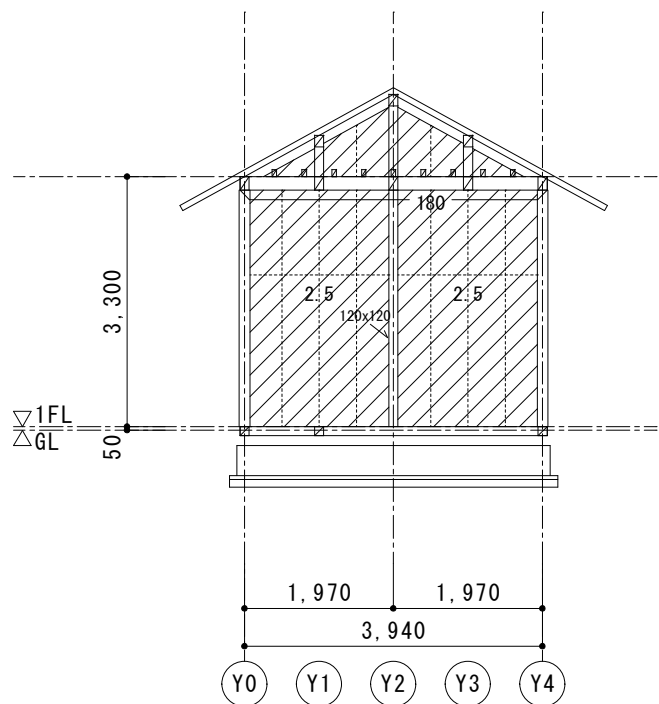
X0通り 軸組図 1 : 100



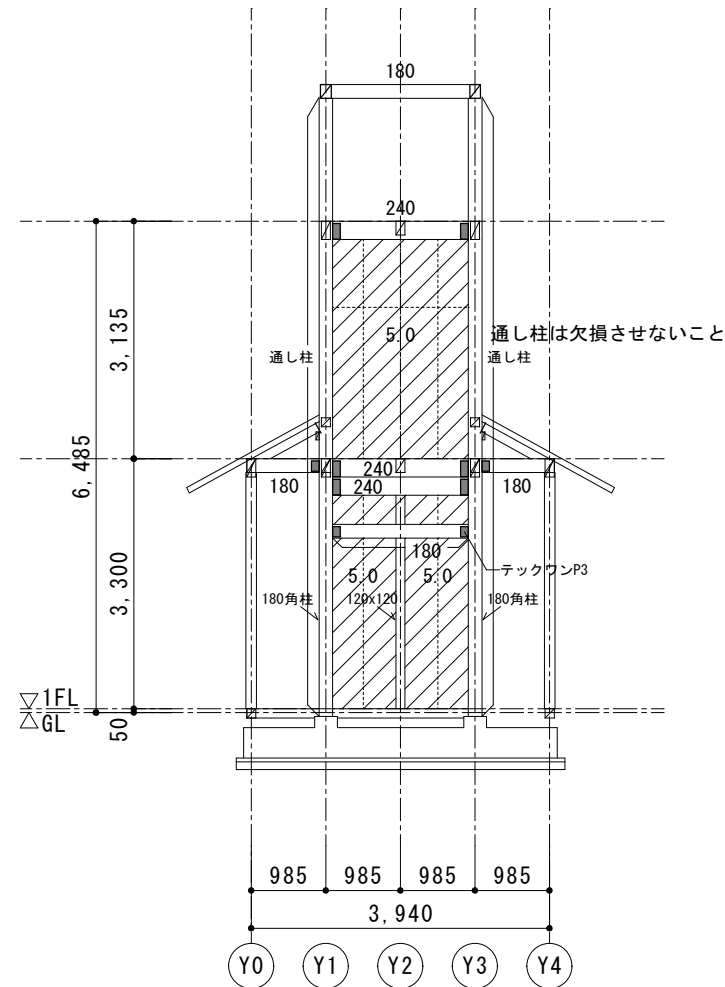
X7通り 軸組図 1 : 100



X2通り 軸組図 1 : 100



X11通り 軸組図 1 : 100



X4通り 軸組図 1 : 100

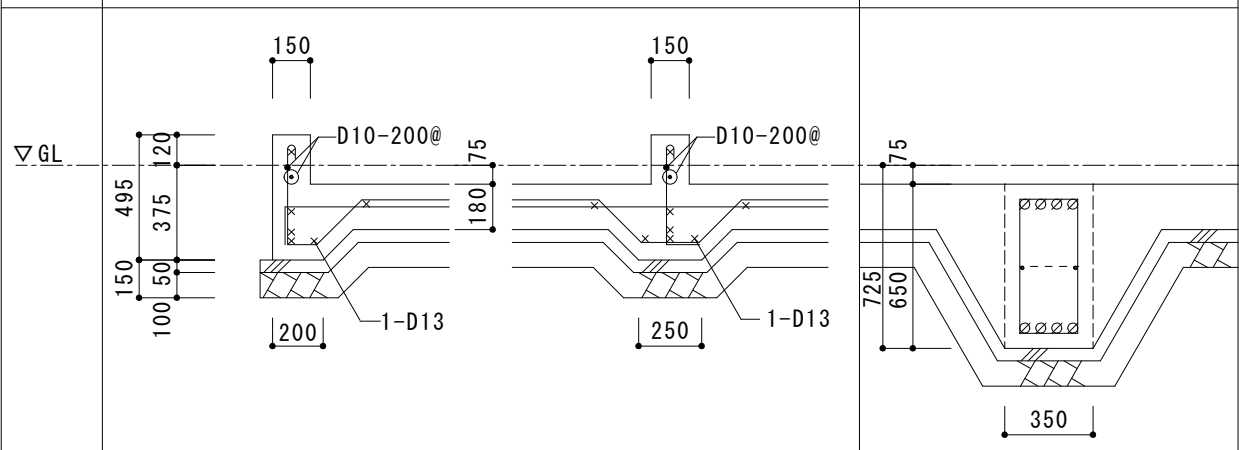
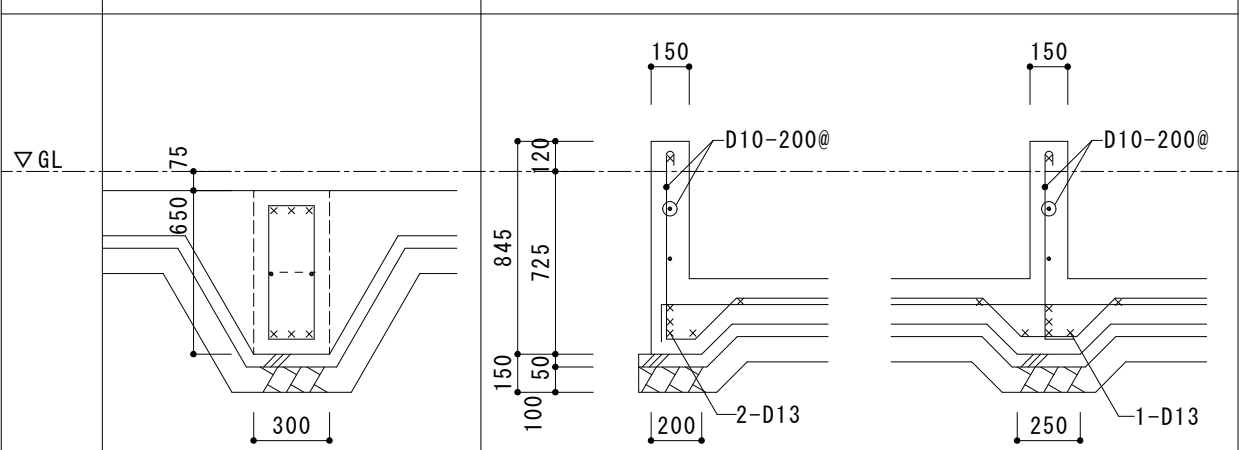
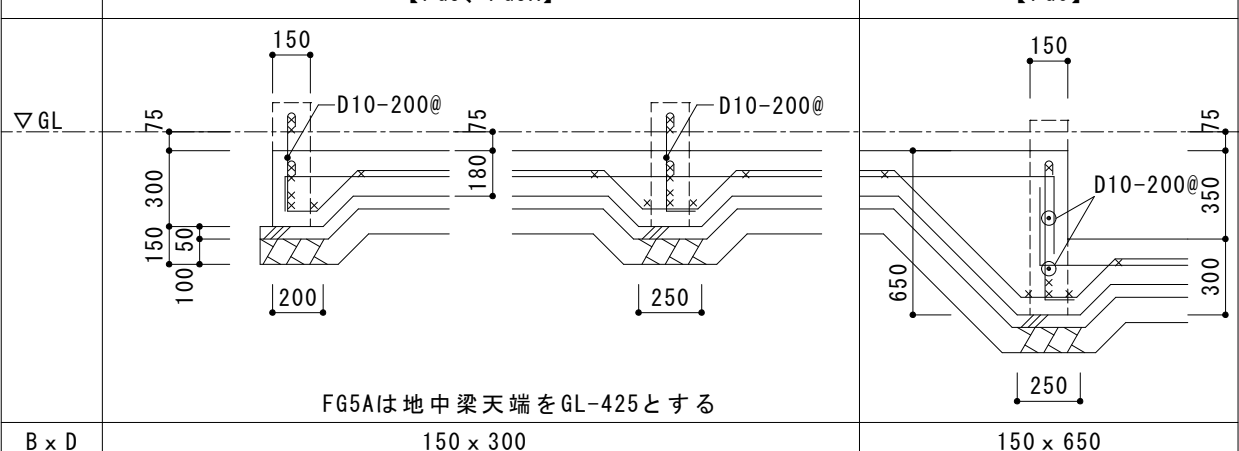
凡例	昭和56年建設省告示1100号		
2.5	構造用MDF大壁 釘N50 釘ピッチ 150mm以下	片面	
5.0	構造用MDF大壁 釘N50 釘ピッチ 150mm以下	両面	



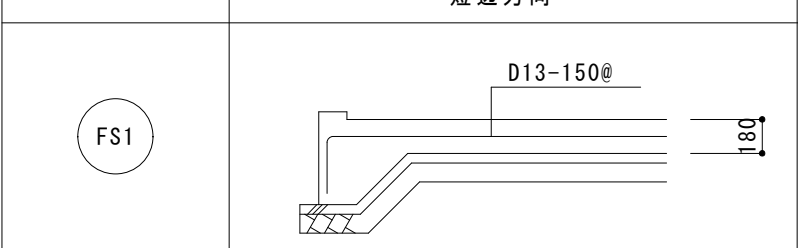
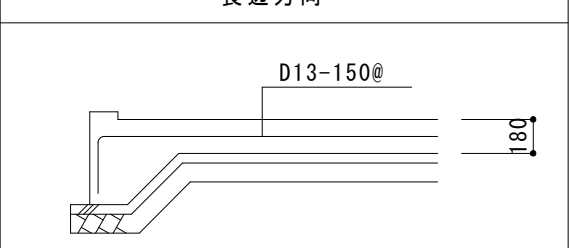
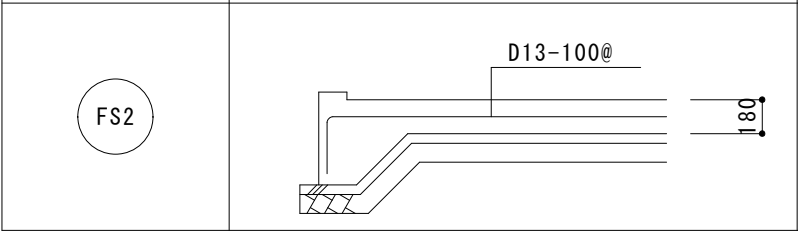
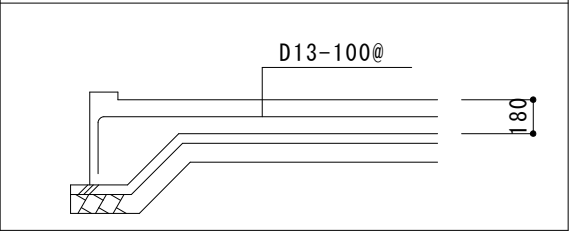
Sheet No.
S-25

Name 高槻城公園北エリア(一期)整備工事 (建築)
Class 火見櫓 軸組図3
Scale 1 : 100
Checked by b. s. l. s.
TAKATSUKI CITYHALL A SECTION OF ARCHITECTURE

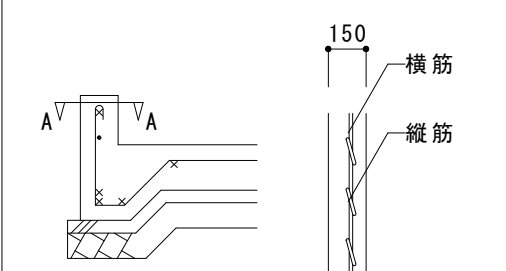
地中梁配筋リスト 1:30

	【FG1】	【FG2】
		
B × D	150 × 495	350 × 650
上端主筋	1-D13	4-D16
下端主筋	2-D13	4-D16
スターラップ	D10-200@	D10-150@
	【FG3】	【FG4】
		
B × D	300 × 650	150 × 845
上端主筋	3-D13	1-D13
下端主筋	3-D13	2-D13
スターラップ	D10-200@	D10-200@
	【FG5、FG5A】	【FG6】
		
B × D	150 × 300	150 × 650
上端主筋	2-D13	1-D13
下端主筋	2-D13	2-D13
スターラップ	D10-200@	D10-200@

床版配筋リスト 1:40

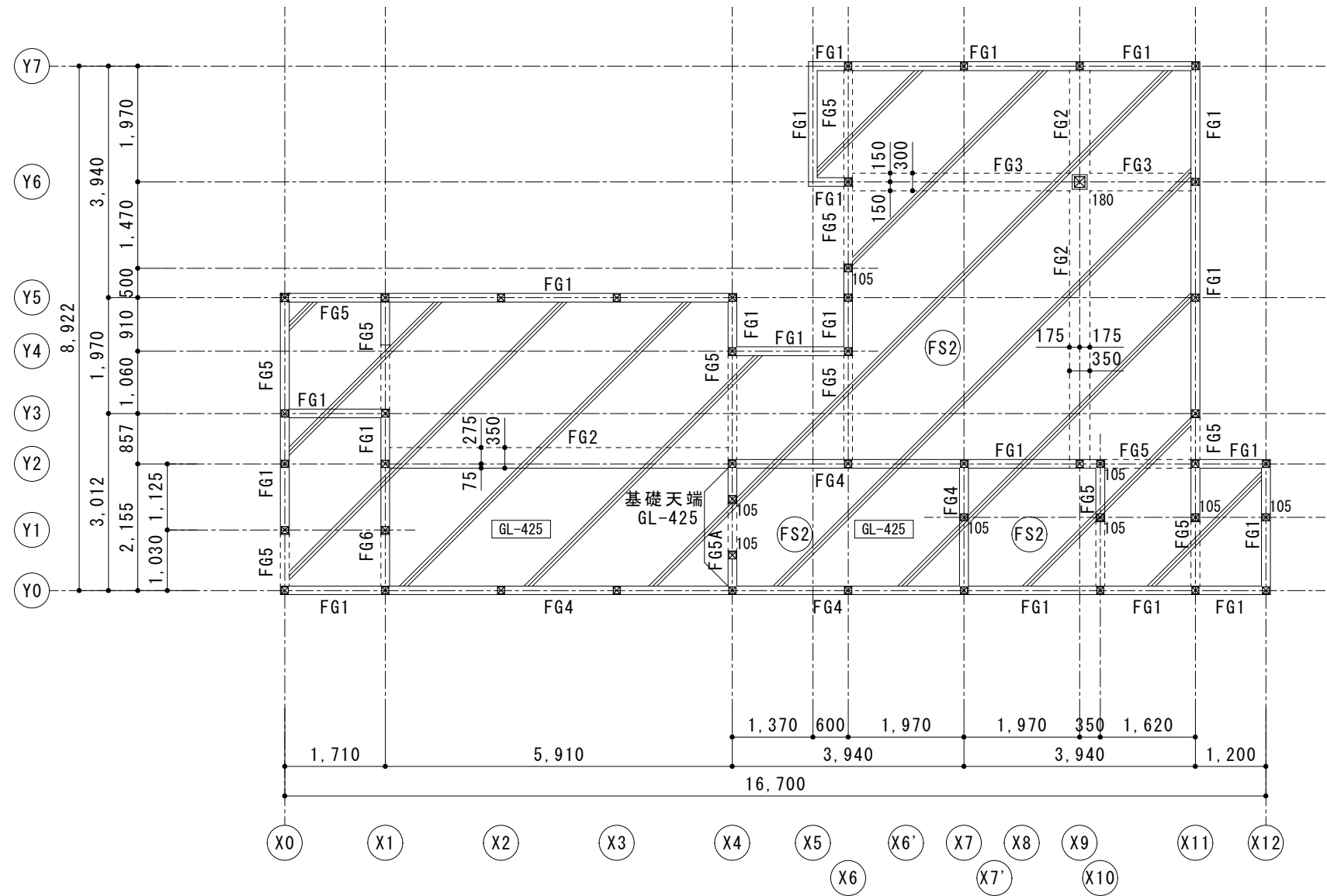
	短辺方向	長辺方向
		
		

地中梁配筋 特記事項



A-A断面

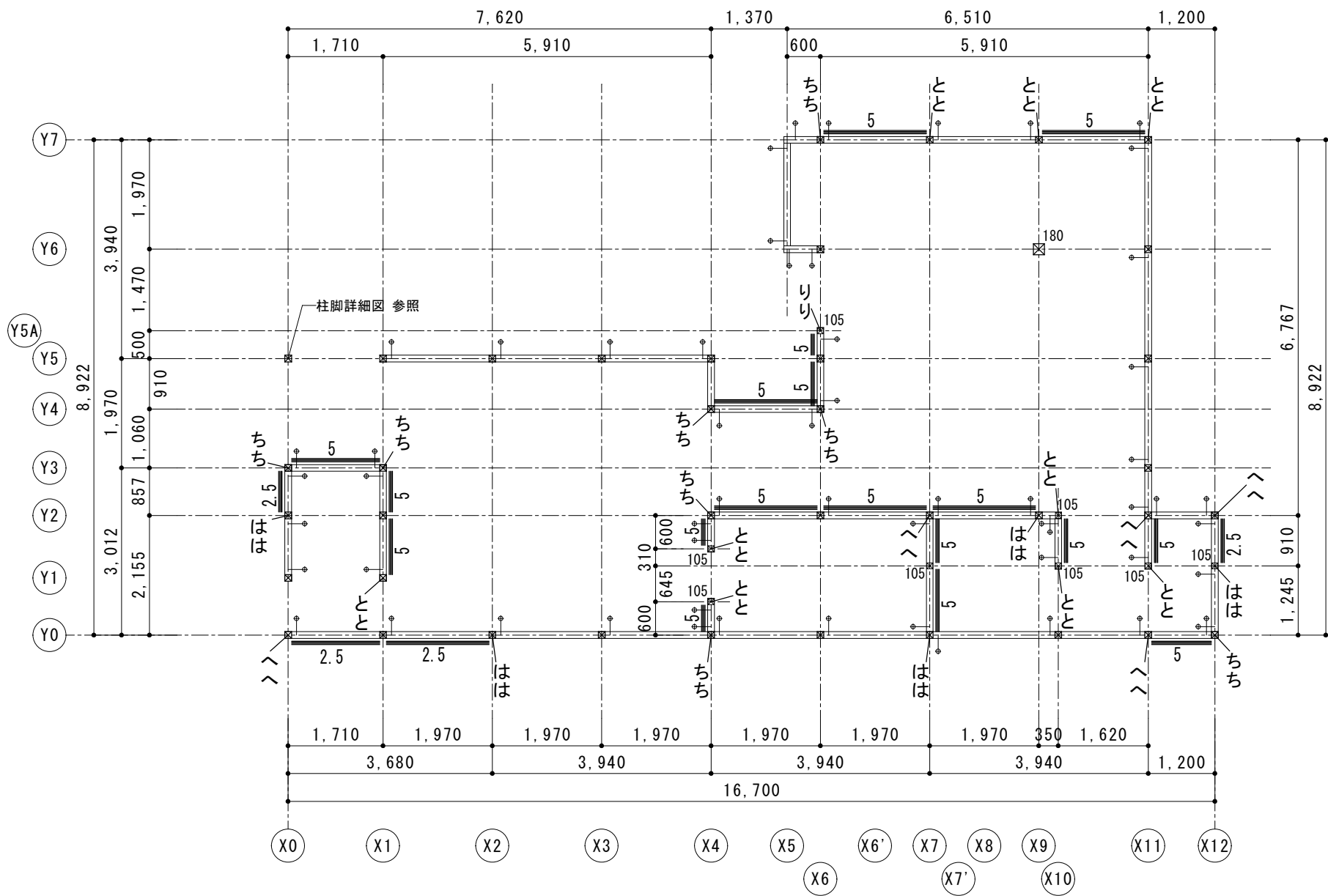
かぶりが確保できない場合は縦筋頂部を斜めにする



基礎伏図 1 : 100

凡例	
	特記なき基礎幅150
	基礎スラブを示す

特記事項
・ 設計地耐力30 k N/m ² ・ 特記なきスラブは (FS1) ・ 特記なきスラブ天端はGL-75

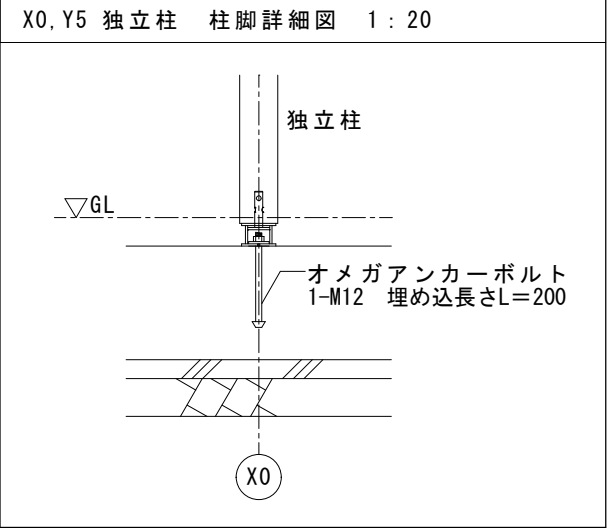


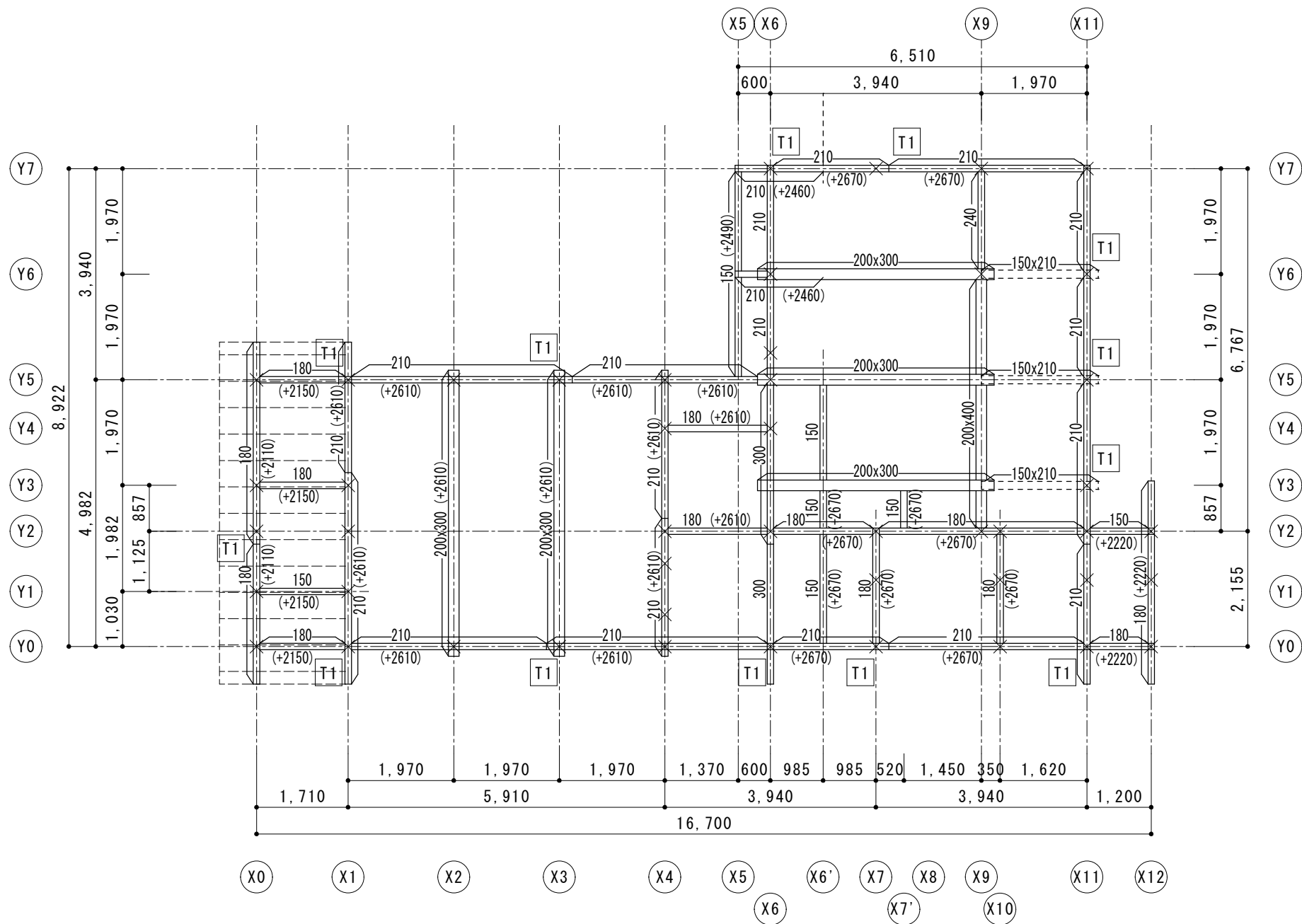
土台伏図 1 : 100

金物リスト、金物特記事項	
は	フラットプレートSD、リトルコーナー（タナカ）他
へ	10kN用引き寄せ金物
と	15kN用引き寄せ金物
ち	20kN用引き寄せ金物
り	25kN用引き寄せ金物
例：へ：柱頭金物を表す へ：柱脚金物を表す ・金物はZマーク品又は同等品とする ・柱脚は全て短ぼぞ。加えて必要金物を配置する ・特記なき柱脚は短ぼぞに加え、5kN以上の金物を上下に配置 ・柱頭柱脚は同一金物を使用する ・10kN金物から150mm以内に土台アンカーボルトを設置。土台アンカーボルトは座金厚6mm×60mm角又は、10kN対応座金を使用する ・10kNを超える柱脚金物にはD16のアンカーを設置すること	

土台アンカーボルト特記事項
特記なきアンカーボルトの埋め込み長さは250mm以上とする アンカーボルトの先端は土台上端よりナットの外にネジが3山以上出るよう固定する アンカーボルト埋設位置は次による 1、耐力壁の両側の柱の近接部（柱芯より200mm以内） ただし、ホールダウン専用アンカーボルトが取り付けられた場合は省略することができる 2、土台切れ箇所、土台継ぎ手及び土台仕口箇所の上木端部とし、出隅部分はできるだけ柱に近接した位置とする 3、その他の部分は間隔2.0m以内とする。

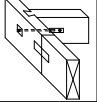
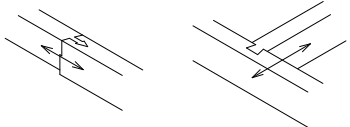
部材表	
☒	柱 *特記なきは
無等級材	桧
120×120	
独立柱☒	柱
無等級材	桧
120×120	
柱脚は引き抜き対応品 例：LB+P90（タツミ）他	
105☒	柱
無等級材	桧
105×105	
180☒	柱
無等級材	桧
180×180	
アンカーM12 柱脚は引き抜き対応品 LB+C-140（タツミ）他 ドリフトピン孔は埋木	
土台	*特記なきは
無等級材	桧
120×120	
アンカーボルト：M12	@2m以内
角座金 厚さ6mm、60mm角 又はオメガ丸座金58（タナカ）同等品	
2.5	耐力壁 数字は倍率を示す
構造用合板 t = 12（針葉樹） 釘N50@150 片面張り	
5	耐力壁 数字は倍率を示す
構造用合板 t = 12（針葉樹） 釘N50@150 両面張り	



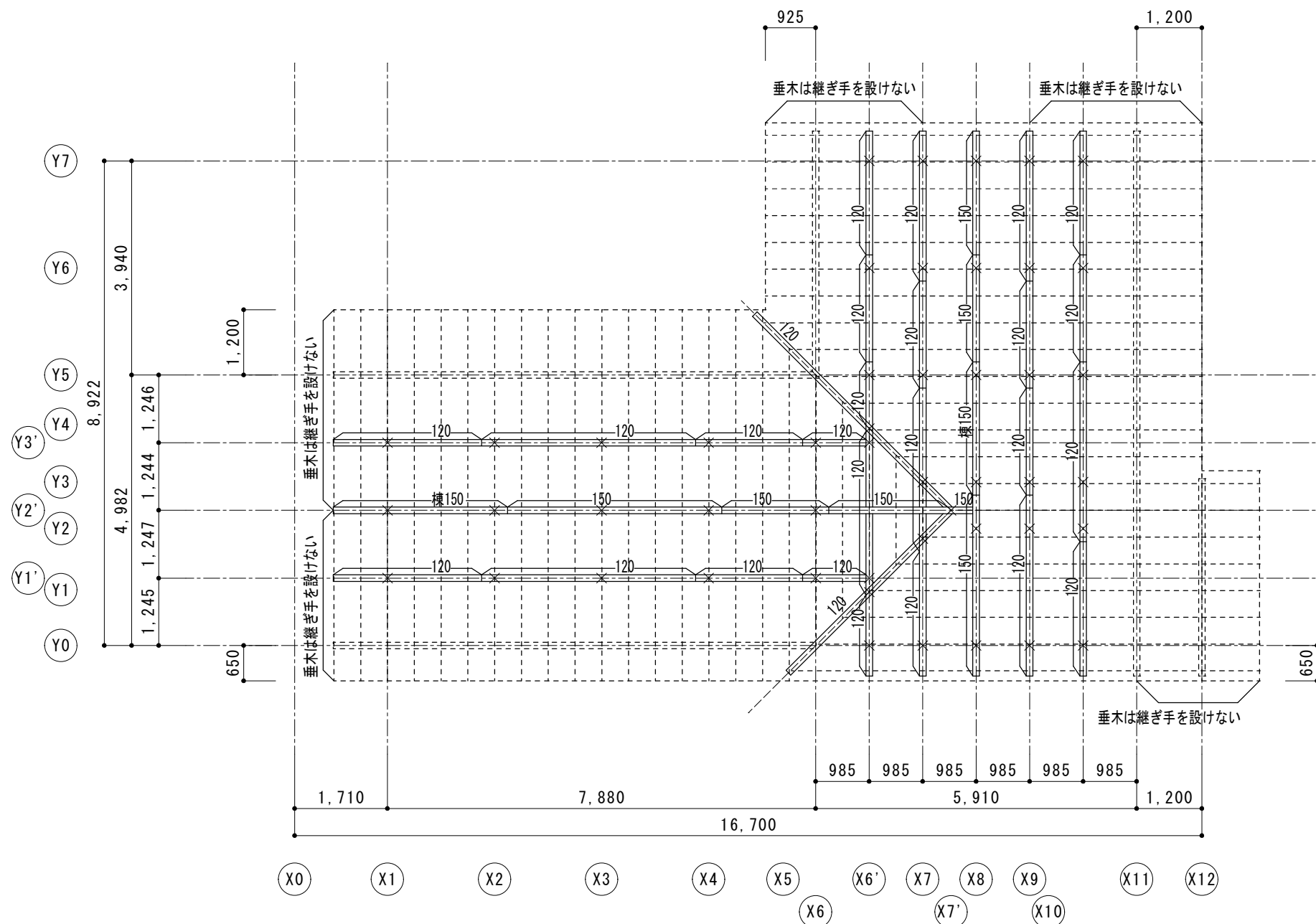


小屋伏図 1 : 100

部材表	
×	下部柱
○	束
300	梁 数字は梁せい 特記なきは 無等級材 杉 幅120
150×210	梁 数字は幅×梁せい 無等級材 杉 幅150
200×300	梁 数字は幅×梁せい 無等級材 杉 幅200

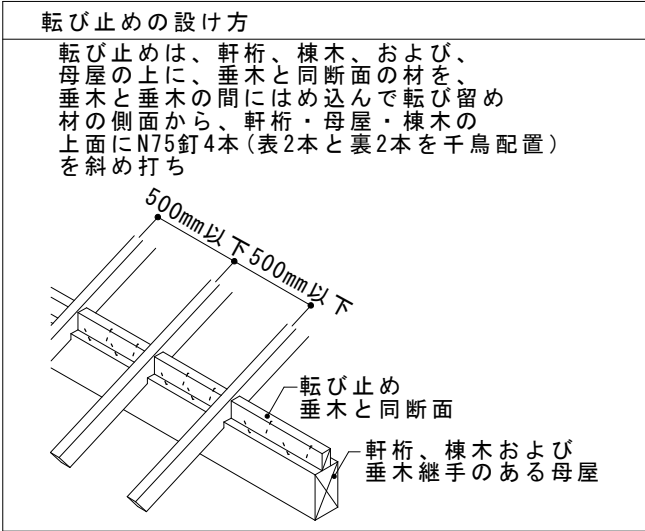
外周部継ぎ手横架材接合部金物の仕様	
	T1 腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛けに加え 羽子板ボルト、又は、短冊金物を配置
	

特記事項
()内の数値は土台天端からの高さを示す 特記なき梁は土台天端から+2760とする

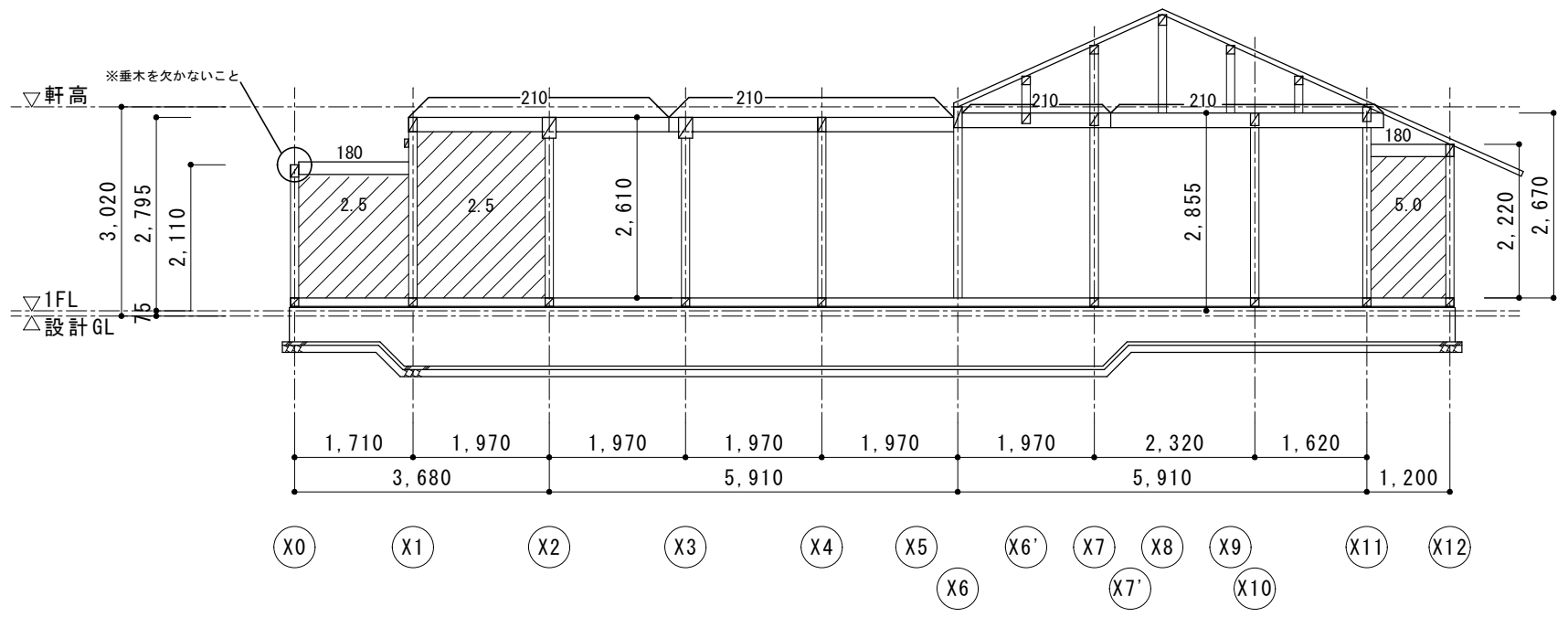


母屋垂木伏図 1 : 100

屋根構面の仕様		1.96 k N/m
構造用合板	1000 × 1000	転び止あり
厚さ	12mm	
面材釘	N50 ピッチ 150	
	川になるよう	
	垂木に釘打ち	
	垂木は母屋、桁に2-N75斜め打	
	構造用合板はチドリ配置する	
	転び止めは母屋、桁に4-N75斜め打	
	※下屋部分も同じ仕様とする	

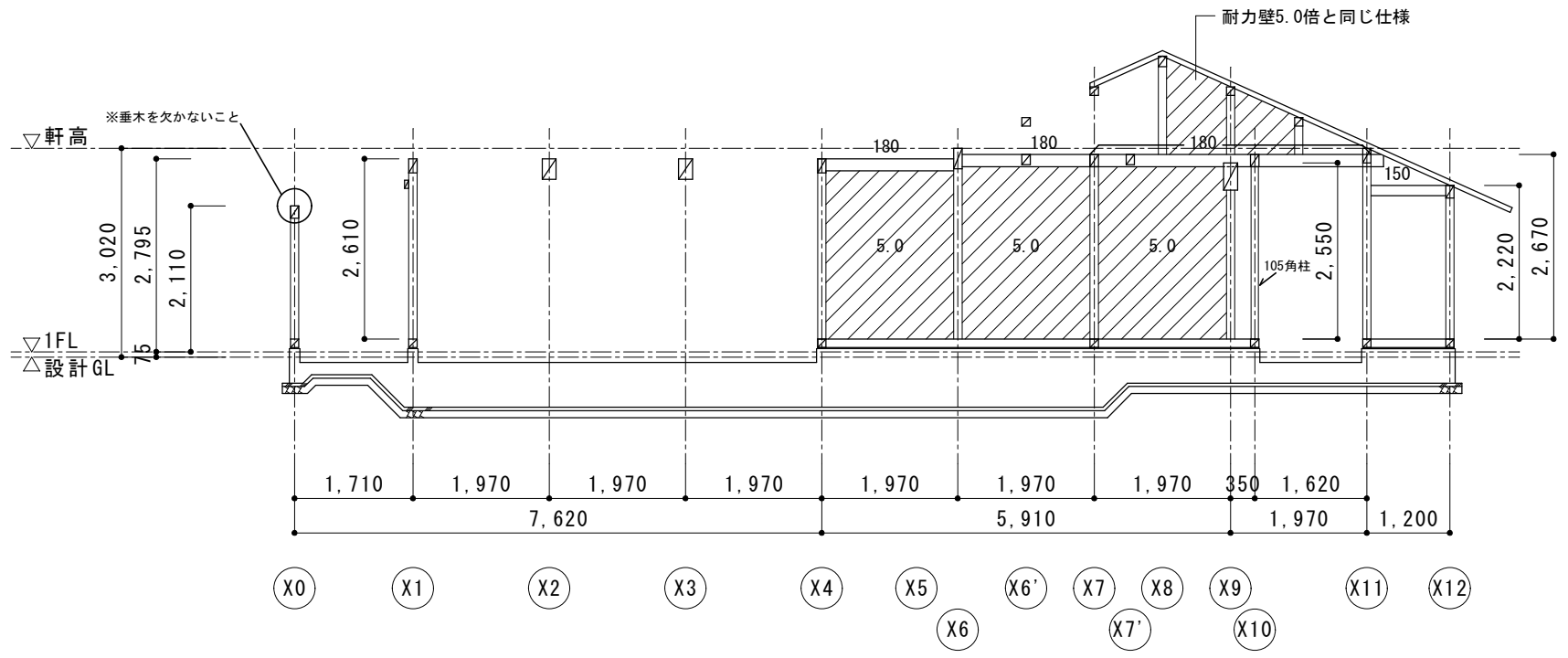


垂木 1:20
合成梁 (一体として計算)
野垂木 120 × 60@493
化粧垂木 60 × 75@493

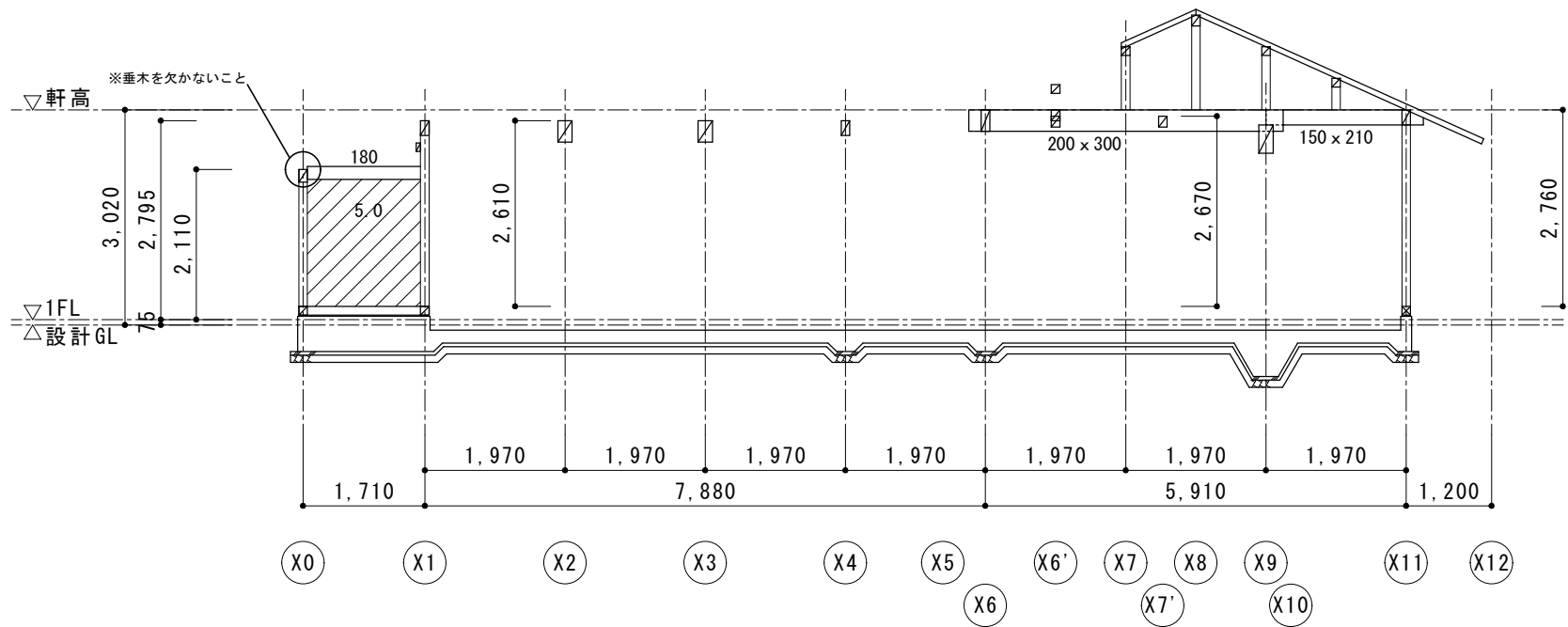


Y0通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下

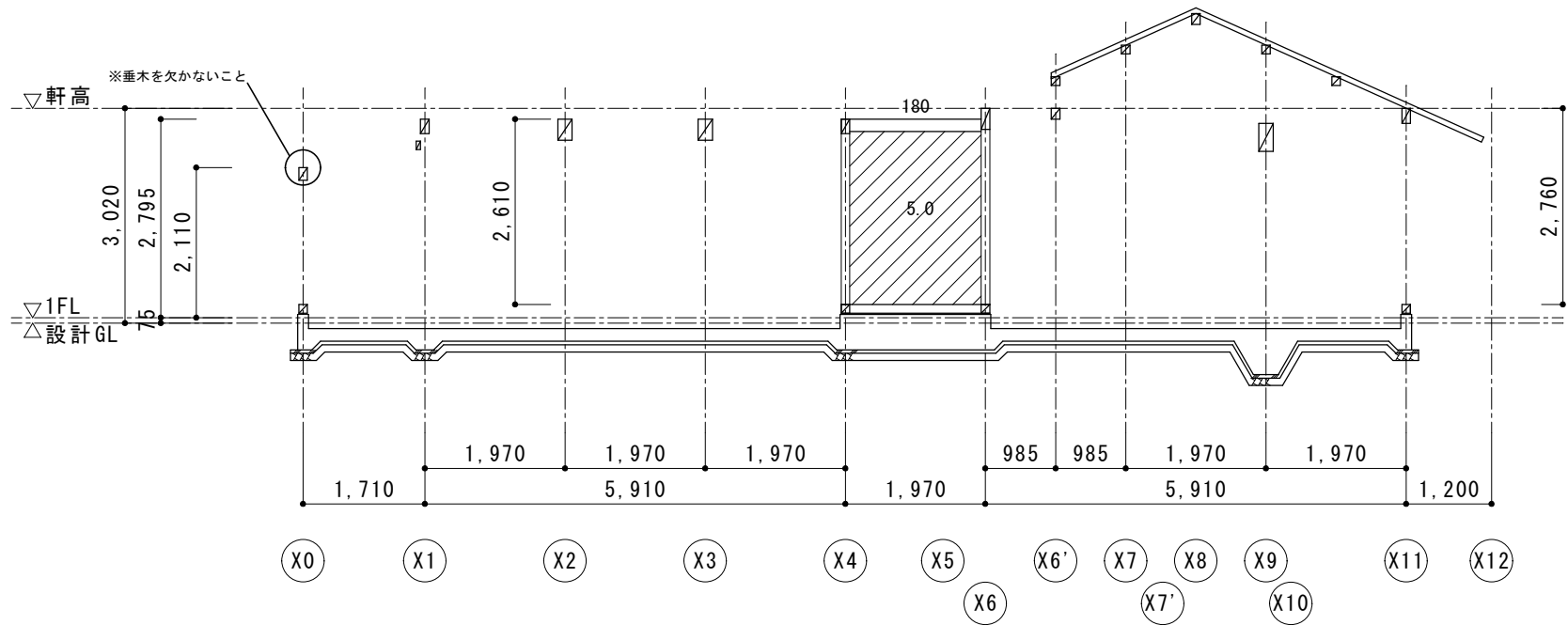


Y2通り 軸組図 1 : 100

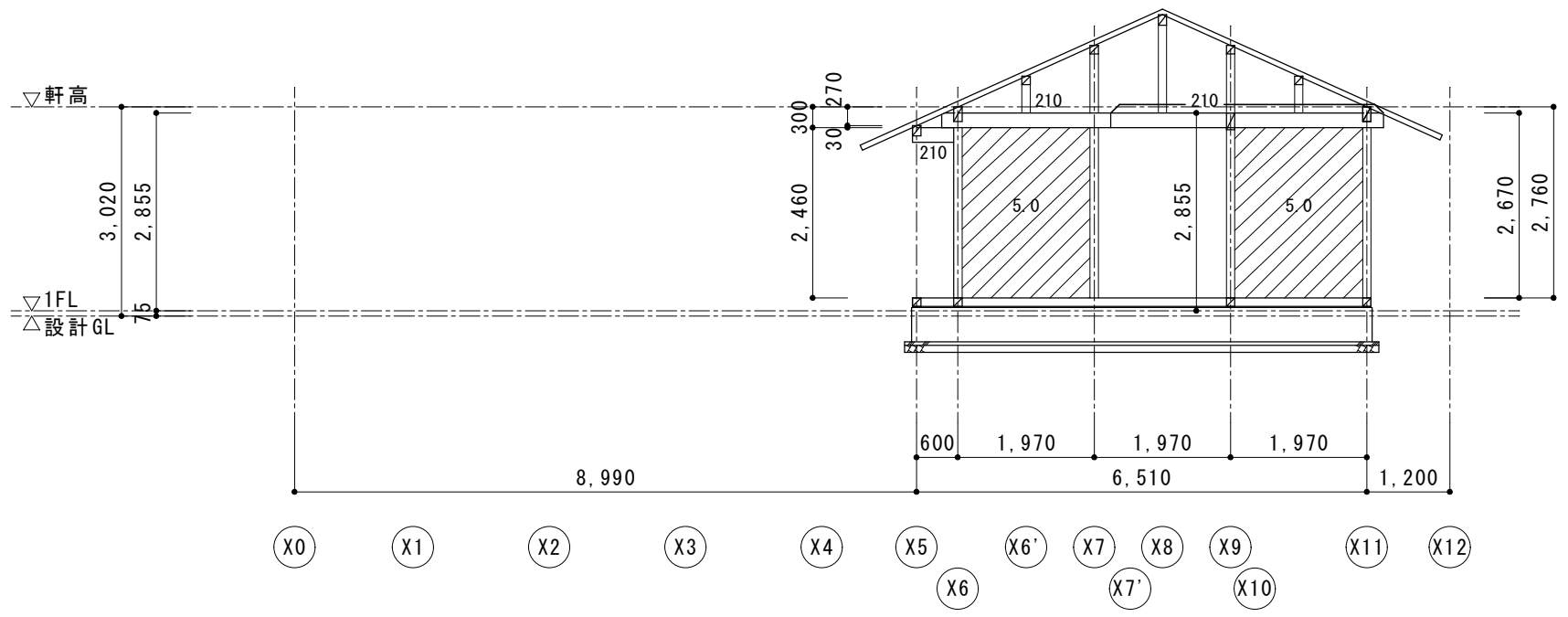


Y3通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下

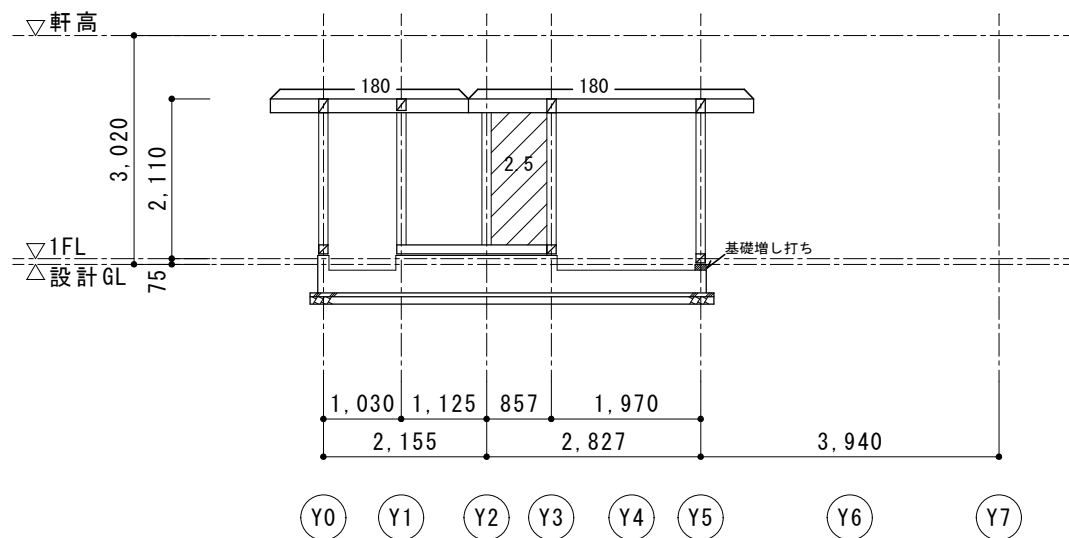


Y4通り 軸組図 1 : 100

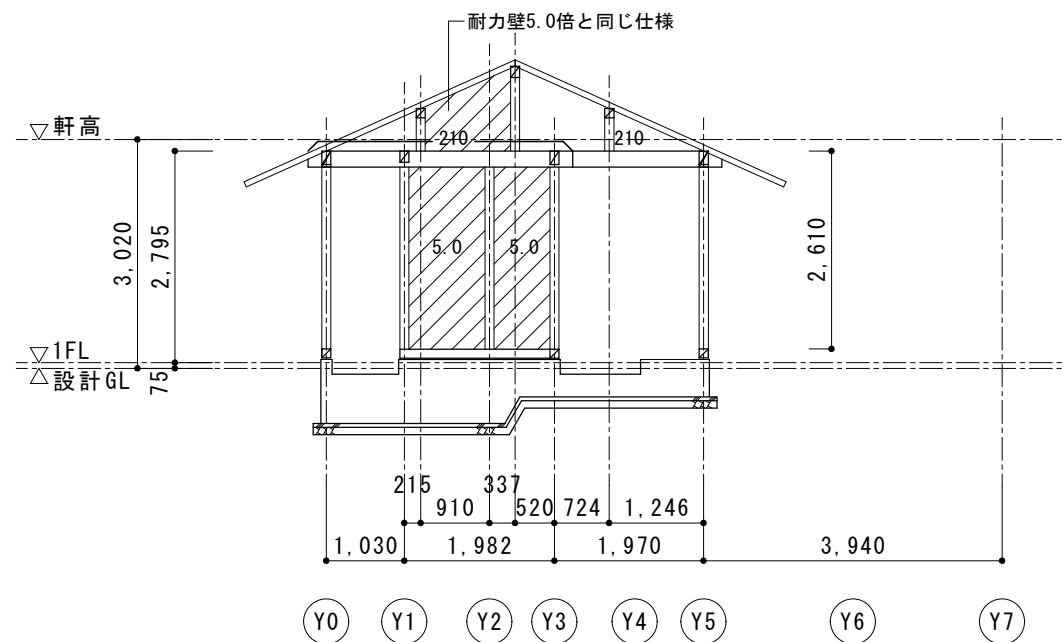


Y7通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下

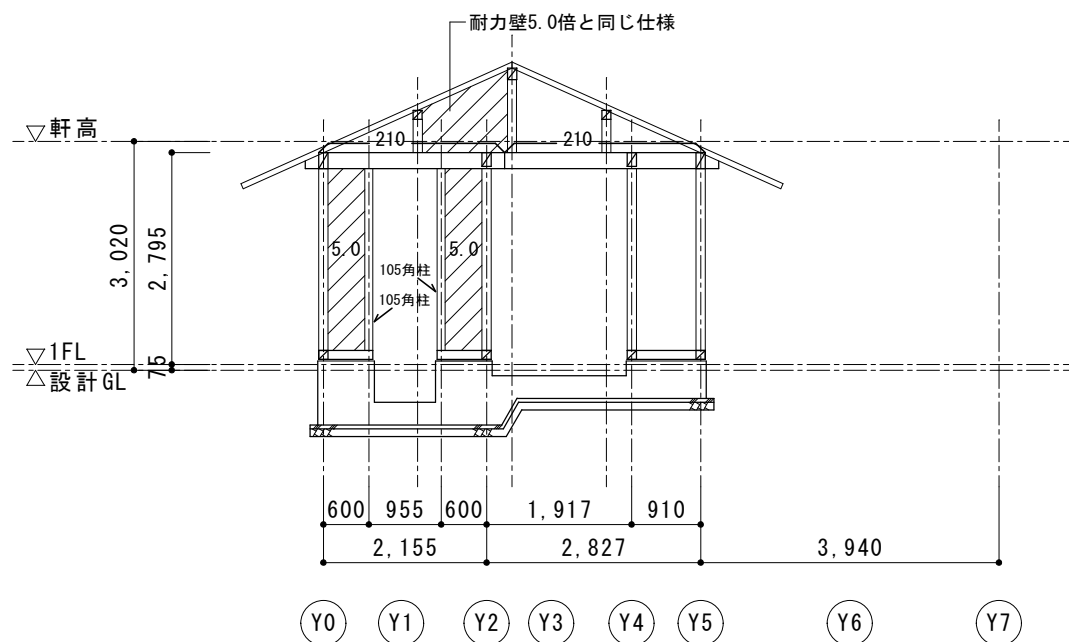


X0通り 軸組図 1 : 100

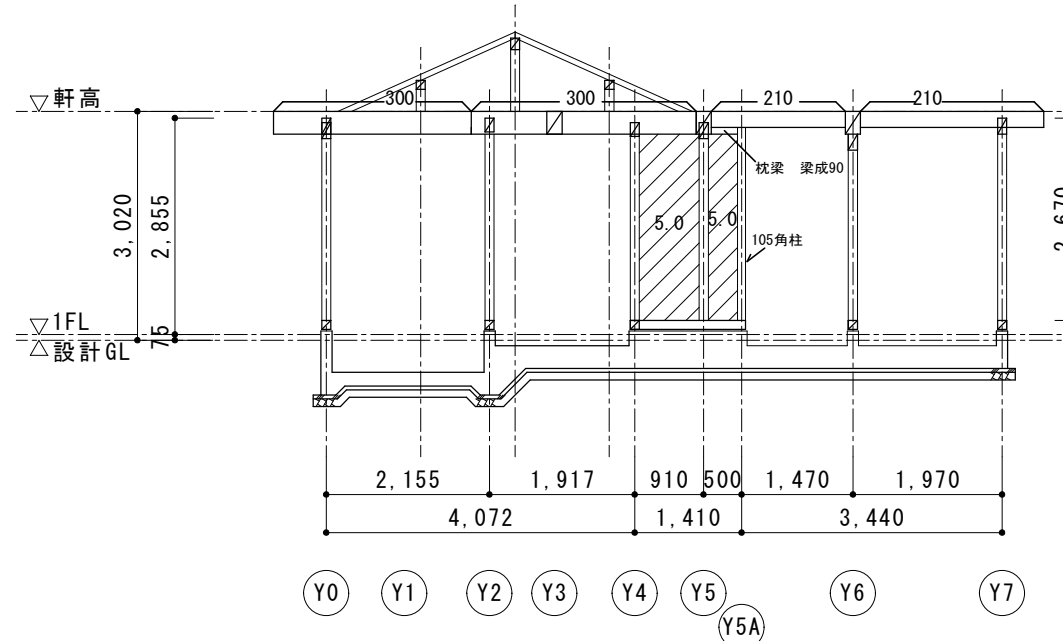


X1通り 軸組図 1 : 100

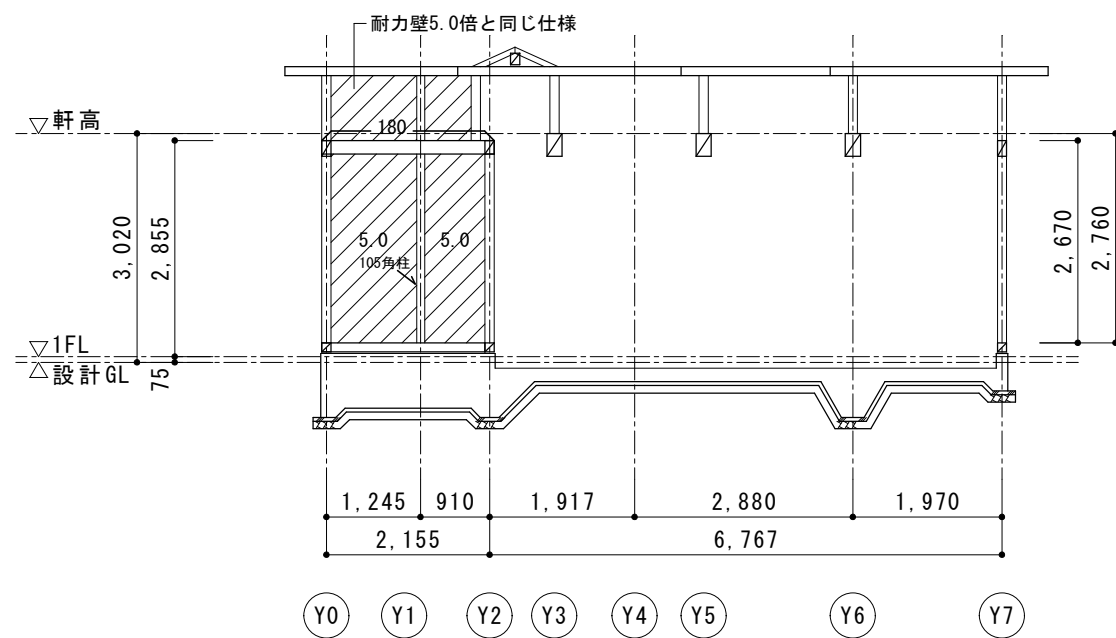
凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下



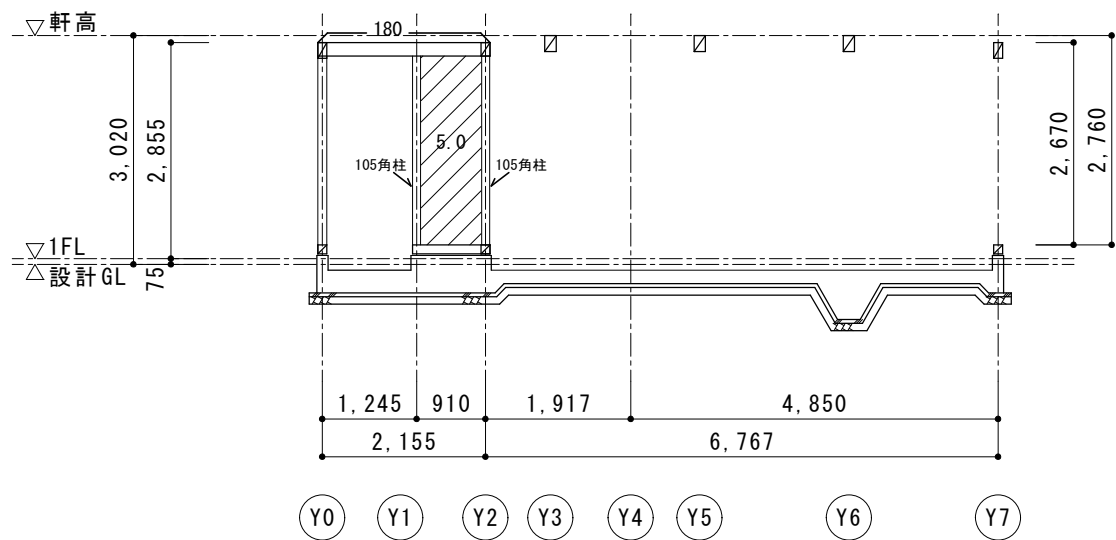
X4通り 軸組図 1 : 100



X6通り 軸組図 1 : 100

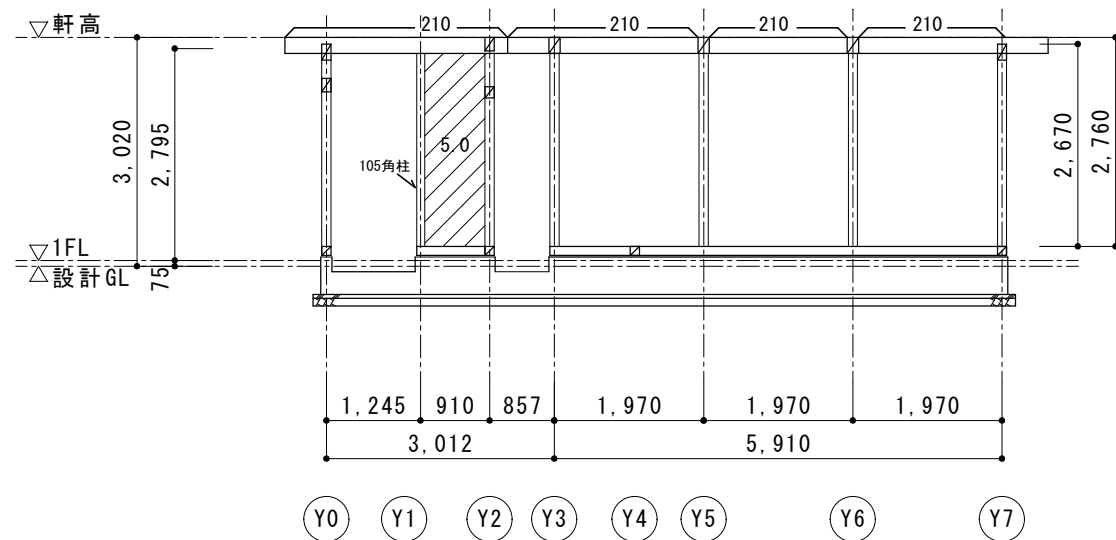


X7通り 軸組図 1 : 100

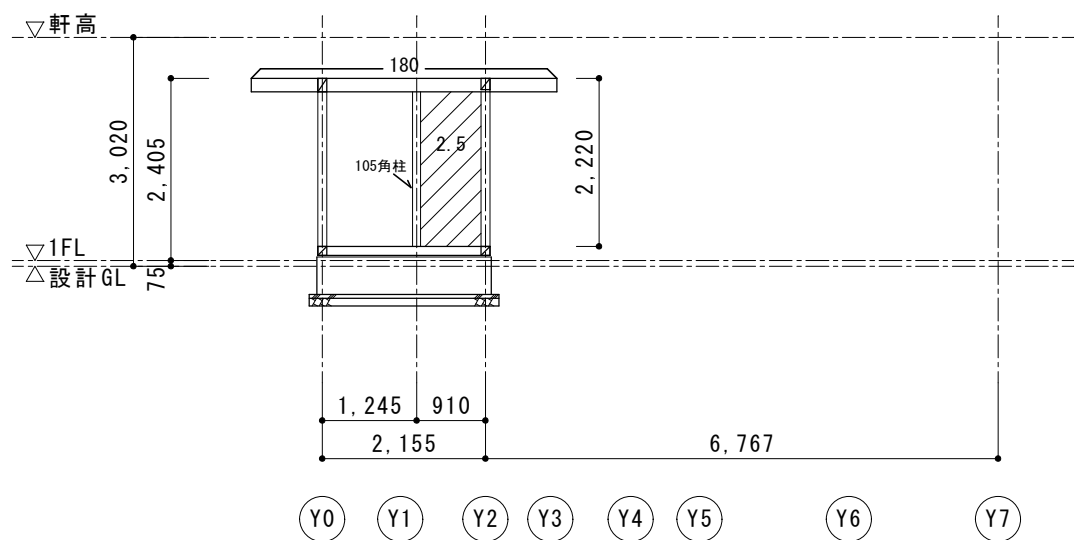


X10通り 軸組図 1 : 100

凡例	昭和56年建設省告示1100号
	構造用合板12mm 釘N50 片面 釘ピッチ 150mm以下
	構造用合板12mm 釘N50 両面 釘ピッチ 150mm以下



X11通り 軸組図 1 : 100



X12通り 軸組図 1 : 100